

緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

図面番号	図面名称	縮尺(A1)	縮尺(A3)	図面番号	図面名称	縮尺(A1)	縮尺(A3)	図面番号	図面名称	縮尺(A1)	縮尺(A3)
A-01	表紙・図面リスト	—	—	P-01	仮設計画図	1/150	1/300				
A-02	特記仕様書-1	—	—								
A-03	特記仕様書-2	—	—								
A-04	特記仕様書-3	—	—								
A-05	特記仕様書-4	—	—								
A-06	特記仕様書-5	—	—								
A-07	特記仕様書-6	—	—								
A-08	特記仕様書-7	—	—								
A-09	特記仕様書-8	—	—								
A-10	特記仕様書-9	—	—								
A-11	特記仕様書-10	—	—								
A-12	配置図	1/500	1/1000								
AT-01	屋外便所 仕上表	—	—								
AT-02	屋外便所 面積表	1/50	1/100								
AT-03	屋外便所 平面詳細図・地下ピット平面図	1/50	1/100								
AT-04	屋外便所 立面図・断面図	1/50	1/100								
AT-05	屋外便所 天井伏図・屋根伏図	1/50	1/100								
AT-06	屋外便所 キープラン・建具表	1/50	1/100								
AT-07	屋外便所 展開図(1)	1/50	1/100								
AT-08	屋外便所 展開図(2)	1/50	1/100								
AT-09	屋外便所 部分詳細図	図示	図示								
AT-10	屋外便所 矩計図	1/30	1/60								
ST-01	屋外便所 構造設計特記仕様書	—	—								
ST-02	屋外トイレ 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	—	—								
ST-03	屋外トイレ 壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	—	—								
ST-04	屋外トイレ 基礎及びピット伏図、1階壁床梁伏図	1/50	1/100								
ST-05	屋外便所 軸組図	1/50	1/100								
ST-06	屋外トイレ 梁断面リスト・床版リスト・雑詳細図	1/30	1/60								
E-01	屋外トイレ 電気設備図	1/50	1/100								
E-02	構内配電線路図	1/250	1/500								

特記事項	変更事項	ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体 一級建築士 第 217345 号 中込 秀	設計年月: 令和3年12月	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
			承認 中込 担当 向山 作 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	表紙・図面リスト	A1: - (A3: -)	A-01

特記仕様書	
1. 本特記仕様書は、本工事における建築関連工事に適用する。	
2. 本特記仕様書における採用事項	
①. 項目欄は番号等に○印を付したものを適用する。	
②. 項目欄に○印を付し特記事項欄に○印を付していない場合は標準仕様書による。	
③. 特記事項は○印を付したものを適用する。但し○印の付かない場合は※印の付した事項を採用する。 ○印と※印を付した場合は共に適用する。	
3. 本特記仕様書に記載なき事項については下記による。	
○国土交通省大臣官房長官営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成28年版	
・国土交通省大臣官房長官営繕部監修 建築物解体工事共通仕様書 平成24年版	
・	
4. その他事項	
・各項目欄の番号(例：1.4 ○○○)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に照合する	
・各項目欄の番号(例：1.* ○○○)は標準仕様書の番号(章番号を除く)に該当しない項目とする	

章	項目	特記事項
1章 一般共通事項	①4 工事実績情報登録	登録：○適用 ・不適用
	①* 建築基準法の風圧	基準風速：○V ₀ =30 (m/s) 平成12年建告第1454号第2
	○積雪に関する規定	地表面粗度区分： ・ I ・ II ○III ・ IV 積雪区分： ・ 区域=(27)／α=0.0005／β=6.26／γ=0.12／R=40 平成12年建告第1445号 別表 ○50cm(甲府市建築基準法施工細則)
	③3 電気保安技術者	技術者の適用：○適用する ・適要しない
	③5 施工条件	施工順序等の制約：○無し ・有り【・現場説明書による ・図示 ・ 工事車両の駐車場所：○図示 ・現場説明書による ・ 資材、機材置場：○図示 ・現場説明書による ・ 発生土仮置場：○図示 ・現場説明書による ・ その他の施工条件： ・図示 ・現場説明書による ・
	③11 発生材の処理等	・発生者への引渡発生材； ・特別管理産業廃棄物； ・リサイクル発生材；
	④* 使用材料	○仮設材以外の全ての建築材料（仕上材、下地材、副資材）のホルムアルデヒド放散量はJIS等の材料規格において放散量が規定されている場合は原則としてF☆☆☆☆とする。但し使用予定材料にF☆☆☆☆が存在しない場合は監督員と協議のうえ決定する。
	⑤9 化学物質の濃度測定	濃度測定：○未実施 ・実施 化学物質濃度を下記のとおり測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し報告すること。 測定対象物質： ・ホルムアルデヒド ・トルエン ・キシレン ・エチルベンゼン ・ステレン ・図示 ・ 測定方法： ・簡易法 ・パッシブ型採取機器 ・測定バッジ； 測定対象室： ・図示 ・ 測定箇所数： ・図示 ・1箇所 ・厚生労働省の標準的測定方法による場合の測定者は、環境計量証明事業所として登録を行っている者、又は作業環境測定事業所の有機溶剤の登録を行っている者とする。
	⑦1 完成時の提出図書	完成図：○必要 ・不要 安全に関する資料： ・必要 ・不要
	⑦2 完成図	提出部数： ※各3部 ・部 種類： ※表1.7.1 ・一般図 ・実施設計図一式 記入内容： ※表1.7.1 ・図示 ・ 提出要領： ○A3原稿2つ折り製本 ・A3版原図（CAD作図による） ○CADデータ ・ 施工計画書： ○監督員の承諾を受けたもの ・ 施工図： ○A3原稿2つ折り製本 ○A3拡縮版第2原図 ・CADデータ ○監督員の承諾を受けたもの ・
⑦3 安全に関する資料	・安全に関する資料 提出部数： ※各2部 ・部	

章	項目	特記事項
2章 仮設工事	③1 監督員事務所、受注者事務所等	監督員事務所の設置： ・必要 ○不要 ◎監督員事務所の規模、設備、備品等 ・（ ）号（会議室（ ）m ² を含む） ・（ ）号に会議室（ ）m ² を加えた規模 ・専用電話 ・兼用FAX ・冷暖房機 ・机 ・椅子 ・書棚 ・検査用具 ・その他； 受注者事務所の設置： ・必要 ・不要 ◎受注者事務所の規模、設備、備品等 ・（ ）号（会議室（ ）m ² を含む） ・（ ）号に会議室（ ）m ² を加えた規模 ・専用電話 ・兼用FAX ・冷暖房機 ・机 ・椅子 ・書棚 ・検査用具 ・その他； 構内既存の施設： ・利用できない ・利用できる【○有償 ・無償】 構内既存の施設： ・利用できない ・利用できる【○有償 ・無償】 ・動力以外利用できる【・有償 ・無償】 種別： ○仮囲い用成型鋼板；H=3.0m、H=2.0m t=1.2mm ・塗装溶融亜鉛メッキ鋼板波板；H=1.8m、t=0.19mm ・ガードフェンス；H=1.8m ○A型バリアード；H=0.8m ・ 塗装： ・単色；片面SOP塗 ・模様； 門扉（施錠付）： 種別 ・シートゲート ○キャスターゲート ・ 形状：○W6.0m×H1.8m(キャスターゲート) ・工事現場からの落下物、飛散物による危害防止は下記又は同等以上の措置をする。 ・防護鉄網 ・防護シート ・防護棚 ・防音シート ・防音バール ・その他；
	③* 工事用水	
	③* 工事電力	
	③* 仮囲い	
	③* 落下物、飛散物等による危害防止	
	3.* 洗車設備	・洗車ビット（幅3m×長さ5m×厚さ20cm 程度の土間コンクリート、給排水設備共） ・洗車装置（高圧洗浄装置程度） ・
	3.* 仮排水	・既設排水溝や排水管、会所等の撤去時には、仮設の排水設備を設け、排水上支障のないようにする。
	②3 埋戻し及び盛土	種別： ・A種 ○B種 ・C種 ・D種 ・搬入まき土（砂礫等の混入のない良質なものとし、水締め、機器による締固めとする） ・現場説明書による ○構外搬出適切処理 ・構内指定場所堆積 ・構内指定場所敷均し ・他現場に搬入（ ） ・ ・指定処分地（ ） ・
	②5 建設発生土の処理	
	3.3 山留めの撤去	・撤去 ・存置 ・
4章 地業工事	①* 地業工事	○本章の事項は構造特記仕様書による
	2.2 試験杭	2. 試験及び報告書 試験杭の位置、本数、載荷荷重： ・図示 ・ 載荷試験： ・水平試験 ・鉛直試験 ・ 試験杭の位置、本数、載荷荷重： ・図示 ・ 試験方法： ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等： ・図示 ・
	2.3 杭の載荷試験	載荷試験： ・平板載荷試験 ・ 試験の位置、載荷荷重： ・図示 ・ 試験方法： ・図示 ・ 試験報告書の記載事項等： ・図示 ・
	2.4 地盤の載荷試験	
	3.1 適用範囲	3. 既製コンクリート杭地業 工法の適用： ・打込み工法(4.3.3) ・セメントミルク工法(4.3.4) ・特定埋設杭工法(4.3.5) ・図示
	3.2 材料	材料の強度等による区分： ・ 杭の寸法、継ぎ手の箇所数、杭先端形状： ・図示 ・

章	項目	特記事項
4章 地業工事	3.3 打込み工法	杭の設計支持力： ・図示 ・ 施工法の種類： ・図示 ・ プレボーリングの掘削深さ及び径： ・図示 ・深さ； m 径； m 試験杭の推定支持力の算定方法： ・図示 ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ： ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・ 支持地盤の位置、種類： ・図示 ・ アースオーガーの支持地盤への掘削深さ： ・図示 ・ 杭の支持地盤への根入れ深さ： ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・ 施工法の種類： ・図示 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・ 支持地盤の位置、種類： ・図示 ・ 杭の継手の工法： ・アーク溶接 ・無溶接継手（工法； ） 杭頭の処理法： ・図示 ・
	3.4 セメントミルク工法	
	3.5 特定埋設杭工法	
	4.1 適用範囲	4. 鋼杭地業 工法の適用： ・打込み工法(4.4.3) ・特定埋設杭工法(4.4.4) ・図示
	4.2 材料	材料の種類： ・SKK400 ・SKK490 ・SHK400 ・SHK490M ・図示 杭の現場継手の工法： ・自動アーク溶接 ・半自動アーク溶接 ・
	5.1 適用範囲	5. 現場打ちコンクリート杭地業 工法の適用： ・アースドリル工法(4.5.4) ・リバーシブル工法(4.5.4) ・オルターシフト工法(4.5.4) ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法(4.5.5) ・拡底杭工法(4.5.5) ・図示
	5.3 材料その他	帯筋の加工、組立： ・図示 ・ 鉄筋の最小かぶり厚さ： ・図示 ・60mm ・mm セメントの種類： ・普通ポルトランドセメント ※高炉セメントB種 ・混合セメント ・図示 コンクリートの設計基準強度： ・Fc=21N/mm ² ・Fc=24N/mm ² ・図示 コンクリートの種別： ・A種 ・B種 ・図示 コンクリートの構造体強度補正值(S)： ・図示 ※3N/mm ² ・ 支持地盤の位置、種類： ・図示 ・ 杭孔壁の超音波測定： ・行なわない ・行う（ ） 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・ 杭の水平方向の位置精度： ・図示 ・100mm以内 ・
	⑥3 砂利及び砂地業	6. 砂利、砂、捨てコンクリート地業等 砂利及び砂地業の厚さ： ○図示 ※60mm ・100mm ・120mm ・150mm ・ 捨てコンクリートの厚さ： ○図示 ※50mm ・mm ・120mm ・150mm ・ 床下防湿層の適用： ・適用しない ○適用する ・図示 床下防湿層の範囲： ○図示 ・
	⑥4 捨てコンクリート地業	
	⑥5 床下防湿層	
5章 鉄筋工事	①* 鉄筋工事	○本章の事項は構造特記仕様書による
	②1 鉄筋	2. 材料 鉄筋の種類： ・SR295 ○SD295A ・SD295B ・SD345 ・SD390 ・図示 ・ 溶接金網の寸法、径： ・φ6x150x150 ・φ6x100x100 ・φ4.5x50x50 ・図示 ・ 継手の種類： ○重ね継手 ・ガス圧接継手 ・機械継手 ・溶接継手 継手の位置： ○図示 ・ 柱主筋の重ね継手長さ： ・40d(50d) ・図示 ・ 梁主筋の重ね継手長さ： ・40d(50d) ・図示 ・ 耐力壁鉄筋の重ね継手長さ： ※40d(50d) ・図示 ・ 先組み工法等の継手の位置： ・図示 ・ 鉄筋の定着長さ： ○標準仕様書表5.3.4による ・図示 ・ 土に接する柱、梁、スラブ及び壁の鉄筋のかぶり厚さ（軽量コンクリートの場合）： ○図示 ・40mm ・50mm ・60mm ・
	2.2 溶接金網	
	③4 継手及び定着	
	③5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	

特記事項	変更事項	ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体 一級建築士 第 217345 号 中込 秀	設計年月： 令和3年12月	工事名称 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	図面名称 特記仕様書(1)	縮尺 A1：NS (A3：NS)	図面番号 A-02
------	------	--	---------------	----------------------------------	------------------	------------------------	--------------

章 項目	特記事項
5章 鉄筋工事	<p>③7 各部配筋 各部の配筋： ①図示 ・</p> <p>4.9 圧接完了後の試験 抜取試験の方法： ※超音波探傷試験 ・引張試験 ・</p> <p>5.2 機械式継手 機械式継手の種類： ・図示 ・</p> <p>5.3 溶接継手 溶接継手の工法： ・図示 ・</p> <p>品質の確認方法： ・図示 ・</p> <p>不良継手部の修正方法： ・図示 ・</p>

6章 コンクリート工事	①* コンクリート工事	①本章の事項は構造特記仕様書による															
	2.1 コンクリートの種類	2. コンクリートの種類及び品質															
	②2 コンクリートの強度	気乾単位容積質量による種類： ①普通コンクリート（下表による） ・図示															
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>設計基準強度 (N/mm2)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・構造躯体（基礎～ 階）</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・構造躯体（ 階～ 階）</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>①構造躯体（詰所基礎等）</td> <td>21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>①捨てコンクリート</td> <td>①18 ・21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考	・構造躯体（基礎～ 階）	30		・構造躯体（ 階～ 階）	24		①構造躯体（詰所基礎等）	21		①捨てコンクリート	①18 ・21	
	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考														
	・構造躯体（基礎～ 階）	30															
	・構造躯体（ 階～ 階）	24															
	①構造躯体（詰所基礎等）	21															
	①捨てコンクリート	①18 ・21															
		<p>コンクリートの要求性能等による種類： ・図示 ・</p> <p>コンクリートの種別： ①Ⅰ類 ・Ⅱ類</p> <p>気乾単位容積質量による種類： ・軽量コンクリート（下表による） ・図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>設計基準強度 (N/mm2)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ルーフバルコニー防水押え</td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・屋上防水押え</td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・浴室防水押え</td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考	・ルーフバルコニー防水押え	・18 ・21		・屋上防水押え	・18 ・21		・浴室防水押え	・18 ・21				
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	備 考															
・ルーフバルコニー防水押え	・18 ・21																
・屋上防水押え	・18 ・21																
・浴室防水押え	・18 ・21																
	<p>コンクリートの要求性能等による種類： ・図示 ・</p> <p>コンクリートの種別： ※Ⅰ類 ・Ⅱ類</p> <p>特殊な要求性能のコンクリートの適用： ・図示 ・</p> <p>大臣認定を受けたコンクリートの適用： ・図示 ・</p>																
②4 ワークリティー及びスランプ	スランプ： ①標準仕様書表6.2.2による ・図示 ・																
②5 構造コンクリートの仕上り	打放し仕上げの種別（合板せき板を用いる場合）																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種別</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・化粧打放し部</td> <td>A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・打放し補修下地部</td> <td>B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>①基礎部</td> <td>C種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	種別	備 考	・化粧打放し部	A種		・打放し補修下地部	B種		①基礎部	C種					
施工部位	種別	備 考															
・化粧打放し部	A種																
・打放し補修下地部	B種																
①基礎部	C種																
③1 コンクリートの材料	<p>3. コンクリートの材料及び調合</p> <p>セメントの種類： ※普通ポルトランドセメントA種 ※混合セメントA種 ・高炉セメントB種 ・フライッシュセメントB種</p> <p>高炉セメントB種の適用箇所： ・図示 ・基礎 ・地中梁 ・</p> <p>フライッシュセメントB種の適用箇所： ・図示 ・</p> <p>骨材の種類： ①JIS A 5308(付属書A)の骨材 ・規定外の骨材：</p> <p>細骨材の種類： ①JIS A 5308(付属書A)の細骨材 ・規定外の細骨材：</p> <p>骨材のアルカリシリカ反応性による区分： ※A ・B</p> <p>混和剤： ・AE剤 ①AE減水剤 ・高性能AE減水剤 ・</p> <p>混和材： ・フライッシュ ・高炉スラグ微粉末 ・膨張剤 ・</p> <p>混和材料の使用法等： ・図示 ①製造メーカー資料に基づき承諾</p>																
6.3 打継ぎ	6. コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め																
8.2 一般事項	<p>8. 型 枠</p> <p>外部に面する打放し仕上げの増打厚さ： ・25mm ・20mm ・15mm ・</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法： ・下表による ・図示 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>位置</th> <th>形状</th> <th>寸法(見付x深さ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・片持ちスラブ</td> <td>・図示</td> <td>・両転び ・片転び</td> <td>20mmx15mm</td> </tr> <tr> <td>・外部開口部廻り</td> <td>・図示</td> <td>・両転び ・片転び</td> <td>15mmx12mm</td> </tr> <tr> <td>・壁タイル張り仕上面</td> <td>・図示</td> <td>・両転び ・片転び</td> <td>15mmx10mm</td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	位置	形状	寸法(見付x深さ)	・片持ちスラブ	・図示	・両転び ・片転び	20mmx15mm	・外部開口部廻り	・図示	・両転び ・片転び	15mmx12mm	・壁タイル張り仕上面	・図示	・両転び ・片転び	15mmx10mm
施工部位	位置	形状	寸法(見付x深さ)														
・片持ちスラブ	・図示	・両転び ・片転び	20mmx15mm														
・外部開口部廻り	・図示	・両転び ・片転び	15mmx12mm														
・壁タイル張り仕上面	・図示	・両転び ・片転び	15mmx10mm														

章 項目	特記事項																																	
6章 コンクリート工事	<p>③3 材 料</p> <p>型枠の材料等： ①下表による ・図示 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種別・厚さ</th> <th>材質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①合板</td> <td>※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm</td> <td>※複 合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm</td> <td>※南洋材</td> </tr> <tr> <td>・床型枠用鋼製デッキプレート</td> <td></td> <td>・針葉材</td> </tr> </tbody> </table> <p>鋼材の形状及び寸法： ・図示 ・</p> <p>断熱材を兼用した型枠材： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 】</p> <p>MCR工法： ・適用する【適用箇所： ・図示 ・ 】</p> <p>スリーブ： ※標準仕様書6.9.3(i)による ・図示</p> <p>・硬質塩化ビニル管 ・溶融亜鉛めっき鋼管 ・鋼管 ・つば付き鋼管</p> <p>スリーブ： ・つば付き鋼管 ・紙チューブ</p> <p>10. 軽量コンクリート</p> <p>土に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 】</p> <p>水に接する軽量コンクリートの使用： ・使用する【使用箇所： ・図示 ・ 】</p> <p>軽量コンクリート種類： ・下表による ・図示 ・</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種類</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ルーバルコニー防水押え</td> <td>・1種 ・2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・屋上防水押え</td> <td>・1種 ・2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・浴室防水押え</td> <td>・1種 ・2種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>10.2 材料及び調合</p> <p>所要スランプ： ※21cm以下 ・18cm以下 ・図示 ・</p> <p>11. 寒中コンクリート</p> <p>適用期間： ・図示 ・11月 日～4月 日まで</p> <p>積算温度の採用： ・採用する ・採用しない</p> <p>12. 暑中コンクリート</p> <p>構造体強度補正値(S)： ※6 N/mm ・</p> <p>13. マスコンクリート</p> <p>セメントの種類： ・中庸熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライッシュセメントB種 ・混合セメント</p> <p>混合セメントの混和材： ・フライッシュ【・Ⅰ種 ・Ⅱ種】</p> <p>・高炉スラグ微粉末(4000)</p> <p>所要スランプ： ・8cm以下 ・12cm以下 ※15cm以下 ・</p> <p>14. 無筋コンクリート</p> <p>適用箇所： ※標準仕様書6.14.1(d)による ・下表による ・図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>設計基準強度 (N/mm2)</th> <th>スランプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・バルコニー防水押え</td> <td>・18 ・21</td> <td>※15以下 ※18以下</td> </tr> <tr> <td>・浴室防水押え</td> <td>・18 ・21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>15. 流動化コンクリート</p> <p>流動化コンクリートの適用： ・適用する【使用箇所： ・図示 ・ 】</p>	種類	種別・厚さ	材質	①合板	※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm	※複 合		・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材	・床型枠用鋼製デッキプレート		・針葉材	施工部位	種類	備 考	・ルーバルコニー防水押え	・1種 ・2種		・屋上防水押え	・1種 ・2種		・浴室防水押え	・1種 ・2種		施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	スランプ	・バルコニー防水押え	・18 ・21	※15以下 ※18以下	・浴室防水押え	・18 ・21	
種類	種別・厚さ	材質																																
①合板	※「コンクリート型枠用合板のJAS」・12mm	※複 合																																
	・「コンクリート型枠用合板のJAS」・15mm	※南洋材																																
・床型枠用鋼製デッキプレート		・針葉材																																
施工部位	種類	備 考																																
・ルーバルコニー防水押え	・1種 ・2種																																	
・屋上防水押え	・1種 ・2種																																	
・浴室防水押え	・1種 ・2種																																	
施工部位	設計基準強度 (N/mm2)	スランプ																																
・バルコニー防水押え	・18 ・21	※15以下 ※18以下																																
・浴室防水押え	・18 ・21																																	
7章 鉄骨工事	<p>①* 鉄骨工事</p> <p>1.3 鉄骨製作工場</p> <p>・本章の事項は構造特記仕様書による</p> <p>製作工場のグレードは下記同等以上で大臣認定された工場とする：</p> <p>・Sグレード ・Hグレード ・Mグレード ・Rグレード ・Jグレード</p> <p>施工監理技術者： ・適用する ・適用しない</p> <p>2. 材 料</p> <p>鋼材の材質： ・下表による ・図示</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>材質（種類の記号）</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・構造躯体</td> <td>SS400/STKR400/BCR295</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・構造躯体（ 階～ 階）</td> <td>SN400A SN400C</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・構造躯体（ 階～ 階）</td> <td>SM490A SSC400</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2.1 鋼 材</p>	施工部位	材質（種類の記号）	備 考	・構造躯体	SS400/STKR400/BCR295		・構造躯体（ 階～ 階）	SN400A SN400C		・構造躯体（ 階～ 階）	SM490A SSC400																						
施工部位	材質（種類の記号）	備 考																																
・構造躯体	SS400/STKR400/BCR295																																	
・構造躯体（ 階～ 階）	SN400A SN400C																																	
・構造躯体（ 階～ 階）	SM490A SSC400																																	

章 項目	特記事項																
7章 鉄骨工事	<p>2.2 高力ボルト</p> <p>種類： ・トルネア型高力ボルト2種(S10T) ・JISの高力ボルト2種(F10T)</p> <p>・溶融亜鉛めっき高力ボルト1種(F8T相当)</p> <p>高力ボルトの径： ・図示 ・</p> <p>2.3 普通ボルト</p> <p>普通ボルトの材料等： ※標準仕様書表7.2.3による ・</p> <p>普通ボルトの径： ・図示 ・</p> <p>2.4 アンカーボルト</p> <p>構造用アンカーボルトの材質： ・図示 ・SNR400A ・SNR400B ・SNR490B</p> <p>建方用アンカーボルトの材質： ・図示 ・SS400 ・SS490 ・SS540</p> <p>ねじの種類、等級の規格及び仕上げの程度： ※標準仕様書表7.2.3による ・</p> <p>溶接棒等(標準仕様書表7.2.4)及びガス以外の溶接材料： ・図示 ・</p> <p>種類： ※建築用ターナッカル(胴;割枠式、ボルト;羽子板ボルト) ・図示 ・</p> <p>ねじの呼び等： ・図示 ・</p> <p>2.5 溶接材料</p> <p>2.6 ターナッカル</p> <p>2.7 デッキプレート</p> <p>構造床として使用するデッキプレートの材質、形状、寸法等： ・図示 ・</p> <p>合成スラブとして使用するデッキプレートの材質、形状、寸法等： ・図示 ・</p> <p>床型枠用鋼製デッキプレート： 標準仕様書6.9.3(c)による</p> <p>その他のデッキプレートの材質、形状、寸法等： ・図示 ・</p> <p>2.8 レール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>規格番号</th> <th>形状、寸法</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・天井クレーン走行用</td> <td>JIS E 1101</td> <td></td> <td>・形状、寸法は図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>JIS E 1102</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>JIS B 1251</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>②9 柱底均しモルタル</p> <p>モルタルの種類： ・図示 ・無収縮モルタル ・リベラー(セルフレベリング)</p> <p>無収縮モルタルの調合： ※標準仕様書7.2.9(b)(1)～(4)による ・図示 ・</p> <p>引張りを受ける鋼板の試験： ・適用する ・適用しない ・図示 ・</p> <p>3. 工作一般</p> <p>現寸図は必要に応じて作成する</p> <p>高力ボルト、普通ボルト、アンカーボルトのヘリ、ピッチ、ゲージ等：</p> <p>・鉄骨工作標準図による又、同図面に記載なき事項は国土交通大臣官房官庁営繕部「建築鉄骨設計基準及び同解説」による鉄骨設計基準図による。</p> <p>・図示 ・</p> <p>3.10 仮 組</p> <p>仮組の実施： ・行わない ・行う</p> <p>4. 高力ボルト接合</p> <p>すべり係数試験の実施： ・行わない ・行う</p> <p>処理</p> <p>試験の方法、試験片の摩擦面の状態： ・図示 ・</p> <p>4.7 締付け</p> <p>ボルト長さがねじの呼びの5倍をJIS型ボルトのナット回転法の回転量： ・120° ・</p> <p>6. 溶接接合</p> <p>溶接技能者の技量付加試験： ・行わない ・行う</p> <p>開先の形状： ・図示 ・</p> <p>6.7 溶接施工</p> <p>エンドタブの切除の有無： ・無し ・有り【切除の適用箇所： ・図示 ・ 】</p> <p>スカラップの形状： ・図示 ・</p> <p>6.11 溶接部の試験</p> <p>完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験： ・適用する ・適用しない</p> <p>◎工場溶接の場合</p> <p>製作工場の社内検査： ・行わない ※行う（全数検査を行い試験結果報告書を提出）</p> <p>第三者機関による検査： ※行う ・行わない</p> <p>A O Q L： ・2.5% ※4.0%</p> <p>検査水準： ・第1水準 ・第2水準 ・第3水準 ・第4水準 ・第5水準 ※第6水準</p> <p>◎工事現場溶接の場合</p> <p>第三者機関による検査： ※行う ・行わない</p> <p>A O Q L： ・2.5% ※4.0%</p> <p>7. スタッド溶接及びデッキプレート溶接</p> <p>デッキプレートと鉄骨の溶接方法： ・図示 ・</p> <p>8. 錆止め塗装</p> <p>S R C造の鋼製スリーブ（鉄骨に溶接されたもの）の内面：</p> <p>・図示 ・標準仕様書 表18.3.1【※A種 ・B種 ・C種】 ・</p>	施工部位	規格番号	形状、寸法	備 考	・天井クレーン走行用	JIS E 1101		・形状、寸法は図示		JIS E 1102				JIS B 1251		
施工部位	規格番号	形状、寸法	備 考														
・天井クレーン走行用	JIS E 1101		・形状、寸法は図示														
	JIS E 1102																
	JIS B 1251																
2.3 普通ボルト	普通ボルトの材料等： ※標準仕様書表7.2.3による ・																
2.4 アンカーボルト	構造用アンカーボルトの材質： ・図示 ・SNR400A ・SNR400B ・SNR490B																
2.5 溶接材料	溶接棒等(標準仕様書表7.2.4)及びガス以外の溶接材料： ・図示 ・																
2.6 ターナッカル	種類： ※建築用ターナッカル(胴;割枠式、ボルト;羽子板ボルト) ・図示 ・																
2.7 デッキプレート	構造床として使用するデッキプレートの材質、形状、寸法等： ・図示 ・																
2.8 レール	レールの規格、形状、寸法等： ・下表による ・図示 ・																
②9 柱底均しモルタル	モルタルの種類： ・図示 ・無収縮モルタル ・リベラー(セルフレベリング)																
2.10 材料試験等	引張りを受ける鋼板の試験： ・適用する ・適用しない ・図示 ・																
3.2 工作図	現寸図は必要に応じて作成する																
3.10 仮 組	仮組の実施： ・行わない ・行う																
4.2 摩擦面の性能及び処理	すべり係数試験の実施： ・行わない ・行う																
4.7 締付け	ボルト長さがねじの呼びの5倍をJIS型ボルトのナット回転法の回転量： ・120° ・																
6.3 溶接技能者	溶接技能者の技量付加試験： ・行わない ・行う																
6.4 材料準備	開先の形状： ・図示 ・																
6.7 溶接施工	エンドタブの切除の有無： ・無し ・有り【切除の適用箇所： ・図示 ・ 】																
6.11 溶接部の試験	完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験： ・適用する ・適用しない																
7.8 デッキプレートの溶接	デッキプレートと鉄骨の溶接方法： ・図示 ・																
8.3 塗料の種類	錆止め塗装																

特記事項	変更事項	設計年月： 令和3年12月	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
		承認 中込 担当 向山 作 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	特記仕様書(2)	A1：NS (A3：NS)	A-03
ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体		一級建築士 第 217345 号 中込 秀				

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項				
7章 鉄骨工事	8.3 塗料の種類	耐火被覆材の接着面： ・図示 ・標準仕様書 表18.3.1【・A種 ・B種 ・C種】 ・	9章 防水工事	①* 防水工事の保証書の提出、保証年限	・保証書（請負人、材料製造所、防水施工者の連帯保証）は各2通提出すること。 ・防水施工者は、防水材料製造所指定の施工者とし、監督員の承諾を受ける。	9章 防水工事	2.4 施工	立上りコンクリートの仕上の種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・ 防水立上り端部押さえ金物： ・使用する ・使用しない 立上り部の保護： ・コンクリート押え ・れんが押え ・モルタル押え ・乾式保護材 ・7ℓ水切り金物押え 伸縮調整目地： ・図示 ・ 屋上排水溝： ・適用 ・適用しない				
	9.2 耐火被覆の種類及び性能	耐火被覆材の種類及び性能： ※図示 ・		保証書提出工事	保証箇所		保証年限	2.5 保護層等の施工	3. 改質アスファルトシート防水 改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： ※標準仕様書表9.3.1～9.3.3による ・図示 ・ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： ◎屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材 材質： ※標準仕様書9.3.2(c)(2) ・ 厚さ： ・50mm ・35mm ・図示 ※標準仕様書表9.3.1～9.3.3による ・図示 ・			
	⑩3 アーカーボルト等の設置	10. 工事現場施工 構造用アンカーボルトの適用： ・適用する ・適用しない 建方用アンカーボルトの適用： ・適用する ・適用しない 構造用アンカーボルトの形状及び寸法： ・図示 ・ 構造用アンカーフレームの形状及び寸法： ・図示 ・ アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別： ・A種 ・B種 ・C種 柱底均しモルタルの厚さ： ・図示 ・ 柱底均しモルタルの工法の種別： ※A種 ・B種		・7スファルト防水	屋根（保護用）		※10年 ・年	3.2 材料	◎屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材 材質： ※標準仕様書9.3.2(c)(2) ・ 厚さ： ・50mm ・35mm ・図示 ※標準仕様書表9.3.1～9.3.3による ・図示 ・			
	11.2 施工	11. 軽量形鋼構造 ボルトの接合方法： ・図示 ・ 12. 溶融亜鉛めっき 摩擦面の処理： ・ブラスト処理 ・りん酸塩処理等 りん酸塩処理等の場合の摩擦面のすべり耐力等の確認方法： ・図示 ・		・改質7スファルトシート防水	屋根（露出用）		※10年 ・年			2.3 防水層の種類、種別及び工程	種 類	種 別
	12.4 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合			・合成高分子ルーフィング 防水	浴室・便所		※10年 ・年	2.4 材料	・露出防水密着			
				・塗膜防水	地下室・貯水槽		※10年 ・年			4.2 材料	◎固定金具 材質： ※防錆処理鋼板 ※ステンレス鋼板 ※樹脂被覆鋼板 厚さ： ・0.4mm以上 ・0.8mm以上 ・ ◎断熱工法の断熱材 材質： ※標準仕様書9.4.2(3) ・ 厚さ： ・50mm ・35mm ・図示 絶縁シートの種類及び厚さ： ※標準仕様書表9.4.1及び9.4.2による ・図示 ・	種 別
				水張り試験： ◎行う ・行わない 試験箇所： ・3階屋上部分、階段室2（R階部分） 試験方法： ※ドレイン廻りをルーフィング類やウエス類で仮の蓋をし、防水層の立上り端部を越えないように水を張り、24時間以上そのままにしておいた後、周辺や階下への漏れの有無を確認する。			※10年 ・年	4.3 防水層の種類、種別及び工程	・S-F1 ◎S-F2			
				2. アスファルト防水 改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： ※標準仕様書表9.2.3～9.2.8による ・図示 ・ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングの種類及び厚さ： ※標準仕様書表9.2.5～9.2.8による ・図示 ・ ◎屋根保護防水断熱工法の断熱材 材質： ※標準仕様書9.2.2(h) ・ 厚さ： ・35mm ・25mm ・図示 ◎屋根露出防水断熱工法の断熱材 材質： ※標準仕様書9.2.2(i) ・ 厚さ： ・50mm ・35mm ・図示 ◎絶縁用シート 材質（保護防水工法）： ※※ポリエチレンフィルム；t=0.15mm以上 ・ 材質（保護防水断熱工法）： ※フラットヤークロス(70g/㎡程度) ・			※10年 ・年			4.4 施工	・S-M1 ・S-M1 ・S-M3	※1.5 ※1.2 ・
				2.2 材料			※10年 ・年	5.3 防水層の種類、種別及び工程	・SI-M1			
					2.3 防水層の種類、種別及び工程					5.4 施工	・S-C1	※1.0 ・
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		
					5.5 溝掘り及び開口部の処置							
										5.2 材料		
					5.3 外壁パネル工法							
										5.4 間仕切りパネル工法		

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																																																												
9章 防水工事	5.3 防水層の種類、 種別及び工程	◎脱気装置 種類：※製造メーカー指定 設置数量：※製造メーカー指定 保護層：・設置する ・設置しない	10章 石工事	3.2 材 料	ドレンパイプ： ・SUS304パイプ ・硬質塩ビパイプ ・ 金物固定充填材： ※標準仕様書による ・	11章 タイル工事	2.2 材 料	◎タイルの役物 使用箇所： ・出隅 ・入隅 ・幅木 ・まぐさ ・窓台 製造方法： ・接着成型品 ・一体成型品 タイルの見本焼き： ・行う ・行わない タイルの試験張り： ・行う ・行わない																																																												
	6.1 適用範囲	6. ケイ酸質系塗布防水			3. 外壁湿式工法 石材の厚さ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 裏打ち処理： ・行う ・行わない 下地ごしらえ： ※標準仕様書による ・ 目地幅： ・図示 ※6mm以上 ・ 伸縮目地位置： ・図示 ※標準仕様書による ・ 伸縮目地寸法： ・図示 ※標準仕様書による ・15mm ・20mm ・		2.7 施 工	◎壁タイル張り 内装タイルの工法： ・改良積上げ張り ・ 外装タイルの工法： ・密着張り ・改良積上張り ・改良圧着張り 内装以外のユニットタイルの工法： ・マスク張り ・モザイクタイル張り																																																												
	6.2 材 料	部 位 種 別 施工箇所 ・背面水圧側 ・C-UI ・C-UP ・図示 ・地下外壁 ・地下床 ・ピット ・水圧側 ・C-UI ・C-UP ・図示 ・地下外壁 ・水槽 ・ピット			4.2 材 料		4. 内壁空積工法 石材の厚さ： ・図示 ※20mm以上 ・13mm ・ 裏打ち処理： ・行う ・行わない	3.2 材 料	3. 接着剤による陶磁器質タイル張り タイルの種類等： ・図示 ・下表による ・																																																											
	6.4 施 工	下地処理： ・			4.3 施 工		下地ごしらえ： ※あと施工アーク・横筋流し工法 ・あと施工アーク工法 ・	3.2 材 料	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形式・形状寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">用途による 区分</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th colspan="2">色</th> <th colspan="2">釉薬</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>施釉</th> <th>無釉</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	形式・形状寸法 (mm)	用途による 区分	耐凍害性		色		釉薬		備 考	有	無	標準	特注	施釉	無釉				・	・	・	・	・	・					・	・	・	・	・	・					・	・	・	・	・	・														
	施工箇所	形式・形状寸法 (mm)			用途による 区分		耐凍害性						色		釉薬		備 考																																																			
							有	無	標準	特注	施釉	無釉																																																								
							・	・	・	・	・	・																																																								
							・	・	・	・	・	・																																																								
							・	・	・	・	・	・																																																								
	⑦* 保証年限	⑦ シーリング シーリング保証書： ①提出する ・提出しない ②保証書（請負人、材料製造所、シーリング施工者連帯保証）は各2通提出すること。 ノンブリードタイプシーリング材の適用： ※使用する ③使用しない 施工箇所： ・ボリルトン系シーリングで仕上げありの部位 ・			5.2 材 料		5. 乾式工法 石材の厚さ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ ダボアナの位置： ※標準仕様書による ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 裏打ち処理： ・行う ・行わない	3.7 施 工	◎タイルの役物 使用箇所： ・出隅 ・入隅 ・幅木 ・まぐさ ・窓台 製造方法： ・接着成型品 ・一体成型品 タイルの見本焼き： ・行う ・行わない タイルの試験張り： ・行う ・行わない モルタル塗りコンクリート素地面： ・素肌 ・MCR工法 ・目荒し工法（高圧水洗） ◎壁タイル張り 内装タイルの工法： ・内装タイル接着剤張り ・ 外装タイルの工法： ・外装タイル接着剤張り ・ 内装以外のユニットタイルの工法： ・外装タイル接着剤張り ・																																																											
⑦2 材 料	⑦5 シーリング材の試験	5.3 施 工	外壁に採用する場合の工法： ・ 目地幅： ・図示 ※8mm以上 ・	4.2 材 料	4. 陶磁器質タイル型枠先付け タイルの種類等： ・図示 ・下表による ・																																																															
10章 石工事	1.3 施工一般	1. 一般事項 ※湿式工法の場合、気温2℃以下になるおそれのある場合は施工してはならない 石材の割付け： ※標準仕様書による ・ 粗面仕上げの見え隠れ部分の仕上げ： ・ひき肌 ・水磨き ・本磨き ・ ワックス材の使用： ・使用する ・使用しない	11章 タイル工事	6.2 床の石張り 石材の厚さ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 目地幅： ・図示 ※標準仕様書による ・ねむり目地～3mm	7.1 適用範囲 取付け工法： ・図示 ・外壁湿式工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法 ・	12章 木工事	4.3 タイル型枠先付 の種類	◎タイルの役物 使用箇所： ・出隅 ・入隅 ・幅木 ・まぐさ ・窓台 製造方法： ・接着成型品 ・一体成型品 タイルの見本焼き： ・行う ・行わない タイルの試験張り： ・行う ・行わない タイル型枠のせき板材料： ※標準仕様書による ・ 小口タイル： ・タイルシート法 ・目地樹法 ・ 二丁掛タイル： ・タイルシート法 ・目地樹法 ・ 大形タイル： ・積木法 ・																																																												
	1.5 清 掃	2. 材 料 ◎天然石 石材の品質（床用石材）： ・1等品 ※2等品 ・ 石材の品質（壁及びその他の石材）： ※1等品 ・2等品 ・ 石材の種類、表面仕上げ等： ・図示 ・ 石材の形状、寸法等： ・図示 ※標準仕様書による ・ ◎テラゾ 種石の種類： ※大理石の類 ・花崗岩の類 ・ 種石の大きさ： ※1.5mm～12mm ・12mm以下 ・6mm以下 ・ 形状、寸法： ※図示 ・ 仕上面の区分： ・本磨き ・水磨き ・粗磨き ・ 外壁湿式工法、内壁空積工法用金物： ※標準仕様書による ・ ◎特殊部位用金物 引き金物、受け金物等： ※標準仕様書による ファスナー： ※標準仕様書による ・ 吊り金物： ※標準仕様書による ・ 化粧吊り金物： ※標準仕様書による ・ アンカー金物： ※標準仕様書による ・ その他金物： ※標準仕様書による ・							6.3 階段の石張り 石材の厚さ： ・図示 ※25mm以上 ・13mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない	7.2 アーチ、上裏等の石張り 石材の厚さ： ・図示 ・25mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 裏打ち処理： ・行う ・行わない 目地幅： ・図示 ※6mm以上 ・ 伸縮目地の位置： ・図示 ※標準仕様書による ・	4.3 タイル型枠先付 の種類	1. 一般事項 見え掛り面の表面仕上げの適用箇所、種類： ・図示 ・下表による																																																								
	2.1 石 材	2.2 取付け金物							7.3 笠木、甲板等の石張り 石材の厚さ： ・図示 ・25mm ・ 石裏面処理： ・行う ・行わない 乾式工法取付け代： ・図示 ※標準仕様書による ・ 石裏面の補強用モルタル： ・適用する ・適用しない	7.4 隔て板 石材の厚さ： ・図示 ※40mm ・	1.4 表面仕上げ (詰所)	適用箇所 種 類 ・開口部額縁 ・建具枠 ・笠木 ・A種 ・B種 ・C種 ・ブラインドボックス ・カーテンボックス ・A種 ・B種 ・C種 ・飾り柱 ・格子 ・カンガ-天板 ・衝立 ・A種 ・B種 ・C種 ・棚板 ・A種 ・B種 ・C種 ・梯子 ・A種 ・B種 ・C種																																																								
	2.2 取付け金物	◎特殊部位用金物 引き金物、受け金物等： ※標準仕様書による ファスナー： ※標準仕様書による ・ 吊り金物： ※標準仕様書による ・ 化粧吊り金物： ※標準仕様書による ・ アンカー金物： ※標準仕様書による ・ その他金物： ※標準仕様書による ・							7.4 隔て板 石材の厚さ： ・図示 ※40mm ・	2.2 材 料	② セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り タイルの種類等： ・図示 ③下表による ・	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形式・形状寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">用途による 区分</th> <th colspan="2">耐凍害性</th> <th colspan="2">色</th> <th colspan="2">釉薬</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>施釉</th> <th>無釉</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床</td> <td>I 類 300×300</td> <td>外装床タイル</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	形式・形状寸法 (mm)	用途による 区分	耐凍害性		色		釉薬		備 考	有	無	標準	特注	施釉	無釉	床	I 類 300×300	外装床タイル	○	・	○	・	・	○					・	・	・	・	・	・					・	・	・	・	・	・					・	・	・	・	・	・	
	施工箇所	形式・形状寸法 (mm)							用途による 区分	耐凍害性						色		釉薬		備 考																																																
										有	無	標準	特注	施釉	無釉																																																					
	床	I 類 300×300							外装床タイル	○	・	○	・	・	○																																																					
										・	・	・	・	・	・																																																					
										・	・	・	・	・	・																																																					
										・	・	・	・	・	・																																																					
2.3 その他材料	取付用モルタル： ※標準仕様書による ・ 目地用モルタル： ※標準仕様書による ・ 石裏面処理材： ※標準仕様書による ・ 裏打ち処理材： ※標準仕様書による ・																																																																			

特記事項	変更事項	設計年月： 令和3年12月	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
		承認 中込 担当 向山 作 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	特記仕様書(4)	A1：NS (A3：NS)	A-05
ダイナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体		一級建築士 第 217345 号 中込 秀				

章	項目	特記事項						
12章 木工事	2. 材 料	2. 材 料 木材（下地材）の含水率： ※A種 ・B種 木材（造作材）の含水率： ※A種 ・B種 代用樹種を適用しない箇所： ・ ◎製材						
	2.1 木 材	◇JASによる下地用針葉樹製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・						
		使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考
	全般		桧	・1級	SD15	サグー	なし	
			杉	※2級	SD20	サグー	なし	
					D15	プレーナ	なし	
					D20	プレーナ	なし	
		◇JASによる造作用針葉樹製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・						
		使用部位	樹種	化粧等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考
	窓枠		ナ	無節	SD15	サグー	なし	
	床仕上げ板		杉	※上小節	SD18	サグー	なし	
	カーボックス		桧	※小節	D15	プレーナ	なし	
段板			並	D18	プレーナ	なし		
巾木								
	◇JASによる広葉樹製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	樹種	区分等級	含水率	仕上げ	防腐防蟻処理	備 考	
全般		ナ	特等	D10	サグー	なし		
		ナ	※1等	D13	プレーナ	なし		
			2等			なし		
	◇JAS以外の製材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	樹種	材面の品質	含水率	寸法	防腐防蟻処理	備 考	
		桧	※A種	15%	図示			
		杉	B種	18%	図示			
		松		20%				
	◎造作用集成材							
	◇JASによる造作用集成材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	仕上げ	樹種	見付材	区分等級	備 考		
		仕上有		面	品質	1等		
		未仕上		面	品質	2等		
		塗装		4面				
	◇JASによる化粧ばり造作用集成材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	仕上げ	樹種	見付材	区分等級	備 考		
		仕上有		面	品質	1等		
		未仕上		面	品質	2等		
		塗装		4面				
	◇JASによる化粧ばり構造用集成柱： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	強度等級	樹種	見付材	区分等級	備 考		
		E190-F615		面	品質	1等		
		E105-F345		面	品質	2等		
		E65-F255		4面				
	◇JAS以外の造作用集成材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	仕上げ	樹種	見付材	区分等級	含水率		
		仕上有		面	品質	1等	※15%	
		未仕上		面	品質	2等		
		塗装		4面				

章	項目	特記事項						
12章 木工事	◇JAS以外の化粧ばり造作用集成材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	仕上げ	樹種	見付材	区分等級	含水率		
		仕上有		面	品質	1等	1等	※15%
		未仕上		面	品質	2等	2等	
		塗装		4面				
	◇JAS以外の化粧ばり構造用集成柱： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
	使用部位	強度等級	樹種	見付材	区分等級	含水率		
		E190-F615		面	品質	1等	1等	※15%
		E105-F345		面	品質	2等	2等	
		E65-F255		4面				
	◎造作用単板積層材							
	◇JASによる造作用単板積層材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・							
使用部位	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理	備 考				
	仕上有	1等	なし	天然木化粧加工				
	仕上有	2等		塗装加工				
	未仕上	3等						
◇JAS以外の造作用単板積層材： ・下表による（寸法は図示） ・図示 ・								
使用部位	含水率	仕上げ	表面の品質	防腐防蟻処理	備 考			
	※14%	仕上有	1等	なし	天然木化粧加工			
		仕上有	2等		塗装加工			
		未仕上	3等					
◎床張り用合板等								
◇JASによる普通合板								
使用部位	表板樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	等級・処理・寸法等			
	ナ	※5.5	※1類	※2等	・図示			
	ナ	9	2類	1等				
		12		※C-D				
◇JASによる構造用合板								
使用部位	表板樹種名	等級	接着の程度	板面の品質	処理・寸法等			
外壁・内壁耐力壁	針葉樹	1級	特類	A-B	F☆☆☆☆/防虫処理材			
各室床下地捨て張り	ナ	2級	1類	B-C				
	ナ			D-D				
◇パーティクルボード								
使用部位	厚さ(mm)	曲げの区分	接着の区分	難燃性区分	等級・処理・寸法等			
	※15			※13P/M	・図示			
	18							
◇構造用パネル								
曲げ等級： ・1級 ・2級 ・3級 ・4級								
厚み： ・図示 ・25mm ・								
接着剤のホルムアルデヒド放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・								
樹種： ・ナ ・ケキ ・ナラ ・クリ ・シジ								
使用箇所： ・								
種別： ・真物 ・貼物								
樹種： ・								
使用箇所： ・								
3. 防腐・防蟻・防虫処理								
◎薬剤の加圧注入による処理								
施工箇所	性能区分		備 考					
	・K2 ・K3 ・K4							
	・K2 ・K3 ・K4							
3.1 防腐・防蟻処理								

章	項目	特記事項						
12章 木工事	3.1 防腐・防蟻処理	薬剤の塗布による防腐・防蟻処理の方法： ※標準仕様書による ・ 原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理の方法： ・図示 ・						
	4.1 木 材	4. 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組 間仕切軸組の木材の樹種： ※杉 ※松 ・ 土間スラブ以外の床組木材の樹種： ※杉 ※松 ・ 土間スラブ上の床組木材の樹種： ※桧 ※保存処理木材 ・						
	5.1 木 材	5. 窓、出入口その他 吊元枠、水掛りの下枠、敷居の木材の樹種： ※桧 ・ 上記以外の木材の樹種： ※杉 ※松 ・						
	6.1 木 材	6. 床板張り 縁甲板、上がり框の木材の樹種： ※桧 ・						
	7.1 木 材	7. 壁及び天井下地 木材の樹種： ※杉 ※松 ・						
	13章 屋根及びびと工	2.2 材 料	2. 長尺金属板葺 材種： ※塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板材種 ・塗装ステンレス鋼板 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ 板厚： ・0.4mm ・0.6mm ・0.8mm ・ 下葺材料： ・アスファルトフイグ 940 ・ ・改質アスファルトフイグ【・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ】					
		2.3 工 法	屋根葺形式： ・心木なし瓦葺葺 ・立はぜ葺 ・平葺 ・ 雪止め： ・設置する ・設置しない					
		3.2 材 料	3. 折板葺 材種： ※塗装溶融55%アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板材種 ・塗装ステンレス鋼板 ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ 板厚(mm)： ・1.0 ・0.8 ・0.6 ・ 山高(mm)： ・90 ・150 ・180 ・88 軒先面戸板： ・有 ・無 断熱材張り： ・無 ・有（材種等；ポリエチレンフォーム t=4.0）					
		3.3 工 法	形式による区分： ・重ね形又ははぜ締め形 ・					
		4.2 材 料	4. 粘土瓦葺 種類： ・和瓦 ・洋瓦 ・ 区分： ・軸葉瓦 ・塩焼瓦 大きさ： ・53形 ・64形 ・ 産地： ・石州 ・淡路 ・三州 ・ 役物瓦： ・図示 ・ ・軒先瓦（ ・棟瓦（ ・鬼瓦（ ・隅鬼瓦（ 雪止瓦： ・使用する ・使用しない 瓦葺の材質： ※杉又は桧 ・杉 ・桧 ・ 瓦葺の寸法： ※21mm(W)x15mm(H) ・30mm(W)x18mm(H) ・ 瓦葺木の留付け工法： ※標準仕様書による ・ 棟の工法： ・					
		4.3 工 法	⑤ と い					
		⑤2 材 料	軒どいの材種： ・アスファルト被覆鋼板 ・耐候性被覆鋼板 ◎硬質塩化ビニル管(カー) 縦どいの材種： ・配管用鋼管 ・硬質塩化ビニル管【・カー ・SOP】 ◎ポリ製バンド（屋外トイレ） 掃除口： ・有 ◎無					

特記事項	変更事項	ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体 一級建築士 第 217345 号 中込 秀	設計年月： 令和3年12月	工事名称 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	図面名称 特記仕様書(5)	縮尺 A1：NS (A3：NS)	図面番号 A-06
------	------	--	---------------	----------------------------------	------------------	------------------------	--------------

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
13章 屋根及び土工	⑤2 材料	飾り桧： ・塩ビ製 ・銅板製 ・ とい受け金物： ・ステンズ製 ・亜鉛めっき銅板製 ・ ルーフトレイン： ・ステンズ製 ① 鋳鉄製 ・アルミニウム製 鋼管製といの防露： ・行う ① 行わない 施工箇所： ※標準仕様書表13.5.4による ・	14章 金属工事	8.2 材料	⑧ 手すり及びタラップ 種類 材種 表面処理の種別 ・手すり ・アルミニウム ・ステンズ ・A-1 ・A-2 ・HL ・鋼 亜鉛めっきの場合 ① タラップ ・ステンズ鋼 ① No. 2B ・	15章 左官工事	⑤2 材料	種類（呼び名） 仕上げの形状 工法 ・内装厚塗材G ・平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し こて塗り ・内装厚塗材Si ・吹放し・凸部処理 吹付け ・内装厚塗材E 平たん状・凹凸状・ひき起し こて塗り 平たん状・凹凸状・ひき起し ロー塗り ① 複層仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・ 材料の防火指定： ・無 ・有（不燃認定品
	⑤3 工法	種類（呼び名） 仕上げの形状 工法 ・複層塗材CE 凸部処理・凹凸模様 吹付け ・複層塗材Si ゆず肌状 ロー塗り ・複層塗材E ・複層塗材RE ・可とう複層塗材CE 凸部処理・凹凸模様 吹付け ゆず肌状 ロー塗り ・複層塗材RS 凸部処理・凹凸模様 吹付け ゆず肌状 ロー塗り ・防水形複層塗材CE 凸部処理・凹凸模様 吹付け ・防水形複層塗材E ゆず肌状 ロー塗り ・防水形複層塗材RS ・防水形複層塗材RE 耐候性： ※耐候形3種 ・ 上塗材溶媒： ※水系 ・ 上塗材樹脂： ※アクリル系 ・ 上塗材外観： ※つやあり つやなし ・メリック ・ 防水形の増塗材の適用： ・する ・しない		6.2 塗材塗り	6. マスチック塗材塗り 種別： ・A種 ・B種			
14章 金属工事	1.3 工法	1. 一般事項 あと施工アンカーの引抜き試験： ・行う ・行わない	15章 左官工事	②2 材料	② モルタル塗り 既製目地： ・適用 ・不適用 既製目地の形状寸法等： ・図示 ・ 床の目地： ・設ける ・設けない 工法： ※押し目地 ・切り目地 ・ 外壁タイル下地モルタルの接着力試験： ・行う ・行わない	6.2 塗材塗り	8.2 材料	8. ロックウール吹付け ロックウールの単位放熱量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 接着剤の単位放熱量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・ 吹付け厚さ： ・図示 ・30mm ・25mm ・20mm ・
	2.1 ステンズの表面仕上	2. 表面処理 材質： ・図示 ・SUS304 ・SUS430 ・ 種別 施工箇所 ※HL仕上げ ※No.2B ・パフ(#400) ・サン仕上げ ・鏡面仕上げ 表面処理： ・下表による ※標準仕様書による 種別 表面処理 施工箇所 ・B-1種 標準仕様書による ・B-2種 標準仕様書による ・A-1種 標準仕様書による ・D種 ・アクリル樹脂焼付塗装 ・フッ素樹脂焼付塗装 陽極酸化皮膜の着色方法： ※二次電解着色 ・アクリル樹脂焼付塗装 静電塗装 ・フッ素樹脂焼付塗装 表面処理方法 種別 施工箇所 ・溶融亜鉛メッキ ・A種 ・B種 ・C種 ・屋外階段各部 ・屋上部各手摺 ・電気亜鉛メッキ ・D種 ・E種 ・F種		②5 工法	3. 床コンクリート直均し仕上げ 施工箇所： ・一般の床、倉庫、車庫、通路 ・塗り物、敷物、張り物等の下地 ・防水の下地 ・ 4. セルフレベリング材塗り 品質： ・セメント系 ・せっこう系 ・ 厚さ： ※10mm ・図示		8.3 配合及び密度等	②2 性能及び構造
14章 金属工事	2.2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	表面処理： ・下表による ※標準仕様書による 種別 表面処理 施工箇所 ・B-1種 標準仕様書による ・B-2種 標準仕様書による ・A-1種 標準仕様書による ・D種 ・アクリル樹脂焼付塗装 ・フッ素樹脂焼付塗装 陽極酸化皮膜の着色方法： ※二次電解着色 ・アクリル樹脂焼付塗装 静電塗装 ・フッ素樹脂焼付塗装 表面処理方法 種別 施工箇所 ・溶融亜鉛メッキ ・A種 ・B種 ・C種 ・屋外階段各部 ・屋上部各手摺 ・電気亜鉛メッキ ・D種 ・E種 ・F種	15章 左官工事	3.1 適用範囲	3. 床コンクリート直均し仕上げ 施工箇所： ・一般の床、倉庫、車庫、通路 ・塗り物、敷物、張り物等の下地 ・防水の下地 ・ 4. セルフレベリング材塗り 品質： ・セメント系 ・せっこう系 ・ 厚さ： ※10mm ・図示	6.2 塗材塗り	8.3 配合及び密度等	②2 性能及び構造
	2.3 鉄鋼の亜鉛メッキ	表面処理方法 種別 施工箇所 ・溶融亜鉛メッキ ・A種 ・B種 ・C種 ・屋外階段各部 ・屋上部各手摺 ・電気亜鉛メッキ ・D種 ・E種 ・F種		④2 材料	④2 材料		⑤2 材料	16章 建具工事
14章 金属工事	④2 材料	④ 軽量鉄骨天井下地 種類： ① 標準仕様書表14.4.1による ・	15章 左官工事	④2 材料	④ 外装薄塗材E ・砂壁状・ゆず肌状・着色骨材砂壁状 吹付け ・平たん状・凹凸状・着色骨材砂壁状 こて塗り ① ゆず肌状・さざ波状 ロー塗り	6.2 塗材塗り	8.3 配合及び密度等	②2 性能及び構造
	④3 形状及び寸法	屋外の野縁受け、吊りボルト、インサートの間隔： ① ≒900mm ・ 屋外の野縁の間隔： ① 標準仕様書表14.4.2による ・ 吊ボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法： ・図示 ・ 天井ふところが1.5mを超える場合の補強方法： ※標準仕様書による ・図示 ・ 天井ふところが3mを超える場合の補強方法： ・図示 ・		④4 工法	④ 外装薄塗材E ・砂壁状・ゆず肌状 吹付け ・平たん状・凹凸状 こて塗り ゆず肌状・さざ波状 ロー塗り ・防水形外装薄塗材E ゆず肌状・さざ波状 ロー塗り 凹凸状 吹付け ・外装薄塗材S 砂壁状 吹付け ・内装薄塗材C 凹凸状 吹付け ・内装薄塗材L 平たん状・凹凸状 こて塗り ゆず肌状・さざ波状 ロー塗り ・内装薄塗材Si 砂壁状じゅらく・ゆず肌状 吹付け ・内装薄塗材E 平たん状・凹凸状 こて塗り ゆず肌状・さざ波状 ロー塗り ・内装薄塗材W 京壁状じゅらく・ゆず肌状 吹付け ・内装薄塗材W(調湿形) 平たん状・凹凸状 こて塗り ① 厚付仕上塗材の施工箇所： ・図示 ・ 材料の防火指定： ・無 ・有（		1.4 見本の制作等	2. アルミニウム製建具 種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み寸法（mm） ・A種 S-4 A-3 W-4 70 ① B種 S-5 A-3 W-4 70 ・C種 S-6 A-4 W-5 100 ・メーカー仕様 S-3 A-4 W-3 72
14章 金属工事	④4 工法	5. 軽量鉄骨壁下地 種類： ・50形 ① 65形 ・90形 ・100形 ・	15章 左官工事	⑤2 材料	⑤ 外装厚塗材C 種類（呼び名） 仕上げの形状 工法 ・外装厚塗材C 吹放し・凸部処理 吹付け 平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し こて塗り ・外装厚塗材Si 吹放し・凸部処理 吹付け ・外装厚塗材E 平たん状・凹凸状・ひき起し こて塗り 平たん状・凹凸状・ひき起し ロー塗り ・内装厚塗材C 吹放し・凸部処理 吹付け 平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し こて塗り 平たん状・凹凸状・ひき起し・かき落し こて塗り	6.2 塗材塗り	8.3 配合及び密度等	②2 性能及び構造
	⑤3 形状及び寸法	6. 金属成形板張り 材種 アルミニウム ガルバリウム鋼板 製法 押出し プレス 押出し プレス ロール ロール 表面処理 55%アルミニウム亜鉛合金めっき処理 取付け用下地： ※標準仕様書による ・		⑦2 材料	⑦ 2 材料 種類： ・250形 ・300形 ・350形 ① 275型 ・図示 表面処理： ① A-1種 ・A-2種 ・ 耐風圧、耐積雪対応固定方法： ① 製造メーカー仕様による ・		1.6 その他	2.3 材料
14章 金属工事	6.2 材料	材種 アルミニウム ガルバリウム鋼板 製法 押出し プレス 押出し プレス ロール ロール 表面処理 55%アルミニウム亜鉛合金めっき処理	15章 左官工事	⑦2 材料	⑦ 2 材料 種類： ・250形 ・300形 ・350形 ① 275型 ・図示 表面処理： ① A-1種 ・A-2種 ・ 耐風圧、耐積雪対応固定方法： ① 製造メーカー仕様による ・	6.2 塗材塗り	8.3 配合及び密度等	②2 性能及び構造
	6.3 工法	取付け用下地： ※標準仕様書による ・		⑦3 工法	⑦ 3 工法 種類： ・250形 ・300形 ・350形 ① 275型 ・図示 表面処理： ① A-1種 ・A-2種 ・ 耐風圧、耐積雪対応固定方法： ① 製造メーカー仕様による ・		1.6 その他	2.3 材料

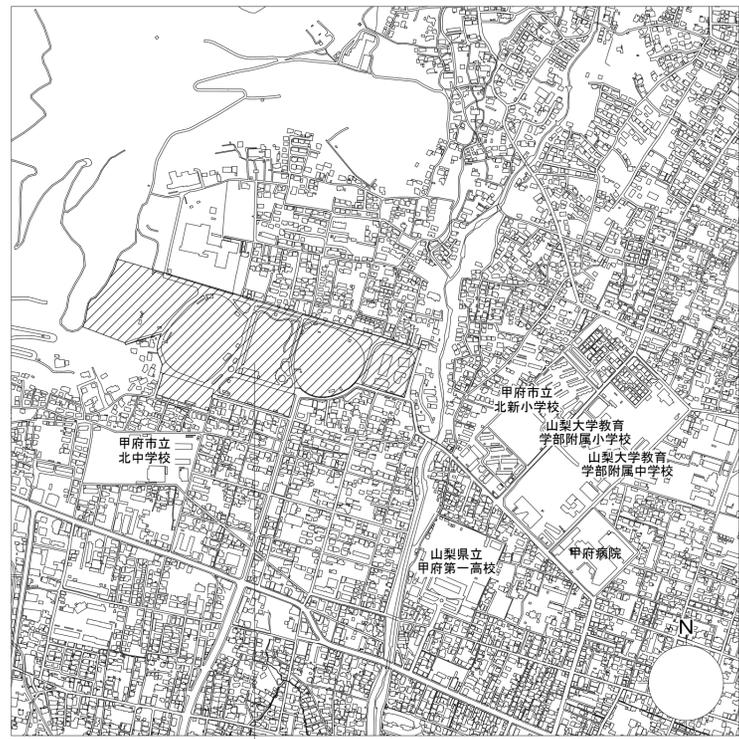
特記事項	変更事項	設計年月： 令和3年12月	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
		承認 中込 担当 向山 作 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	特記仕様書(6)	A1：NS (A3：NS)	A-07
ダイナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体 一級建築士 第 217345 号 中込 秀						

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項			
17章 カーテンウォール工事	2.3 形状及び仕上げ	製品の寸法許容差： ・図示 ※標準仕様書による ・ 製品の見え掛り部分の仕上げ： ・図示 ・ ガラス溝の寸法、形状： ・図示 ※標準仕様書による ・ ファスナー金物の取付位置、寸法許容差： ・図示 ※標準仕様書による ・ カーテンウォール部材の取付位置、寸法許容差： ・図示 ※標準仕様書による ・	18章 塗装工事	7.4 コンクリート面等塗料塗り	7. 耐候性塗料塗り（DP） 種別： ・A種 ・B種 ・C種	19章 内装工事	2.2 材 料	ビニル幅木の高さ： ※60mm ・100mm ・300mm ・ 接着剤の樹脂成分放散量： ※F☆☆☆☆ ・F☆☆☆ ・			
	2.5 取付け	3. PCカーテンウォール コンクリートの種類・品質： ・図示 ※標準仕様書による ・ 鉄筋の種類： ・図示 ※SD295A ・SD345 ・ 補強鉄線の寸法： ・図示 ・φ3.2x100x100 ・φ3.2x50x50 ・ シーリングの種類： ・図示 ・ 耐火目地材： ・図示 ・ 断熱材： ・図示 ・ サッシ枠、ゴンドラ用ガイドレール： ・図示 ・ 寸法許容差： ・図示 ※標準仕様書による ・ カーテンウォールの仕上げ： ・図示 ※標準仕様書による ・ 構造ガasket： ・図示 ※標準仕様書による ・		8.2 ***塗料塗り	8. つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（EP-G） コンクリート面： ・A種 ※B種 モルタル面： ・A種 ※B種 プラスター面： ・A種 ※B種 せっこうボード面： ・A種 ※B種 その他ボード面： ・A種 ※B種		2.3 施 工	下地の工法： ・図示 ※標準仕様書による ・ 熱溶接工法： ・適用する ・適用しない			
	3.2 材 料	3. 錆止め塗料塗り 鉄鋼面屋内： ※A種 ・B種 亜鉛メッキ鋼面屋外： ※A種 ・B種 亜鉛メッキ鋼面屋内： ※A種 ・B種 ・C種		8.4 鉄鋼面塗料塗り	9. 合成樹脂エマルションペイント塗り（EP） 種別： ・A種 ※B種		3.3 材 料	3. カーベット敷き ◎織じゅうたん 種別： ・A種 ・B種 ・C種 パイル形状： ・カットパイル ・ルーフパイル ・カット/ルーフ併用 色柄： ・無地 ・柄物 帯電性の適用： ・適用しない ・適用する（人体帯電圧： ※3kV以下 ・） ◎タフテッドカーベット パイル形状： ・ルーフ ・カット ・ パイル長： ・図示 ・ mm			
	3.3 形状及び仕上げ	4. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別： ※1種 ・2種		9.2 塗料塗り	10. 合成樹脂エマルション模様塗料塗り（EP-T） コンクリート面： ・A種 ※B種 モルタル面： ・A種 ※B種 プラスター面： ・A種 ※B種 せっこうボード面： ・A種 ※B種 その他ボード面： ・A種 ※B種		3.3 材 料	◎ニードルパンチカーベット 厚さ： ・4mm ・7mm ・ ◎タイルカーベット			
	3.4 製 作	5. クリヤーラッカー塗り（CL） 種別： ・A種 ※B種		10.2 ***塗料塗り	11. ウレタン樹脂ワニス塗り（UC） 種別： ・A種 ※B種		3.4 工 法	◎タイルカーベット			
	3.5 取付け	6. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD） 種別： ・A種 ※B種		11.2 塗料塗り	12. ラッカーエナメル塗り（LE） 種別： ・A種 ※B種			パイル形状	種 類	寸法(mm)	総厚さ(mm)
3.6 ガラス取付け			12.2 塗料塗り	14. 木材保護塗料塗り（WP） 種別： ・A種 ※B種	4.3 工 法	・ルーフパイル	※第1種 ・第2種	※500x500 ・	※6.5 ・		
18章 塗装工事	①3 材 料	① 一般事項 塗料の防火材料の指定： ○図示 ・無 ・有（ 2. 素地ごしらえ 塗装面の種類	19章 内装工事	2.2 材 料	2. ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り ビニル床シートの材料： ・図示 ・下表による ・	5.2 材 料 5.3~5.5 工 法	4.3 工 法	4. 合成樹脂塗床	◎下敷き材 下敷き材： ※反毛フェルト第2種2号(呼厚8mm) ・ タフテッドカーベットの工法： ・グリッド工法 ・全面接着工法 ・ タイルカーベットの敷き方（平場）： ※市松敷き ・ （階段部分）： ※模様流し ・		
	3.2 塗料種別	木部（不透明塗料塗り部） ※A種 ・B種 木部（透明系塗料塗り部） ・A種 ※B種 鉄鋼面（詰所） ・A種 ・B種 ※C種 亜鉛メッキ鋼面 ・A種 ・B種 モルタル、プラスター ・A種 ※B種 コンクリート、ALCパネル ・A種 ※B種 押出成形セメント板 ・A種 ※B種 せっこうその他のボード 継目処理工法の場合： ※A種 ・B種 その他の場合： ・A種 ※B種		14.2 塗料塗り	3. 錆止め塗料塗り 鉄鋼面見え掛り部分： ※A種 ・B種 鉄鋼面見え隠れ部分： ・A種 ※B種 亜鉛メッキ鋼面鋼製建具面： ※A種 ・B種 亜鉛メッキ鋼面鋼製建具面以外： ・A種 ※B種		5.2 材 料	種 類	記号	色柄	厚さ(mm)
	3.3 錆止め塗料塗り	3. 錆止め塗料塗り 鉄鋼面見え掛り部分： ※A種 ・B種 鉄鋼面見え隠れ部分： ・A種 ※B種 亜鉛メッキ鋼面鋼製建具面： ※A種 ・B種 亜鉛メッキ鋼面鋼製建具面以外： ・A種 ※B種		14.2 塗料塗り	4. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別： ※1種 ・2種		5.2 材 料	・発泡砲層のないビニル床シート ※FS ※無地 ※2.0 ・2.5 ・NS ・マープル ・			
	4.2 塗料の種類	4. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別： ※1種 ・2種		14.2 塗料塗り	5. クリヤーラッカー塗り（CL） 種別： ・A種 ※B種		5.3~5.5 工 法	・発泡層のあるビニル床シート（クッションフロア） ・DO ・ ※2.3 ・3.5 ・			
	4.3 木部塗料塗り	4. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別： ※1種 ・2種		14.2 塗料塗り	5. クリヤーラッカー塗り（CL） 種別： ・A種 ※B種		5.3~5.5 工 法	ビニル床タイル、ゴム床タイルの材料： ・図示 ・下表による ・			
	4.4 鉄鋼面塗料塗り	4. 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP） 種別： ※1種 ・2種		14.2 塗料塗り	5. クリヤーラッカー塗り（CL） 種別： ・A種 ※B種		5.3~5.5 工 法	種 類	記号	色柄	厚さ(mm)
5.2 塗料塗り	5. クリヤーラッカー塗り（CL） 種別： ・A種 ※B種	14.2 塗料塗り	5. クリヤーラッカー塗り（CL） 種別： ・A種 ※B種	5.3~5.5 工 法	・コンボジションビニル床タイル 半硬質(CT) ・2.0 ・4.0 ・コンボジションビニル床タイル 軟質(CTS) ・2.0 ・ ・ホジニアスビニル床タイル(HT) ・2.0 ・ ・ゴム床タイル ・無地 ・4.0 ・ ・マープル ・4.0 ・						
6.2 塗料塗り	6. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD） 種別： ・A種 ※B種	14.2 塗料塗り	6. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD） 種別： ・A種 ※B種	5.6 現場塗装仕上げ	◎帯電防止床シート張り ◎帯電防止床タイル張り 種類： ・ 性能： ・体積抵抗値(1.0x10 ⁹ Ω) ・ 厚さ： ・2.0mm ・4.0mm ・4.5mm ・ ◎視覚障害者用床タイル張り 種類： ・合成ゴム貼付用 ・合成ゴム埋込用 ・合成ゴム表面CON ・せっ器質タイル ・コンクリート 厚み： ・2mm ・15mm ・20mm ・30mm ・ ◎耐動荷重性床シート張り 種類： ・ 厚み： ・ mm ・ ビニル幅木の厚み： ※1.5mm以上 ・	5.2 材 料	5. フローリング張り 種 類	材 種	工 法	形式寸法等(mm)LxWx t	
				6.2 材 料	5.6 現場塗装仕上げ	・フローリングボード1等 ※ナラ ・釘留め工法(根太張) ・500(L)x75(W)x15(t)以上 ・ ・ ・フローリングブロック1等 ※ナラ ・釘留め工法(根太張) ・303x303(L)x15(t)以上 ・ ・ ・ ・モザイクカーペット1等 ※ナラ ・釘留め工法(根太張) 厚さ： ・6 ・7 ・8 ・弾性モザイクカーペット ・釘留め工法(直張り) ・A種 ・B種 ※C種 ・ ・接着工法 ・A種 ・B種 ※C種 ・複合フローリング ※ナラ ・釘留め工法(根太張) ・A種 ・B種 ※C種 ・ナラ ・釘留め工法(直張り) ・A種 ・B種 ※C種 ・協議 ・接着工法 ・A種 ・B種 ※C種	5.6 現場塗装仕上げ	仕上げ： ※ウレタン樹脂ワニス塗り ・オイルフィニッシュ塗り ・既製仕上げ	6. 畳敷き 種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種（・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N）		

特記事項	変更事項	設計年月： 令和3年12月	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
		承認 中込 担当 向山 作 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	特記仕様書(8)	A1：NS (A3：NS)	A-09
		ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体				
		一級建築士 第 217345 号 中込 秀				

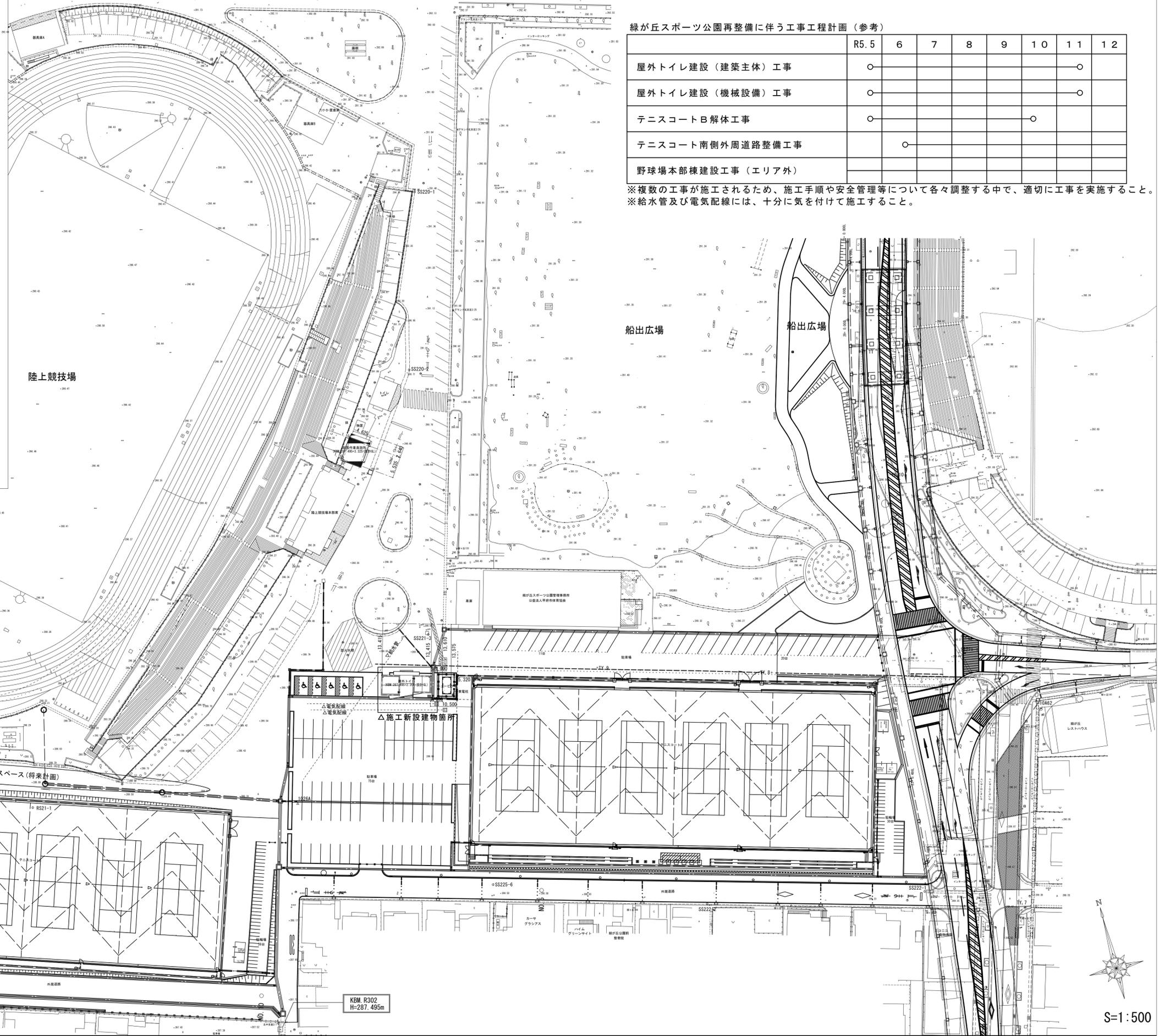
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項									
20章 ユニット及びその他の工事	*.12 既製間仕切	耐火性能： ・不燃 ・準不燃 ・難燃	21章 排水工事	2.2 施工	盛土地盤等の施工法： ・図示 ・ 継手の工法： ・図示 ・ ◎遠心力鉄筋コンクリート管 基床の厚さ： ・図示 ・ 基床の種類： ・図示 ・ ◎硬質ポリ塩化ビニル管 基床の厚さ： ・図示 ・ 基床の種類： ・図示 ・ 継手の種類： ※接着材 ・ゴム輪 ・	22章 舗装工事	5.3 材料	◎車道部コンクリート 設計基準強度（車道部）： ※24N/mm2 ・27N/mm2 ・ スランプ： ・5cm ※8cm ・12cm ・ 粗骨材の最大寸法： ・20mm ・25mm ・40mm ・ 寒冷期舗装の早強セメントの使用： ・使用する ・使用しない 加熱施工式注入目地材： ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ ◎歩道部コンクリート 設計基準強度（歩道部）： ※18N/mm2 ・21N/mm2 ・ スランプ： ・5cm ※8cm ・12cm ・ 粗骨材の最大寸法： ・20mm ・25mm ・ 転圧コンクリート舗装： ・ 寒冷期舗装の早強セメントの使用： ・使用する ・使用しない 加熱施工式注入目地材： ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ									
	*.13 ユニット	表面材： ・図示 ・ビニル張り ・ 形式： ・図示 ・両開 ・片開 折りたたみ幅(mm)： ・図示 ・ パネル厚さ： ・図示 ・ 表面仕上げ： ・図示 ・ 接点の接床処置： ・有 ・無		3.1 材料	3. 街きよ、縁石及び側溝 縁石の形状・寸法： ・図示 ・ L形側溝の形状・寸法： ・図示 ・ U形側溝の形状・寸法： ・図示 ・ U形側溝の蓋の形状・寸法： ・図示 ・ コンクリートの種別： ※無筋コンクリート ・図示 ・ コンクリートの材料強度： ※18N/mm2 ・21N/mm2 ・図示 ・ 地業の材料： ・砂利地業【 ・再生クワッシャーン ・切込砕石 ・切込砂利 】 砂利地業の厚み： ※100mm ・図示 ・ 地業の材料： ・砂地業【 ・山砂 ・川砂 ・砕砂 】 砂地業の厚み： ※100mm ・図示 ・		5.4 施工	自地の種類及び間隔： ・図示 ※標準仕様書表22.5.4による ・ 目地の構造： ・図示 ※標準仕様書図22.5.1による ・									
	*.14 ユニットの	材質等： ◎アルミ既製品（内外枠共） 寸法(mm)： ◎450×450 ・600×600		22章 舗装工事	2.2 路床の構成及び仕上り		2. 路床 凍上抑制層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm 透水性舗装のフィルター層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm 路床安定処理の適用： ・適用しない ・適用する 方法： ・添加材による処理 ・図示 ・ 盛土の種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 路床安定処理用添加材料： ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメント ・消石灰【 ・特号 ・1号 】 ・生石灰【 ・特号 ・1号 】 ジオテキスタイルの適用： ・適用しない ・適用する； 路床土のCBR試験： ・行わない ・行う【 ・乱した土 ・乱さない土 】 路床締固め試験： ・行う ・行わない 現場CBR試験： ・行わない ・行う	6.2 舗装の構成及び仕上り	6. カラー舗装 ◎車道部 カラー舗装の種類： ・加熱系【 ・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物 】 ・図示 ・ 常温系【 ・ノット工法 ・塗布工法 】 ・図示 常温系カラー舗装の下部： ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 結合材による種類： ・図示 ・ 車道部の基層の適用： ・適用しない ・適用する ◎歩道部 カラー舗装の種類： ・加熱系【 ・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物 】 ・図示 ・ 常温系【 ・ノット工法 ・塗布工法 】 ・図示 常温系カラー舗装の下部： ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 結合材による種類： ・図示 ・ 車道部の基層の適用： ・適用しない ・適用する								
	*.15 天井点検口	材質等： ◎アルミ既製品（内外枠共） 寸法(mm)： ◎450×450 ・600×600			2.3 材料		3. 路盤	7.2 舗装の構成及び仕上り	7. 透水性アスファルト舗装 舗装の厚さ： ・車道部【 ・50mm ・ 】 ・歩道部【 ・30mm ・ 】 舗装の平坦性： ・図示 ※標準仕様書表22.4.11による ・								
	*.16 床下点検口	材質： ◎ステンレス既製品（目地材質共） 寸法(mm)： ・450×450 ◎600×600			2.5 試験		4. アスファルト舗装	7.3 材料	アスファルトの種類（車道部）： ・図示 ※ホリマ改質アスファルトⅠ型 ・ ・ホリマ改質アスファルトⅡ型 ・ アスファルトの種類（歩道部）： ・図示 ※ストレートアスファルト								
	*.17 屋上点検口	材質： ・木製【 ・米松 ・米桐 】 ・アルミプレート【 厚さ： ・3.0mm ・ 】			3.2 路盤の厚さ及び仕上り		舗装の構成及び厚さ： ・図示 ・ 車道部の基層の適用： ・適用しない ・適用する 舗装の平坦性： ・図示 ※標準仕様書表22.4.2による ・ 加熱アスファルト混合物等の種類： 表層： ・密粒度アスファルト混合物 ・細粒度アスファルト混合物	8.2 舗装の構成及び仕上り	舗石舗装の基層及び厚さ： ・コンクリート版【 厚さ： ※70mm ・図示 ・ 】 ・アスファルト混合物【 厚さ： ※50mm ・図示 ・ 】 舗装仕上り面の平坦性： ・図示 ※標準仕様書による ・								
	*.18 換気扇取付け枠	材質等： ・硬質塩化ビニル管φ50φ（内側ステンレス製防虫網外側桁付エポキシ型） ◎床下換気金物 ・鋳鉄（コールド焼付厚9mm） ・樹脂製 ・ステンス金網裏打ち ・裏打ちなし ◎レジスター、固定ガラリ ・既製品（外部水切り付固定ガラリ 内部ステンレス製防虫網【 外壁取付時 】）			3.3 材料		4. アスファルト舗装	8.3 材料	コンクリート平板舗装の目地材： ※砂 ・モルタル 舗石舗装の基層及び厚さ： ・コンクリート版【 厚さ： ※70mm ・図示 ・ 】 ・アスファルト混合物【 厚さ： ※50mm ・図示 ・ 】 舗装仕上り面の平坦性： ・図示 ※標準仕様書による ・ コンクリート平板舗装の種類／寸法： ※N300 ・ 舗石の種類／寸法： ※2等品 ・ ジオテキスタイルの適用： ・適用しない ・適用する；								
	*.19 換気口	◎床下換気金物 ・鋳鉄（コールド焼付厚9mm） ・樹脂製 ・ステンス金網裏打ち ・裏打ちなし ◎レジスター、固定ガラリ ・既製品（外部水切り付固定ガラリ 内部ステンレス製防虫網【 外壁取付時 】）			4.2 舗装の構成及び仕上り		舗装の構成及び厚さ： ・図示 ・ 車道部の基層の適用： ・適用しない ・適用する 舗装の平坦性： ・図示 ※標準仕様書表22.4.2による ・ 加熱アスファルト混合物等の種類： 表層： ・密粒度アスファルト混合物 ・細粒度アスファルト混合物	9.2 材料	9. 砂利敷き 種別（通路）： ※A種 ・B種 種別（建物周囲）： ・A種 ※B種								
	*.20 マホールカバー	種別： ・一般型 ・防水型 ・防臭型 ・ 性能： ・防水防臭型【 ・化粧型 ・一般用 】 ・ 鍵： ・有 ・無			4.4 配合その他		シールコート適用： ・適用しない ・適用する アスファルト混合物の抽出試験： ・行う ・行わない										
	*.21 番拭きマット	材質： ・塩化ビニル又はゴム／受枠；ステンス鋼 ・硬質アルミニウム合金 ・ステンス板			4.5 施工		5. コンクリート舗装										
	*.22 浴槽	水抜パイプ： ・有 ・無			4.6 試験		舗装の構成及び厚さ： ・図示 ※標準仕様書表22.5.1による ・ 寒冷地の縁部立下り寸法： ・図示 ・										
	*.23 すのこ	種別： ・A種 ・B種（ ・ホーロー ・FRP ・ステンス）															
	*.24 屋上丸環	材質： ・木製【 ・ヒキ ・ヒバ ・米松 ・台松 】 ・合成樹脂（市場品）															
	*.25 避難ハッチ等	材質： ・ステンス鋼 ・ 材質： ・ステンス（フレームはネジ巻き式）															
	21章 排水工事	2.1 材料			2. 屋外雨水排水 材質： ・遠心力鉄筋コンクリート管 ・硬質ポリ塩化ビニル管【 ・VP ・VU】 ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル層管（RS-VU） ・排水用硬質ポリ塩化ビニル管継手（DV） ・屋外排水設備用硬質塩化ビニル管継手（VU継手） ・ 管径： ・図示 ・ 側溝（形状・寸法）： ・図示 ・ 側塊（形状・寸法）： ・図示 ・ 排水樹（形状・寸法）： ・図示 ・現場打ち角型；600x600 ・コンクリート既製樹；300x300 ・ ◎樹蓋 材質： ・図示 ・鋳鉄製グレーチング ・鋼製グレーチング ・ステンス製グレーチング ・コンクリート製 ・鋳鉄製 ・ 種別： ・図示 ・マホール蓋 ・床化粧マホール蓋 ・格子蓋 ・ 種類： ・図示 ・水封型 ・簡易密閉型 ・密閉型 ・ 適用荷重： ・図示 ・歩行用 ・T-2 ・T-6 ・T-14 ・T-20 ・T-25 メインバーピッチ等： ・図示 ・普通目 ・細目／ブレン ・細目／ノンスリップ ◎側溝グレーチング 材質： ・図示 ・鋼製 ・ステンス製 ・ 適用荷重： ・図示 ・歩行用 ・T-2 ・T-6 ・T-14 ・T-20 ・T-25 メインバーピッチ等： ・図示 ・普通目 ・細目／ブレン ・細目／ノンスリップ 地業の材料： ・砂利地業【 ・再生クワッシャーン ・切込砕石 ・切込砂利 】 地業の材料： ・砂地業【 ・山砂 ・川砂 ・砕砂 】 砂のふるい分け試験： ・適用する ・適用しない 埋戻し材料： ・A種 ※B種 ・C種 ・D種		2.2 路床の構成及び仕上り	2. 路床 凍上抑制層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm 透水性舗装のフィルター層の適用： ・適用しない ・適用する 厚さ： ・車道部 mm ・歩道部 mm 路床安定処理の適用： ・適用しない ・適用する 方法： ・添加材による処理 ・図示 ・ 盛土の種別： ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 路床安定処理用添加材料： ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメント ・消石灰【 ・特号 ・1号 】 ・生石灰【 ・特号 ・1号 】 ジオテキスタイルの適用： ・適用しない ・適用する； 路床土のCBR試験： ・行わない ・行う【 ・乱した土 ・乱さない土 】 路床締固め試験： ・行う ・行わない 現場CBR試験： ・行わない ・行う	2.3 材料	3. 路盤	3. 路盤 歩道部の路盤の厚さ： ・図示 ・ 車道部の路盤の厚さ： ・図示 ・	2.5 試験	4. アスファルト舗装	4. アスファルト舗装 舗装の構成及び厚さ： ・図示 ・ 車道部の基層の適用： ・適用しない ・適用する 舗装の平坦性： ・図示 ※標準仕様書表22.4.2による ・ 加熱アスファルト混合物等の種類： 表層： ・密粒度アスファルト混合物 ・細粒度アスファルト混合物	2.5 試験	5. コンクリート舗装	5. コンクリート舗装 舗装の構成及び厚さ： ・図示 ※標準仕様書表22.5.1による ・ 寒冷地の縁部立下り寸法： ・図示 ・

特記事項	変更事項	設計年月： 令和3年12月	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
		承認 中込 担当 向山 作図 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	特記仕様書(10)	A1：NS (A3：NS)	A-11
ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体		一級建築士 第 217345 号 中込 秀				



工事場所 甲府市緑が丘2丁目地内

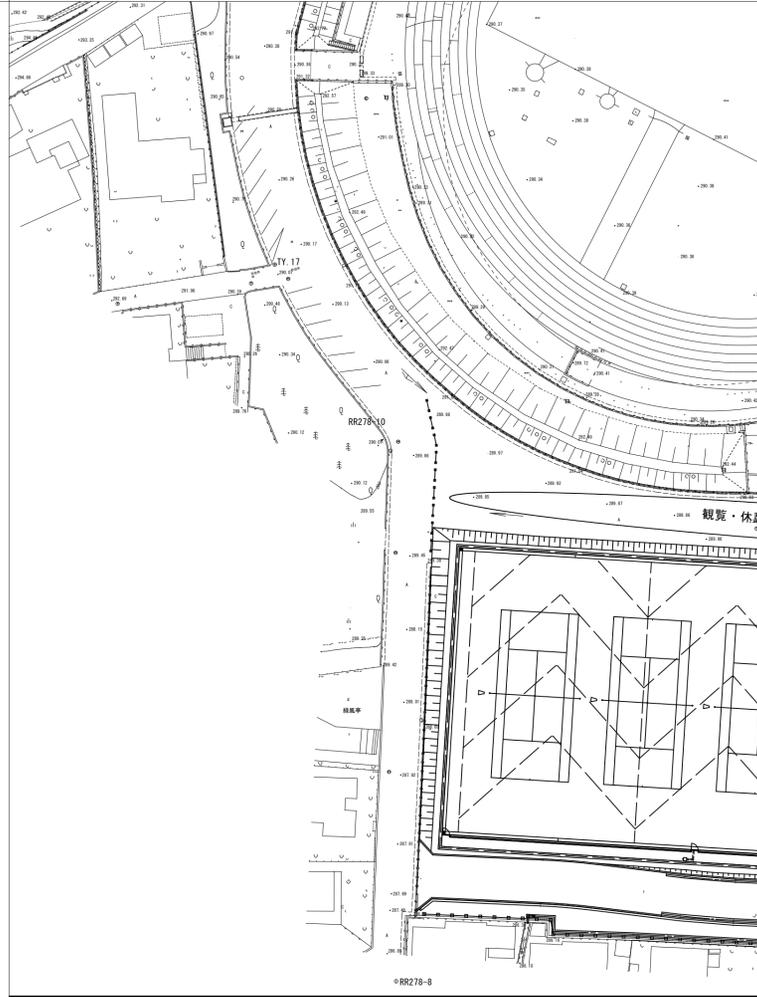
案内図 S-NS



緑が丘スポーツ公園再整備に伴う工事工程計画（参考）

	R5.5	6	7	8	9	10	11	12
屋外トイレ建設（建築主体）工事	○							○
屋外トイレ建設（機械設備）工事	○							○
テニスコートB解体工事	○					○		
テニスコート南側外周道路整備工事		○						
野球場本部棟建設工事（エリア外）								

※複数の工事が施工されるため、施工手順や安全管理等について各々調整する中で、適切に工事を実施すること。
 ※給水管及び電気配線には、十分に気を付けて施工すること。



特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
 一級建築士 第 217345 号 中込 秀

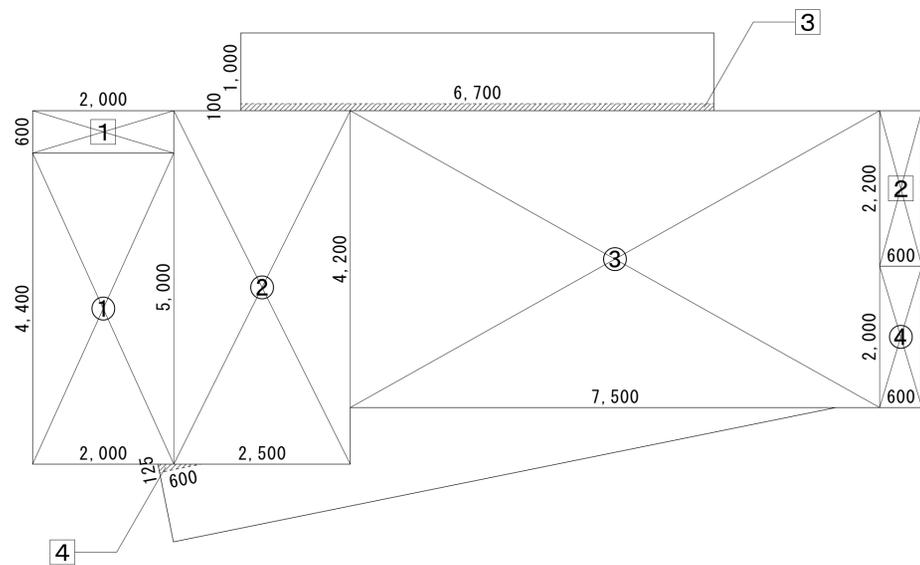
設計年月：令和3年12月	工事名称 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設（建築主体）工事	図面名称 配置図	縮尺 A1：1/500 A3：1/1000	図面番号 A-12
承認 中込 向山 作 担当 向山 向山				



外部仕上	
屋根	屋根(1)：合成高分子系ルーフィングシート防水 屋根(2)：コンクリート打放しの上、撥水材塗布 笠木：アルミ既製品
軒天	軒天(1)：コンクリート化粧打放し補修 軒天(2)：鋼板製スパンドレル t=15
外壁	外壁(1)：コンクリート打放し、外装薄塗材 外壁(2)：コンクリート化粧打放し補修
断熱材	屋根断熱材：発泡ウレタン吹付 t=30
樋	樋：アルミ製バンドレス φ100 ドレン：鋳鉄製横引き・鋳鉄製縦引き
基礎巾木	モルタル金ゴテ押え
開口部	サッシ：アルミ既製品 ドア：スチール製
通路	磁器質タイル 300×300
その他	サイン：SUS箱文字、焼付塗装 ピクトサイン：SUS切文字、焼付塗装 □100 タラップ：SUS製φ22 4段 ピット内部：床ノコンクリート直均し ピット内部：壁・天井ノコンクリート打放し 0種

内部仕上								
室名	床	床高	巾木	壁	天井	廻縁	CH	備考
男子便所	磁器質タイル 300×300 汚垂石：t=6.0 W600	FL±0	SUS巾木 H=60 芯材樹脂の上SUS箔	壁(1)：コンクリート化粧打放し補修 壁(2)：モルタル下地、 アクリル樹脂系塗装ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り 壁(3)：LGS下地、PBt=9.5、 アクリル樹脂系塗装ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り	LGS下地、ケイカル板 t=6.0 目透かし張り、EP塗装	塩ビ	2,300	ライニング：人造大理石 t=20 H=1,300 鏡：450×1,000 天井点検口：450×450 目地タイプ 衛生機器・手摺・紙巻器・手洗いカウンター：機械設備工事
女子便所	磁器質タイル 300×300	FL±0	SUS巾木 H=60 芯材樹脂の上SUS箔	壁(1)：コンクリート化粧打放し補修 壁(2)：モルタル下地、 アクリル樹脂系塗装ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り	LGS下地、ケイカル板 t=6.0 目透かし張り、EP塗装	塩ビ	2,300	ライニング(SK)：人造大理石 t=20 H=900 鏡：450×1,000 天井点検口：450×450 目地タイプ 衛生機器・手摺・紙巻器・手洗いカウンター：機械設備工事
多機能便所	磁器質タイル 300×300	FL±0	SUS巾木 H=60 芯材樹脂の上SUS箔	コンクリート化粧打放し	LGS下地、ケイカル板 t=6.0 目透かし張り、EP塗装	塩ビ	2,300	衛生機器：機械設備工事 ベビーチェア：機械設備工事 ベビーシート：機械設備工事 天井点検口：450×450 目地タイプ 床下点検口：600×600
特記	※シックハウス対策 ・壁・天井・小屋裏等に関してはF☆☆☆☆を使用。 ・各種接着剤・現場塗装用品に関してはF☆☆☆☆を使用。 ※メーカー指定材料は、各メーカーの施工ポイント、マニュアルを参照とする。							

特記事項	変更事項	ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体 一級建築士 第 217345 号 中込 秀	設計年月：令和3年12月	工事名称 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	図面名称 屋外トイレ 仕上表	縮尺 A1：NS (A3：NS)	図面番号 AT-01
承認	中込	担当	向山	作図	向山		



床面積算定

①	$2.000 \times 4.400 =$	8.8000
②	$2.500 \times 5.000 =$	12.5000
③	$7.500 \times 4.200 =$	31.5000
④	$0.600 \times 2.000 =$	1.2000
合計		54.0000
床面積		54.00㎡

建築面積算定

①	$2.000 \times 0.600 =$	1.2000
②	$0.600 \times 2.200 =$	1.3200
③	$6.700 \times 0.100 =$	0.6700
④	$0.600 \times 0.125 \times 1/2 =$	0.0375
床面積		54.0000
合計		57.2275
建築面積		57.22㎡

 : 建築面積算入部分

特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

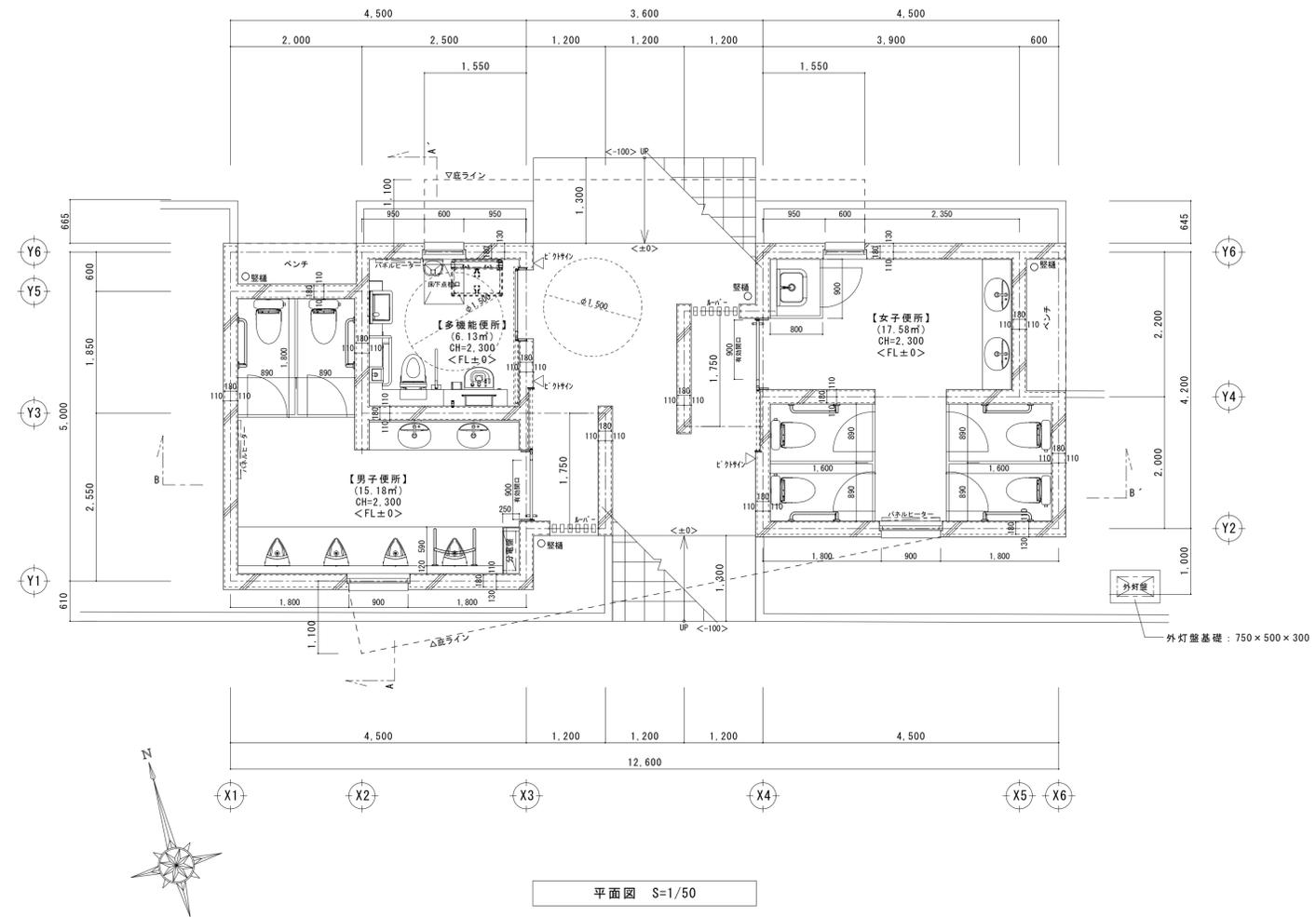
設計年月：令和3年12月				
承認	中込	担当	向山	作図
				向山

工事名称
 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

図面名称
 屋外トイレ 面積表

縮尺
 A1 : 1/50
 (A3 : 1/100)

図面番号
 AT-02

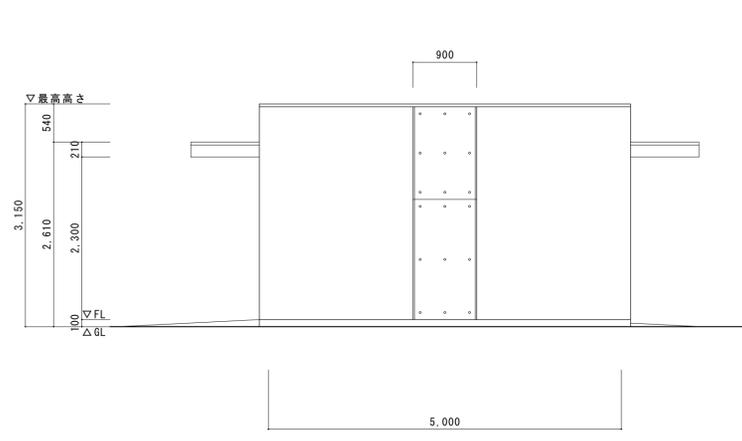


特記事項	変更事項

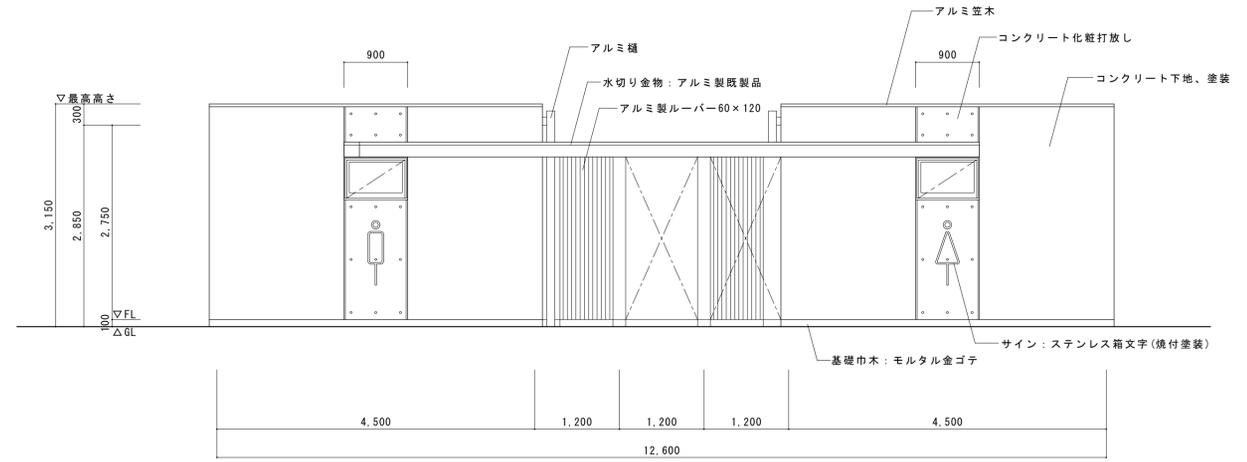
ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
 一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月: 令和3年12月	工事名称
承認 中込 担当 向山 作図 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

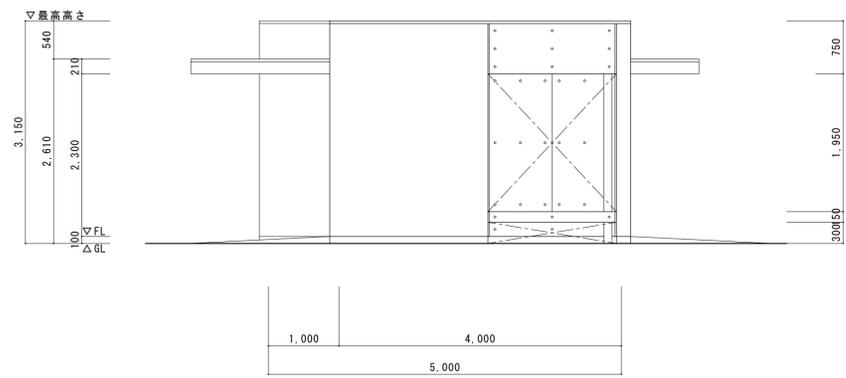
図面名称	縮尺	図面番号
屋外トイレ 平面詳細図	A1 : 1/50 (A3 : 1/100)	AT-03



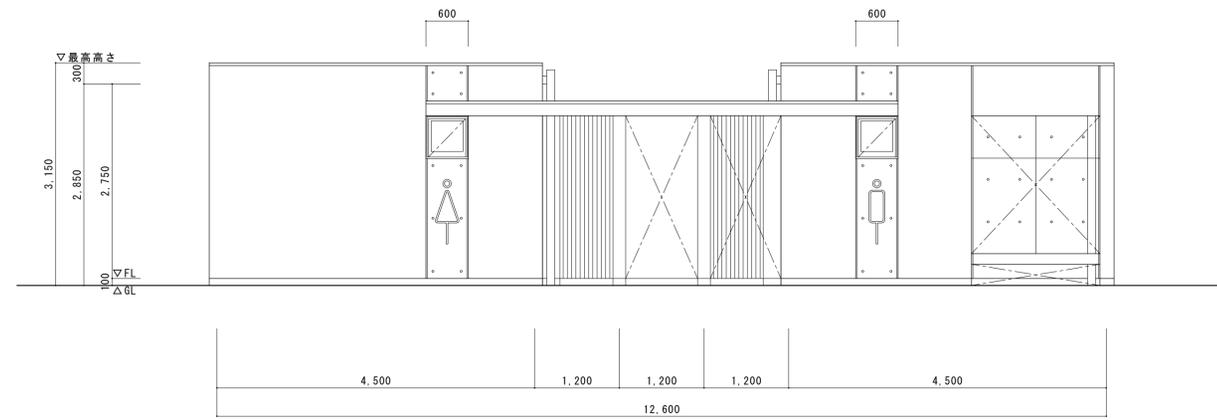
西立面図 S=1/50



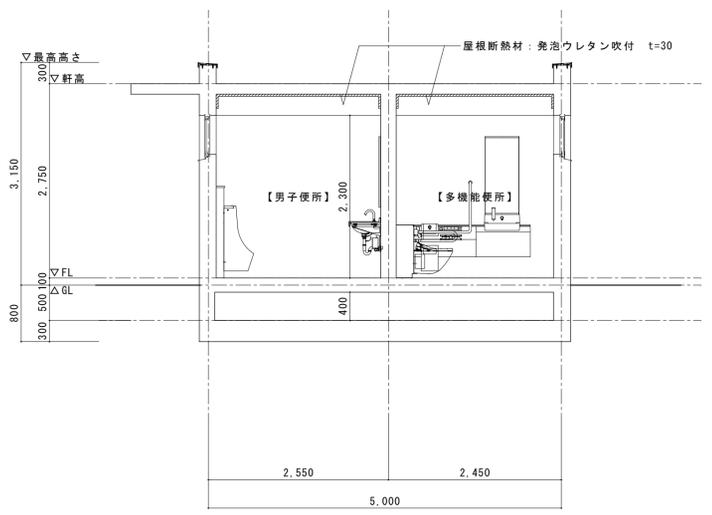
南立面図 S=1/50



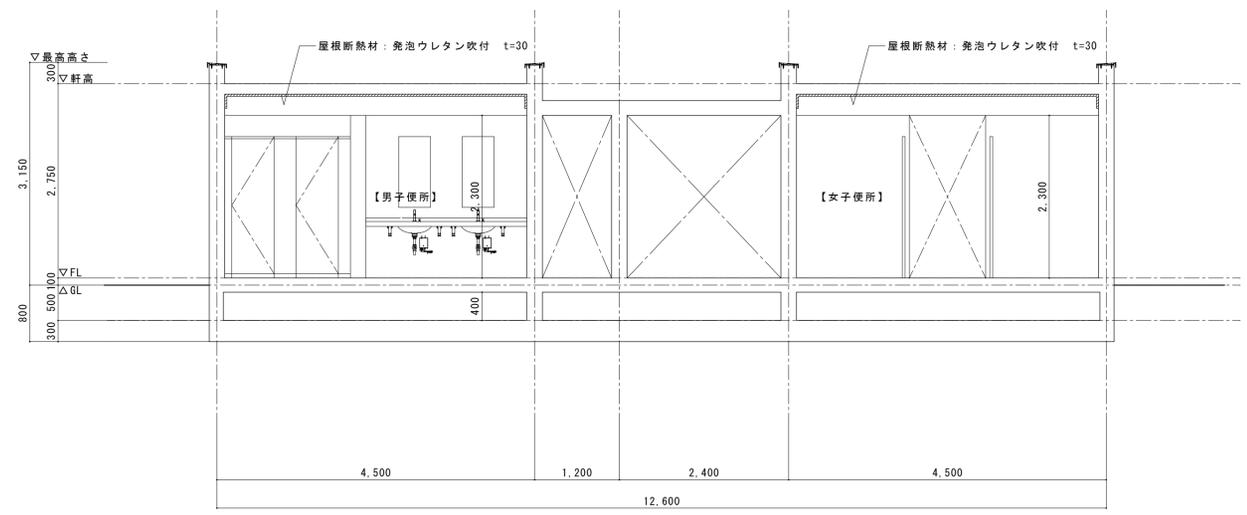
東立面図 S=1/50



北立面図 S=1/50



A-A'断面図 S=1/50



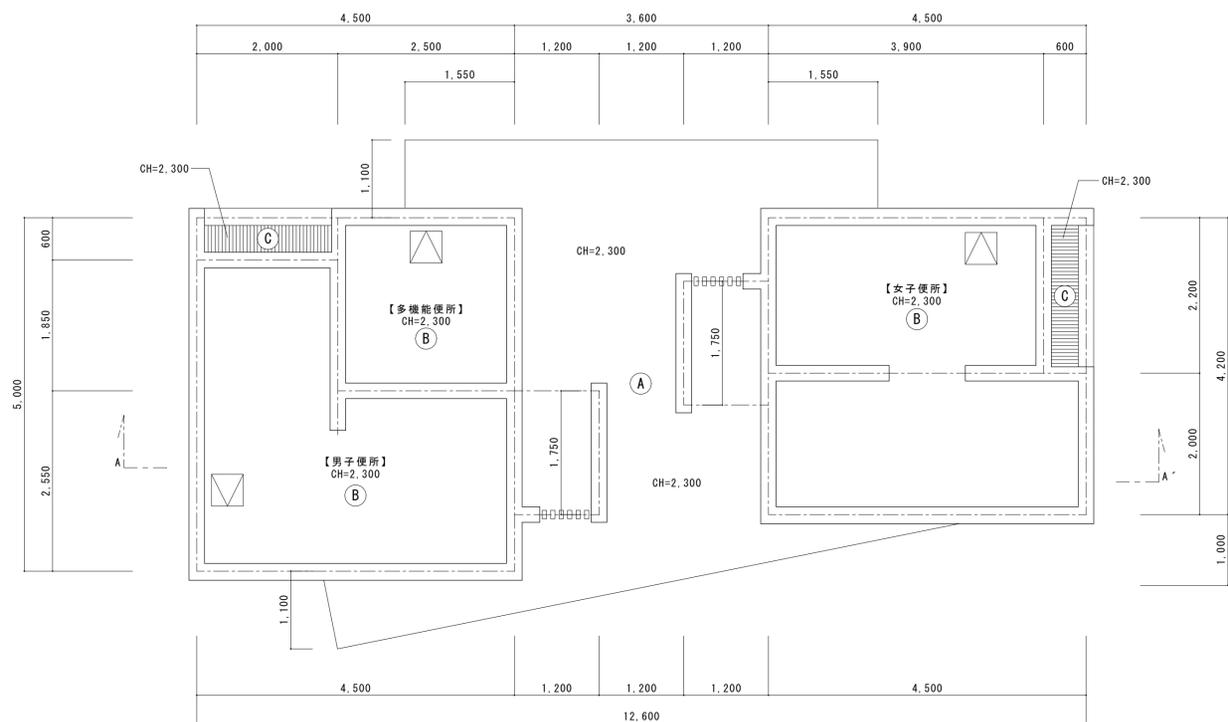
B-B'断面図 S=1/50

特記事項	変更事項

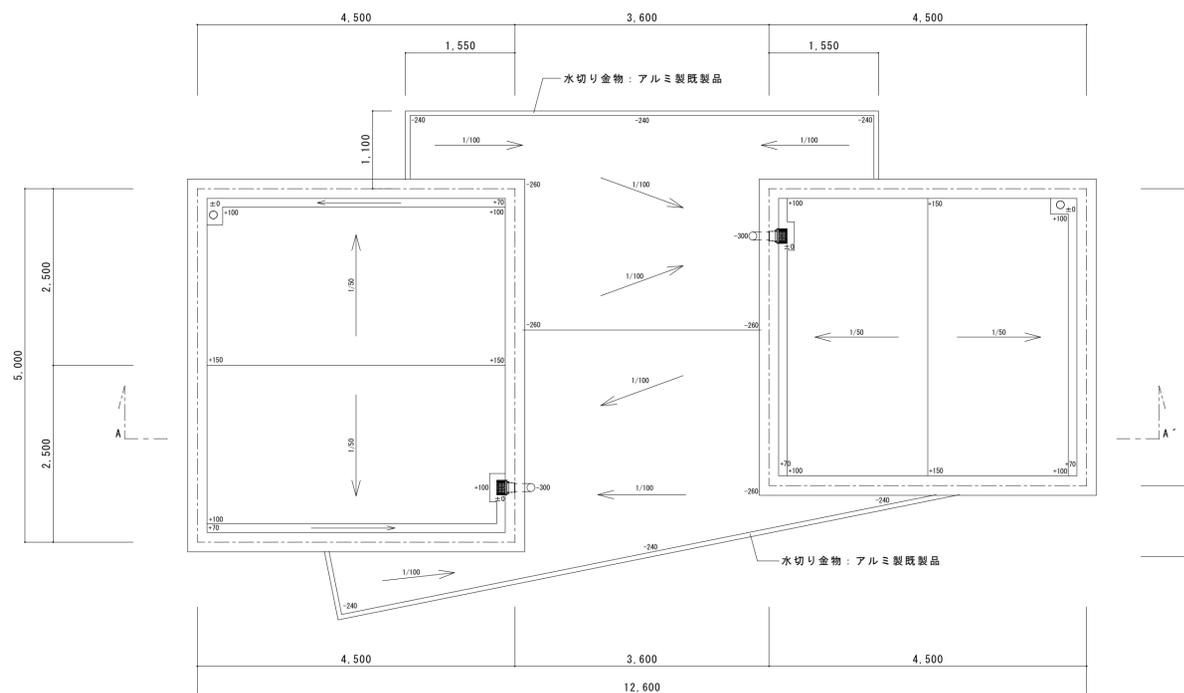
ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
 一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月: 令和3年12月	工事名称: 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事
承認: 中込 担当	向山 作図
	向山

図面名称: 屋外トイレ 立面図・断面図	縮尺: A1: 1/50 (A3: 1/100)	図面番号: AT-04
---------------------	--------------------------	-------------



天井伏図 S=1/50



屋根伏図 S=1/50

※数値は軒高からの高さを示す。

仕上凡例

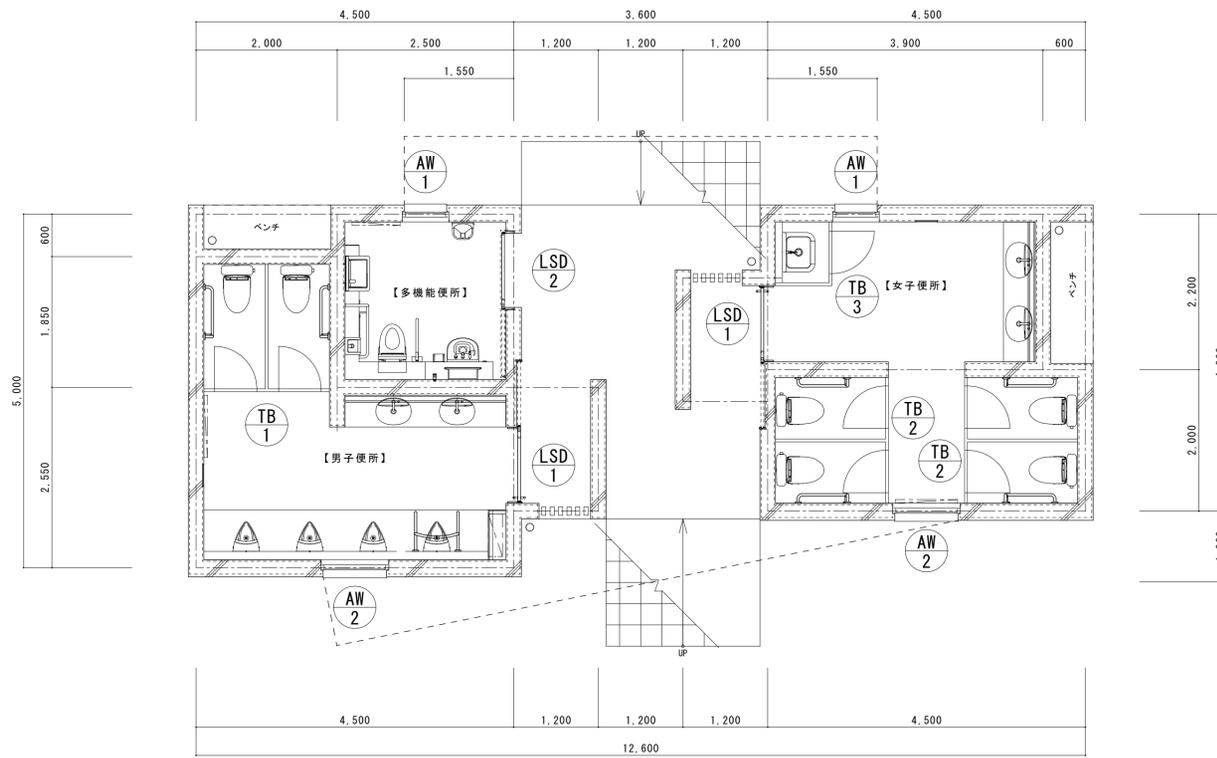
(A)	コンクリート化粧打放し補修
(B)	ケイカル板目透し張り t=6.0、EP塗装
(C)	鋼板製スバンドレル t=15
▽	天井点検口：目透しタイプ 450x450

特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月：令和3年12月	工事名称
承認 中込 担当 向山 作図 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

図面名称	縮尺	図面番号
屋外トイレ 天井伏図・屋根伏図	A1 : 1/50 (A3 : 1/100)	AT-05

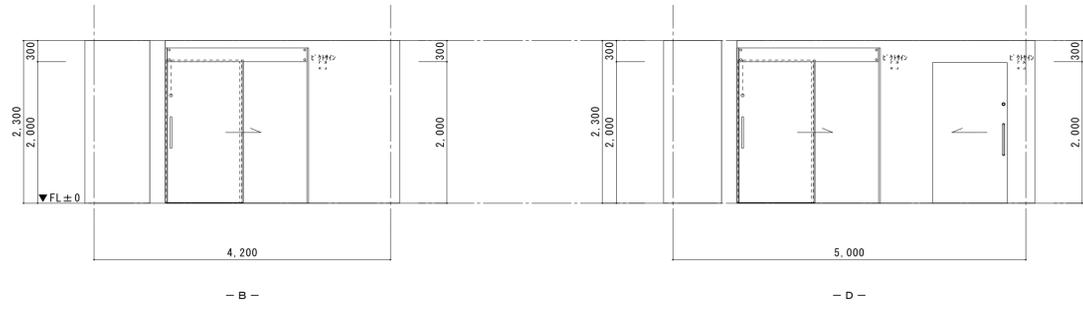


キープラン S=1/50

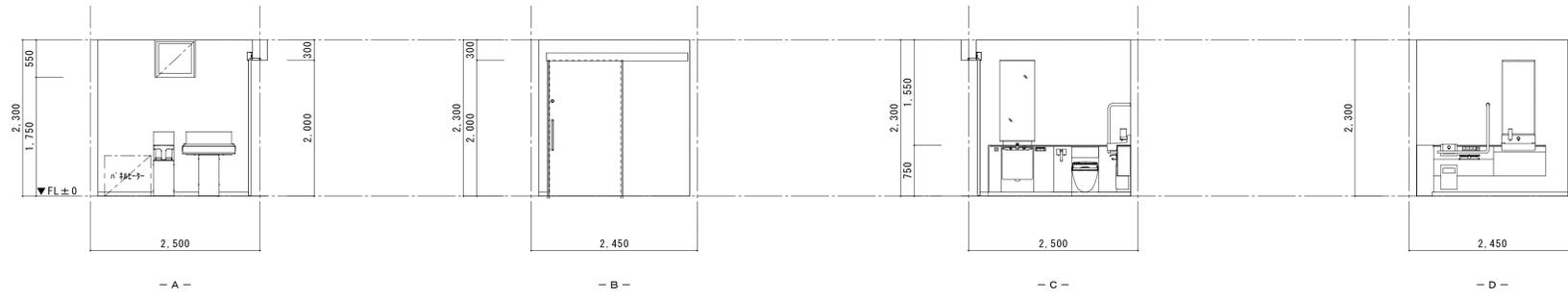
符号	使用ヶ所 本数	AW	多機能便所・女子便所	AW	男子便所・女子便所	LSD	男子便所・女子便所	LSD	多機能便所	TB	男子便所	TB	女子便所	TB	女子便所
		1	2	2	2	1	2	2	1	1	1	2	1	3	1
H	W	550	600	550	900	2,000	1,030	2,000	1,050	図示	図示	図示	図示	図示	図示
形状															
形式		すべり出し窓	すべり出し窓	すべり出し窓	すべり出し窓	片引きドア	片引きドア	片引きドア	片引きドア	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース
仕上/額縁		アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	化粧鋼板貼/焼付塗装	化粧鋼板貼/焼付塗装	化粧鋼板貼/焼付塗装	化粧鋼板貼/焼付塗装	高圧メラミン樹脂化粧板	高圧メラミン樹脂化粧板	高圧メラミン樹脂化粧板	高圧メラミン樹脂化粧板	高圧メラミン樹脂化粧板	高圧メラミン樹脂化粧板
ガラス		型板ガラス t=4.0	型板ガラス t=4.0	型板ガラス t=4.0	型板ガラス t=4.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
見込		70	70	70	70	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
金具		付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	ハンドル・SUS製沓摺・シリンダー錠 付属金物一式	ハンドル・SUS製沓摺・シリンダー錠 付属金物一式	引戸表示錠・ハンドル・SUS製沓摺・付属金物一式	引戸表示錠・ハンドル・SUS製沓摺・付属金物一式	指詰防止型 表示付スライドロック(非常時外開き用)	指詰防止型 表示付スライドロック(非常時外開き用)	指詰防止型 表示付スライドロック(非常時外開き用)	指詰防止型 表示付スライドロック(非常時外開き用)	指詰防止型 表示付スライドロック(非常時外開き用)	ステンレス巾木・付属金物一式
備考						外部側下部: SUSキックプレート(H=300)	外部側下部: SUSキックプレート(H=300)	外部側下部: SUSキックプレート(H=300)	外部側下部: SUSキックプレート(H=300)	ステンレス巾木・付属金物一式	ステンレス巾木・付属金物一式	ステンレス巾木・付属金物一式	ステンレス巾木・付属金物一式	ステンレス巾木・付属金物一式	ステンレス巾木・付属金物一式

特記事項	変更事項	ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体 一級建築士 第 217345 号 中込 秀	設計年月: 令和3年12月 承認 中込 担当 向山 作図 向山	工事名称 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事	図面名称 屋外トイレ キープラン・建具表	縮尺 A1: 1/50 (A3: 1/100)	図面番号 AT-06
------	------	--	------------------------------------	----------------------------------	-------------------------	-------------------------------	---------------

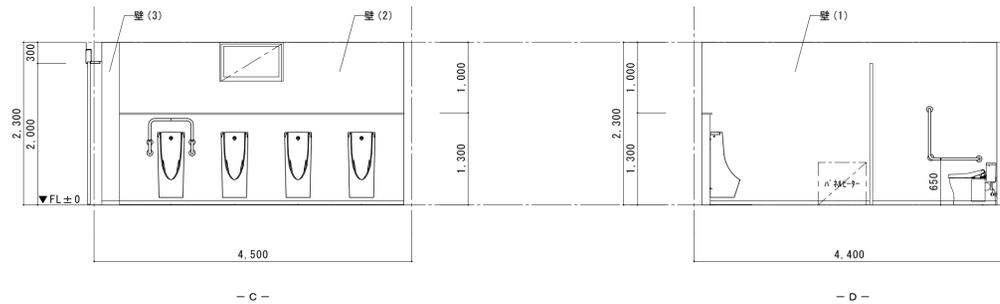
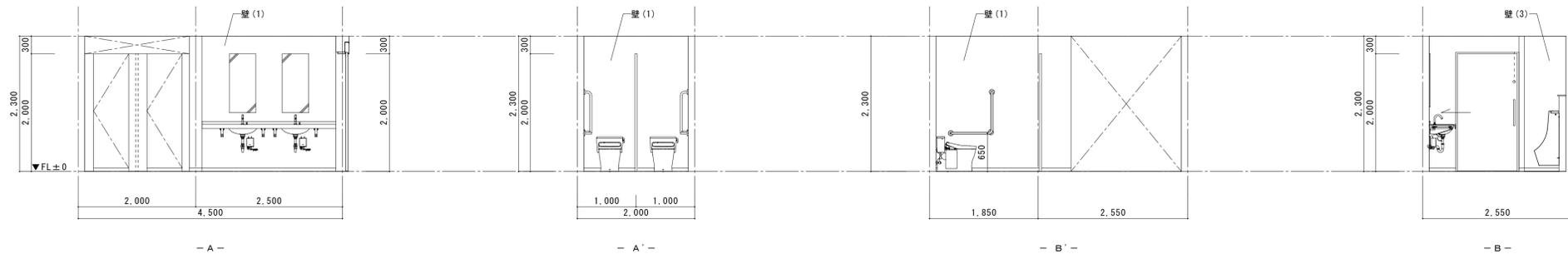
通路	
床	磁器質タイル 300×300
巾木	モルタル金ゴテ押え
壁	外壁(1): コンクリート打放し 外装薄塗材
天井	軒天(1): コンクリート化粧打放し補修
廻縁	—
備考	ピクトサイン: SUS切文字、焼付塗装口100



多機能便所	
床	磁器質タイル 300×300
巾木	SUS巾木 H=60 (芯材樹脂の上SUS箔)
壁	コンクリート化粧打放し
天井	LGS下地、ケイカル板 t=6.0 目透かし張り、EP塗装
廻縁	塩ビ
備考	衛生機器: 機械設備工事 ベビーチェア: 機械設備工事 天井点検口: 450×450 目地タイプ 床下点検口: 600×600



男子便所	
床	磁器質タイル 300×300 汚蓋石: t=6.0 W600
巾木	SUS巾木 H=60 (芯材樹脂の上SUS箔)
壁	壁(1): コンクリート化粧打放し補修 壁(2): モルタル下地、 アクリル樹脂系塗装 ケイカルレンウム板 t=6.0 目透かし張り 壁(3): LGS下地、PBt=9.5 アクリル樹脂系塗装 ケイカルレンウム板 t=6.0 目透かし張り
天井	LGS下地、ケイカル板 t=6.0 目透かし張り、EP塗装
廻縁	塩ビ
備考	ライニング: 人進大理石 t=20H=1,300 鏡: 450×1,000 (詳細図参照) 天井点検口: 450×450 目地タイプ 衛生機器・手摺・紙巻器 手洗いカウンター: 機械設備工事



特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月	令和3年12月
承認	中込 担当 向山 作図 向山

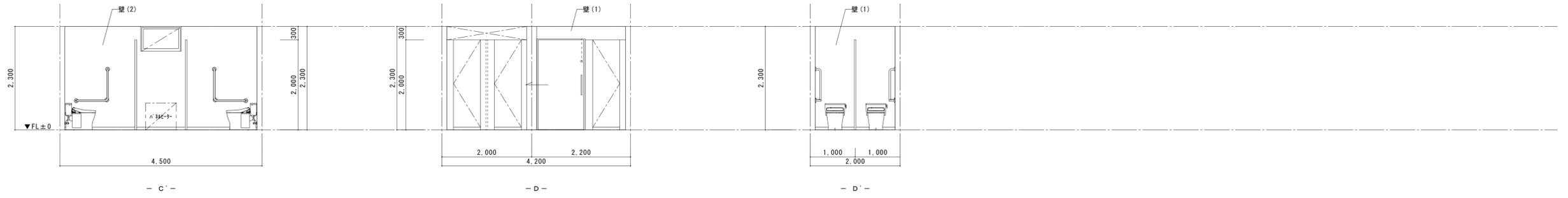
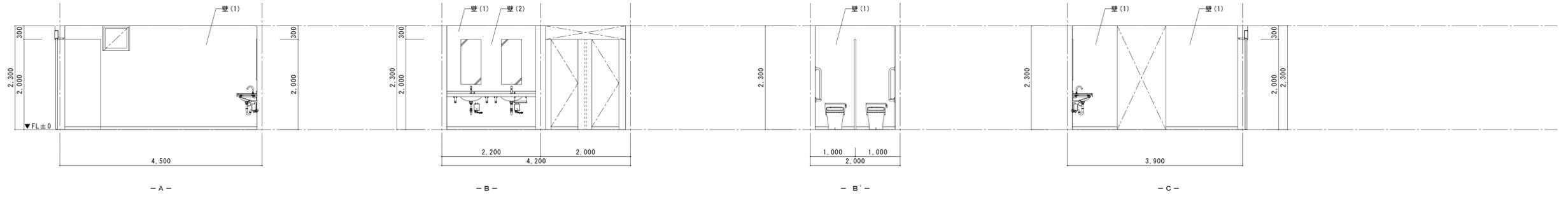
工事名称
緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

図面名称
屋外トイレ 展開図(1)

縮尺
A1: 1/50
(A3: 1/100)

図面番号
AT-07

女子便所	
床	磁器質タイル 300×300
巾木	SUS巾木 H=60 (芯材樹脂の上SUS箔)
壁	壁(1): コンクリート化粧打放し補修 壁(2): モルタル下地、 アクリル樹脂系塗装 ケイ酸カルシウム板 t=6.0 目透かし張り
天井	LGS下地、ケイカル板 t=6.0 目透かし張り、EP塗装
廻縁	塩t'
備考	ライニング(SK): 人造大理石 t=20H=900 鏡: 450×1,000(詳細図参照) 天井点検口: 450×450 目地タイプ 衛生機器・手摺・紙巻器 手洗いカウンター: 機械設備工事

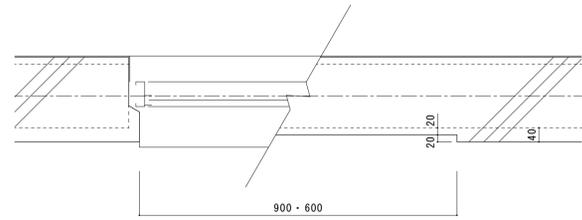


特記事項	変更事項

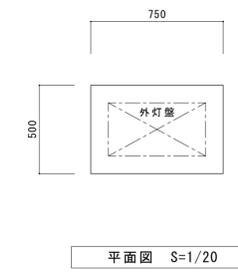
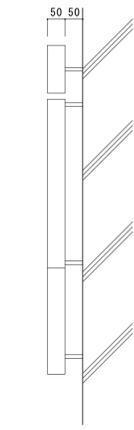
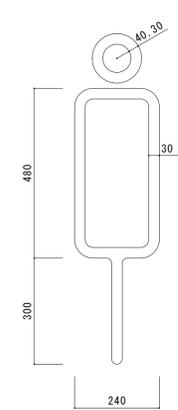
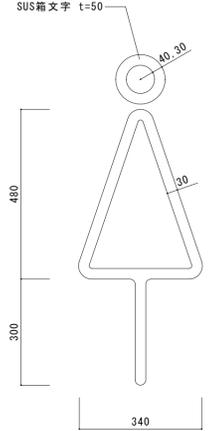
ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月: 令和3年12月	工事名称
承認 中込 担当 向山 作図 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

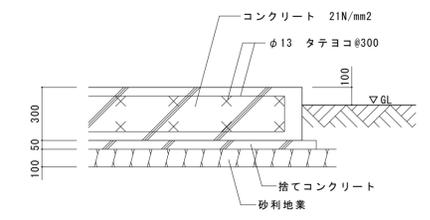
図面名称	縮尺	図面番号
屋外トイレ 展開図(2)	A1: 1/50 (A3: 1/100)	AT-08



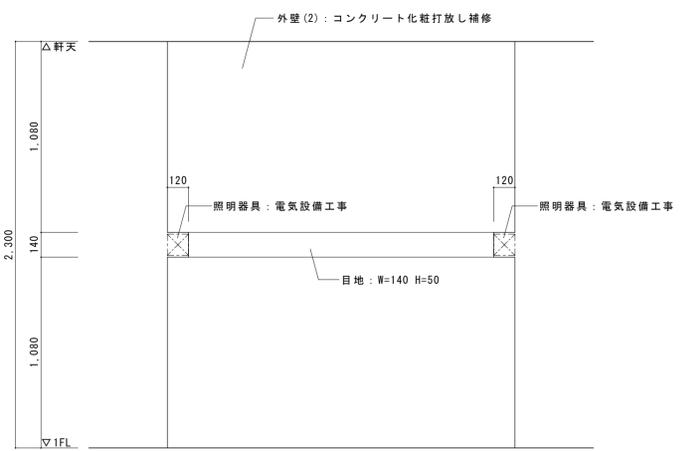
平面詳細図 S=1/10



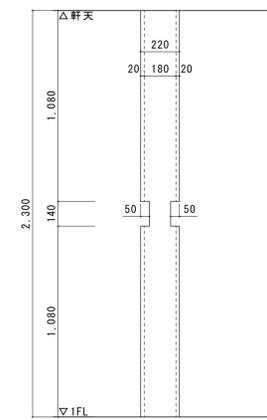
平面図 S=1/20



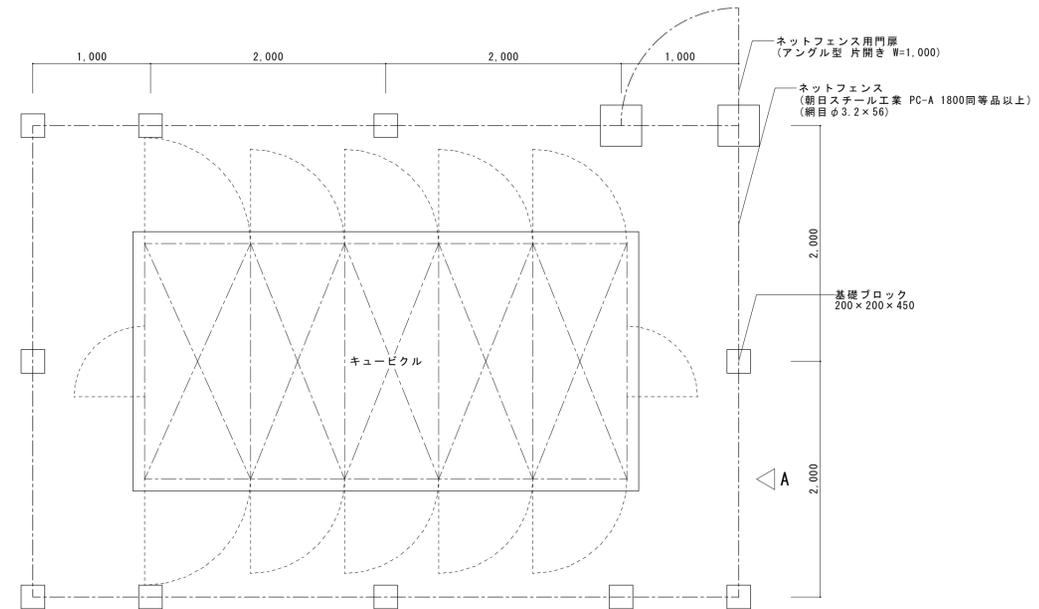
断面詳細図 S=1/20



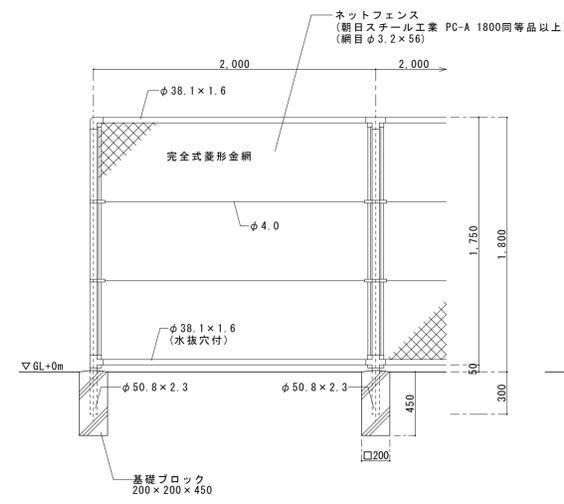
姿図 S=1/20



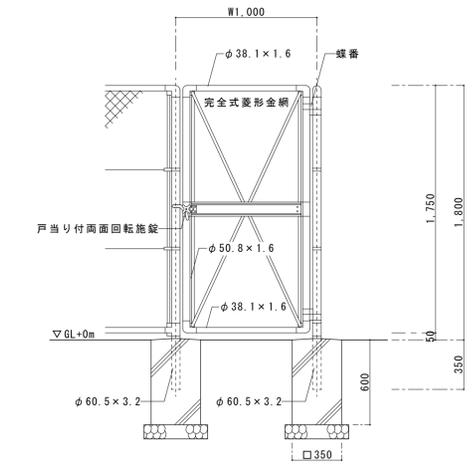
断面図 S=1/20 ※配筋は構造図参照



平面図 S=1/30



A面姿図 S=1/50



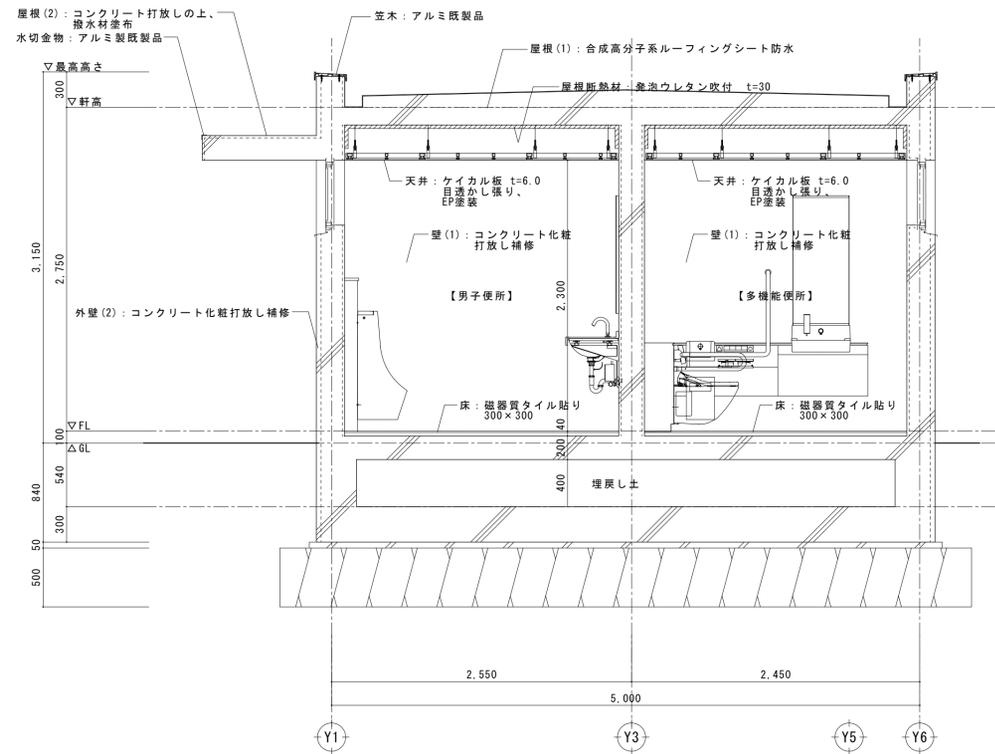
片側門扉姿図 S=1/50

特記事項	変更事項

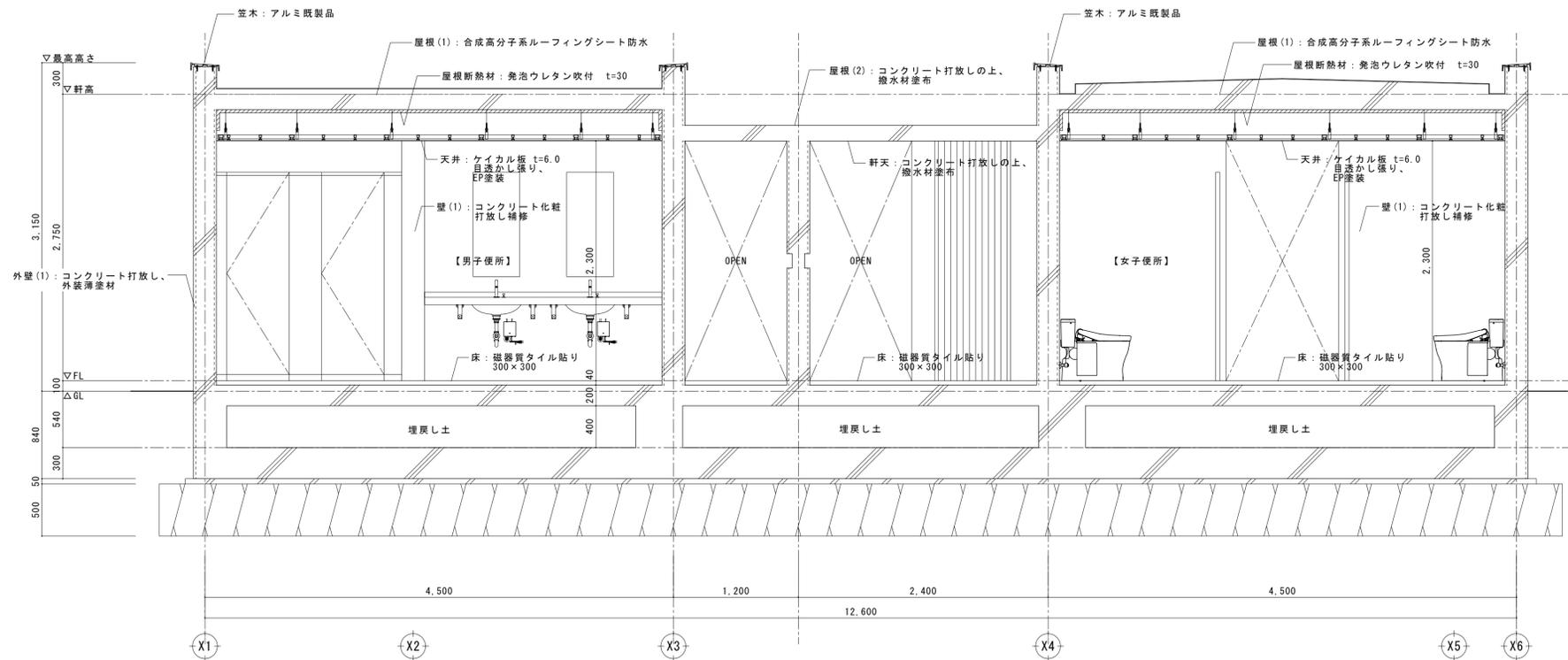
ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
 一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月	令和3年12月	工事名称	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事
承認	中込 担当	作図	向山

図面名称	屋外トイレ 部分詳細図	縮尺	A1: 図示 A3: 図示	図面番号	AT-09
------	-------------	----	------------------	------	-------



A-A' 矩計図 S=1/30



B-B' 矩計図 S=1/30

特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月	令和3年12月
承認	中込 担当 向山 作図 向山

工事名称	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事
------	--------------------------

図面名称	屋外トイレ 矩計図
------	-----------

縮尺	A1 : 1/30 A3 : 1/60
図面番号	AT-04

構造設計特記仕様

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称 緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設（建築主体）工事

建築場所 山梨県甲府市緑が丘二丁目内

(2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築

(3) 構造設計一級建築士の関与 必要 必要としない

法第20条第二号 RC造高さ20m超 S造 4階建以上 木造高さ13m超 その他

(4) 階数 地下 階 地上 1 階 塔屋 階

(5) 構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
<input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 (RC)	基礎 階～ 階	<input type="checkbox"/> 免振建物
<input type="checkbox"/> 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)	階～ 階	<input type="checkbox"/> 制震建物
<input type="checkbox"/> 鉄骨造 (S)	階～ 階	<input type="checkbox"/> 塔状建物
<input checked="" type="checkbox"/> 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)	1階	<input type="checkbox"/>

(6) 主要用途 便所

(7) 屋上付属物 高架水層 KN キュービクル KN 広告塔 煙突 太陽光発電設備 工作物

(8) 特別な荷重 エレベータ 人乗り(乗用) DW KN ホイスト kN 倉庫積載床用 N/m² 受水槽 KN

(9) 付帯工事 門扉 擁壁

(10) 増築計算 有 () 無

(11) 構造計算ルート X方向ルート 1-() Y方向ルート 1-()

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc = N/mm ²	品質基準強度 Fq = N/mm ²	調和管理強度 Fm = N/mm ²	スラブ厚 cm	所要空気量 (%)
捨コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	18N	18N	18N	18	
土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	21N	21N	21N	15	
基礎・基礎梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	24N	24N	24N+S	15	4.5
壁、床、梁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	24N	24N	24N+S	18	4.5
逆L型擁壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量	21N	21N	21N+S	15	4.5

混和剤 AE減水剤 高性能減水剤

呼び強度を保証する材齢、養生 材齢 (●) 28日 56日 養生 (●) 現場封かん 現場水中 ● 標準

● 単位水量は185kg/m³以下、単位セメント量は270kg/m³以上とする

● 主要構造部、水セメント比は ● 65%以下 □ 50%以下 とする

● 調和管理強度 Fm = Max (Fc, Fd) + S S = 3~6 (JASS5 (2015年版))

材齢 28日の調和管理強度 F は下記の両式を満足するものとする

(2) コンクリートブロック (C B)

A種 B種 C種 厚 100 120 150 190

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
<input checked="" type="checkbox"/> SD295A	D16以下	躯体全般	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D16以下
<input type="checkbox"/> SD295B			<input type="checkbox"/> ガス圧接継手 D19以上
<input checked="" type="checkbox"/> SD345	D19以上	地中梁	<input type="checkbox"/> 大臣認定番号 MSRB
<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> 特殊継手

高強度せん断補強筋

丸鋼 SR235

溶接金網 (JIS G 3551)

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
<input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SM400B		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SM400 <input type="checkbox"/> SM400A, B, C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490 <input type="checkbox"/> STK400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
<input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SM490B <input type="checkbox"/> SM490C		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

(5) ボルト

高力ボルト * 締付けが困難な箇所は、JIS形高力ボルト (F10T) を用いる

普通: F10T 特殊: S10T 認定品 (M12 M16 M20 M22 M24)

溶融亜鉛メッキ高力ボルト F8T 認定品 (M12 M16 M20 M22 M24)

ボルト (JIS B1180) M12 M

アンカーボルト * ベースパック工法は仕様書による

S S 400 M12 L = 250mm ナット (シングル、 ダブル)

S S 400 M20 L = 400mm ナット (シングル、 ダブル)

A B R 400 M20 L = 500mm ナット (シングル、 ダブル)

頭付スタッド

φ = 19 L = 80mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

φ = 16 L = 80mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

(6) 屋根、床、壁

A.L.C版 厚 50、100、125、150

窯業系サイディング 角リブ断熱サイディング t15 ガルバリウム鋼板 t

デッキプレート 型式EZ50 厚1.2

キーストーンプレート 型式 厚

折板H=150 t0.8 ルーフデッキ 70.8 (底)

3. 地盤

(1) 地盤調査資料

有 (●敷地内 □近隣) ●ボーリング調査 平板荷重試験 水平地盤反力係数の測定

液状化判定 現場透水試験 土質試験 SWS試験

無 (調査予定 有 無)

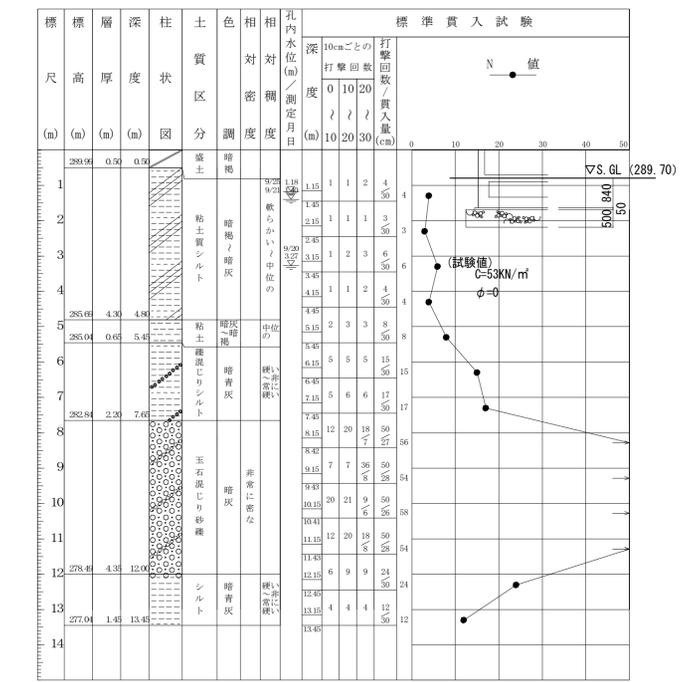
(2) 地盤調査計画

ボーリング調査 静的貫入試験 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定

土質試験 物理深査 平板荷重試験 試験掘 (支持層の確認)

(3) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎・杭の位置を明記する)

Br-N0.1 孔口標高 290.490m



○ 支持地盤、地層及び深さに 表層-1.4m付近

○ 孔内水位 設計地番とは約 mの距離がある

○ 近隣データの調査地番と

4. 地業工事

(1) 直接基礎

ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験堀 有 無

長さ GL-1.69 m (フーチング下面) 支持層 表層-3.0m付近より以深の粘土質シルト層

長期許容支持力 50kN/m² 荷重試験 有 無

フーチング下面の設計砕石厚さを50cmとする

(2) 杭基礎 支持層-

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PRC	PRC (<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種 <input type="checkbox"/> IV種)	<input type="checkbox"/> 打ち込み	
<input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼	PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種)	<input type="checkbox"/> 埋込み (プレボーリング拡大根固め工法)	大臣認定
<input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭	鋼材 <input type="checkbox"/> S S 400 <input type="checkbox"/> S T K 400	<input type="checkbox"/> ケーシング併用ケム工法	
<input type="checkbox"/>	鋼材 <input type="checkbox"/> S T K 490	<input type="checkbox"/> NEWスーパーFK工法 (摩擦杭)	
<input type="checkbox"/> 場所打ちコンクリート杭	コンクリート Fc = N/mm ²	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 掘削杭	掘削杭 日本建築センター認定
	スラブ セメント量 kN/m ³	<input type="checkbox"/> リバーサーキュレーション	第 号
	鉄筋 主筋 SD	<input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース	年月日
	HOOP SD	<input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 手掘 <input type="checkbox"/> 機械掘	

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書

試験杭 (有 無) (打ち込み 荷重 掘削攪拌、埋設状況、支持層確認)

杭径 (mm)	節径-軸節径	設計支持力 (kN/本)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度 (Fc) が 36N/mm²以下に適用し、鉄筋の材質はSD390以下に適用する。

コンクリートは J I S 認定工場の製品とし、施工に関しては JASS5 (2015) による。

耐久設計基準強度 F d □ 短期 ● 標準 □ 長期 □ 超長期

セメントは、J I S R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体 (J A S S 5 T -603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。

また、打ち込み量が150m³を越える場合は、150m³ごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。尚、設計基準強度が27N/mm²以上の場合は、打ち込み区ごと、打ち込み日ごと、かつ、100m³又は、その端数ごとに1回以上とする。

1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車か必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用になるものを用いる。

ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分以内、25℃以上の場合は120分以内とする。

(2) 鉄筋

鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工は JASS5 (2015) による。

高強度せん断補強筋は、JIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。

鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。

D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

表9.4 鉄筋の継手

鉄筋継手工法	継手の位置等の設計条件による仕様・等級			鉄筋の径	使用箇所
	(1) 引張力最小部位	(2) (1)以外の部位 (注)			
<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手	標準図による	A級	B級 SA級	● D (16) 以下	梁、スラブ
<input checked="" type="checkbox"/> 圧接継手	● 告示1463号第2項各号	■		● D (25) 以下	梁、スラブ
<input type="checkbox"/> 溶接継手	● 告示1463号第3項各号	□	□	□ D () 以下	
<input type="checkbox"/> 機械式継手	● 告示1463号第4項各号	□	□	□ D () 以下	

注) (1)以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・認定等取得した継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋継手使用基準 (建築物の構造関係技術基準解説書 2007)」によって検討した部材の条件・仕様によること。

機械式継手および圧接継手および溶接継手は (公社) 日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」による他、所要の品質が得られるように工事計画および工事管理計画を定めて、工事監理者の承認を受ける。

ガス圧接の施工は、強風時または降雨時には原則として作業を行わない。ただし、風除け覆いなどの設備をした場合には、工事監理者の承認を得て作業を行うことができる。

圧接技量資格者は、(公社) 日本鉄筋継手協会によって承認された技量適格性証明書を工事監理者に提出し、承認を受ける。

機械式鉄筋定着工法に用いる定着板には信頼できる機関による性能証明書を取得した定着金物を用いる。定着工法使用の際は、仕口内フープ及び定着長さ等の検討を各メーカーの技術評価に基づき行い、監理者の確認を得ること。

(b) 検査

継手部の検査方法

各継手工法ごとの検査は平12建告1463号による他、具体的な検査方法は、(公社) 日本鉄筋継手協会の仕様書を参照のこと。

表9.5 継手の検査

継手方法	外観検査	引張試験	超音波探傷試験
1 ガス圧接	<input checked="" type="checkbox"/> 有 100 %	抜取り1検査のト当たり <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 % 個	抜取り1検査のト当たり <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 30 % 個
2 溶接	<input type="checkbox"/> 有 %	抜取り1検査のト当たり <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 % 個	抜取り1検査のト当たり <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 % 個
3 機械式 (ねじ節鉄筋継手等)	<input type="checkbox"/> 有 %	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 % 個	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 検査ロットごとに10箇所

ガス圧接部分の検査を超音波探傷検査によって行う場合、最初のロットについては引張試験も併用し、1回の引張試験は5本以上とする。(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200箇所程度とする。)

鉄筋の継手の試験・検査は、「要領」第4条の試験機関、又は第8条の検査機関、又は、これに準ずる法的試験機関で行うこと (都知事登録 号)

鉄筋機械式接手は、接合する鉄筋のカブラー又はスリーブへの挿入長さの確保が重要である。継手施工のプロセス管理は、鉄筋接合工事標準仕様書機械式継手工事 (2017年) (日本鉄筋継手協会) に準じて行い、受入検査で外観検査の他に挿入長さを超音波測定検査 (SVコーナーエコー法) によること。

超音波測定検査の検査ロットは同一作業班が同一日に施工した継手個所とし、その大きさは200箇所程度を標準とし、サンプルの大きさは検査ロットごとに10箇所とする。

鉄筋機械式継手の外観検査項目 (受入検査)

ねじ節鉄筋継手 (カブラーの外観、挿入マーク、挿入長さ、合わせマーク、グラウト材の充填)

モルタル充填継手 (スリーブの外観、挿入マーク、挿入長さ、モルタルの充填)

端部ねじ加工継手 (カブラー・固定ナットの外観、挿入長さ、固定ナットの締付け)

(3) 型枠

■ 型枠および支保工の存置期間は、昭63年建第1655号に基づき下表による。

表9.7 型枠存置日数 昭和46年建設告示第110号 (昭和63年改正建設告示第1655号)

種類	部位	せき板		支柱					
		基礎、梁側、柱、壁	スラブ下、梁下	スラブ下					
セメントの種類	早強ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント				
	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント				
	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種				
存置期間の平均気温	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種				
	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
	5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28	
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28		
コンクリートの圧縮強度		※ 5. 0 N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の85%		100%	

※ JASS 5では普通コンクリートの場合計画供用期間の級が標準にあっては5 N/mm²以上、長期及び超長期の場合は10 N/mm²以上、また高強度コンクリートの場合は10 N/mm²以上。

注) 1 片持ち梁、庇、スパン9.0m以上の梁下は、工事監理者の承認による。

注) 2 大梁の支柱の盛替えは行わない。また、その他の梁の支柱も原則として行わない。

注) 3 支柱の盛替えは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。

注) 4 盛替え後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。

注) 5 支柱の盛替えは、小梁が終わってからスラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って盛替えをしてはならない。

注) 6 直上階に着しく大きい積載荷重がある場合においては、支柱 (大梁の支柱を除く) の盛替えを行わないこと。

注) 7 支柱の盛替えは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある振動または衝撃を与えないように行うこと。

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

日本建築学会「JASS6 2015 鉄骨精度検査基準」 「鉄骨工事技術指針」

鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書

認定または登録工場 (R グレード以上 都登録 ランク)

材料規格証明書または試験成績書

鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド

社内検査表 溶接材料

(3) 工事監理者が行う検査項目

(印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)

原寸検査 組立・開先検査 製品検査

建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

東京都アーク溶接工事管理規程 (建築構造設計指針第12章)

鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取要要綱 (建築構造設計指針第12章)

日本建築学会「溶接作業規程、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII」

日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工」

(5) 接合部の検査

溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
<input type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100 %	30 %	%	
<input type="checkbox"/>	外観 (目視) 検査	100 %	30 %	100 %	
<input type="checkbox"/>	マクロ試験・その他	%	%	%	

第三者検査機関名

第三者検査機関名とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。

注2) 現場溶接部は、超音波探傷試験を100%行う事。

高力ボルトの検査 (検査結果は、後日工事監理者に報告すること)

軸力導入試験 ● 要 否 高力ボルトすべり係数試験 要 否

一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常がないことを確認する。

トルシア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

(6) 防錆塗装

防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、 JIS K5621、 JIS K5625、 JIS K5674 を使用して4つ星、2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。

現場における高力ボルト接合部及び接合部の錆地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。

建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。

床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ50mm以上を原則とする。

建築設備は、施行令第129条の2の4の規定に基づき、国交省1447号に基づく転倒防止等その他の措置を講じること。

設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。又、地震力等に対して適切に支持されていること。

設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。

8. その他

諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

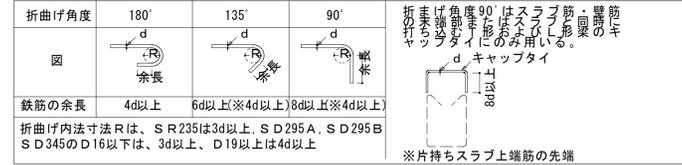
1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号
 d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値 D...部材の成 R...直径
 @...間隔 r...半径 C...中心線 O...部材間の内法距離 ho...部材間の内法高さ
 ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S, HOOP...補強帯筋 φ...直径

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



(2) 鉄筋中間部の折曲げ形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

折曲げ角度	図	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内のり寸法
180°		SD295	D16以下	3d以上
		SD345	D19~D41	4d以上
135°		SD390	D41以下	5d以上
		SD490	D29~D41	6d以上
90°				

(3) 鉄筋の定着及び重ね継ぎ手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着長さ		特別の定着及び重ね継ぎ手の長さ (L ₁)
		下筋 (L _a)	上筋 (L _b)	
SR235	21, 24	35d フック付	25d フック付	35d フック付
	18以下	45d フック付	150mm フック付	45d フック付
SD295A SD295B SD345	24~36	30d または 20dフック付	25d または 15d フック付	35d または 25dフック付
	21	35d または 25dフック付	10d かつ 150mm以上	40d または 30dフック付
SD345	18以下	40d または 30dフック付		45d または 35dフック付
	30~36	30d または 20dフック付		35d または 25dフック付
SD390	24~27	35d または 25dフック付		40d または 30dフック付
	21	35d または 25dフック付		45d または 30dフック付
SD390	18以下	40d または 30dフック付		50d または 35dフック付
	27~36	35d または 25dフック付		40d または 30dフック付
SD390	21, 24	40d または 30dフック付		45d または 35dフック付

(注) 許容応力度計算、許容応力度等計算、その他構造計算を要さない小規模建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は 40dとする。

一般定着の直線L₂または、フック付のL₂h、L_a、L_bの図

JASS5 (2009)

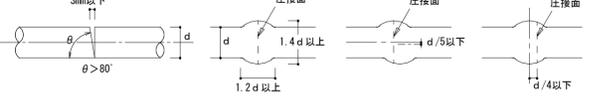


- 重ね継ぎ手の長さは、鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付のL₂hは仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。
- 軽量コンクリートを使用する場合は、(3)の数値に5d加算する。

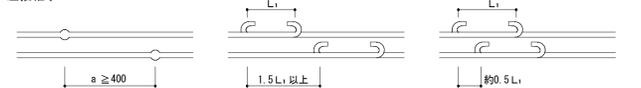
継手

- 末端のフックは、定着及び重ね継ぎ手の長さに含まない。
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- 直径の異なる鉄筋の重ね継ぎ手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする。

ガス圧接形状



圧接継手



(4) 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

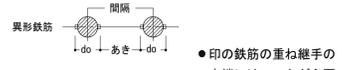
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ・床スラブ・片持ちスラブ**・非耐力壁	20*	30*
耐力壁・壁梁・小梁・片持ち梁	30*	40*
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

[注] * 耐久性上有効な仕上げがない場合は、屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。

又、軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 ** 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。 [8-(1)の◎参照]

(5) 鉄筋のあき

- 異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



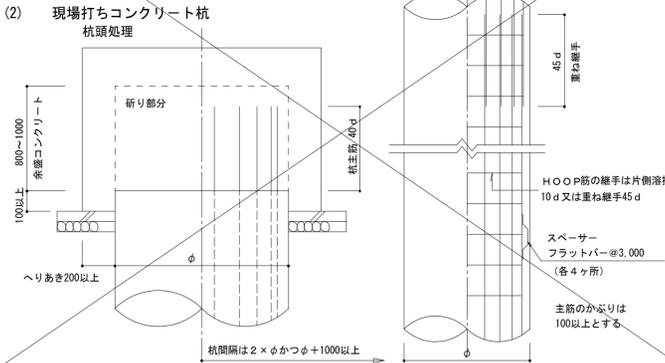
(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける)

- 壁長が1m以下の壁横筋の末端
- あばら筋、帯筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁 (基礎梁は除く) の出すみ部分の鉄筋 (右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準に記載する箇所

3. 杭 (地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

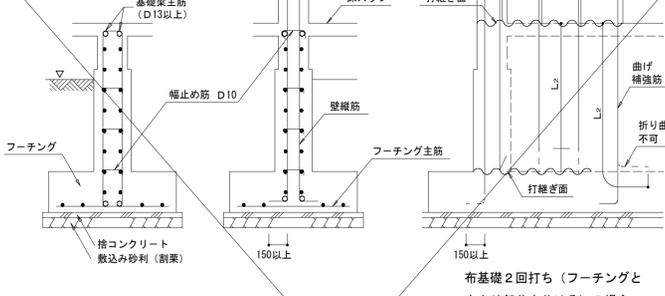
杭については、原則として構造図面による

- PRC杭、又はPHC杭等において、杭頭が所定の位置に止まった場合、或は、低い位置に止まった場合の全てに補強を行う。
- 現場打ちコンクリート杭 杭頭処理



4. 基礎

(1) 布基礎



布基礎2回打ち (フーチングと立上り部分に分ける) の場合

原則として基礎より下端主筋・ベース筋配筋力および交差部ベース筋を配置する
 また、特殊な場合には、はかま筋を配置する

ベース筋の間隔は原則として20cm以下とし
 配筋力の間隔は30cm程度とする
 P: ベース筋の設計間隔

8. (3)の上・下筋を読み替える

交差部ベース筋
 配筋力 (交差部まで延ばす)

T形交差部

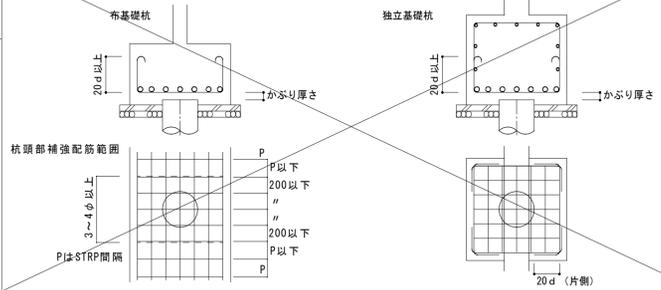
第1ベース筋 (直交布基礎の縁に配置する)

壁基礎交差部の配筋 (平面)

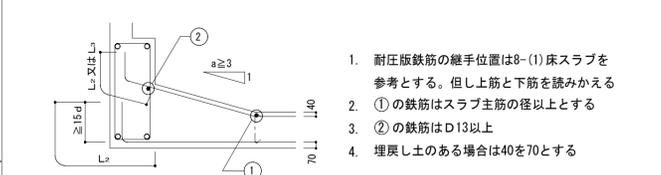
L形交差部

基礎より下端主筋

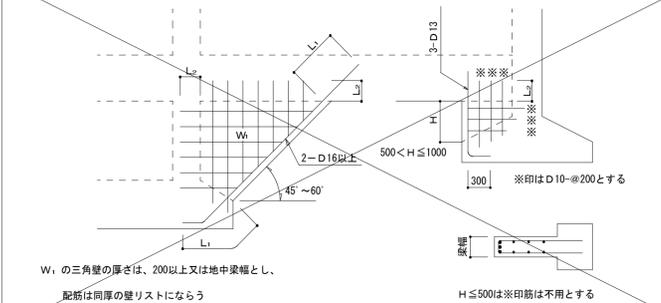
(2) 杭基礎



(3) べた基礎

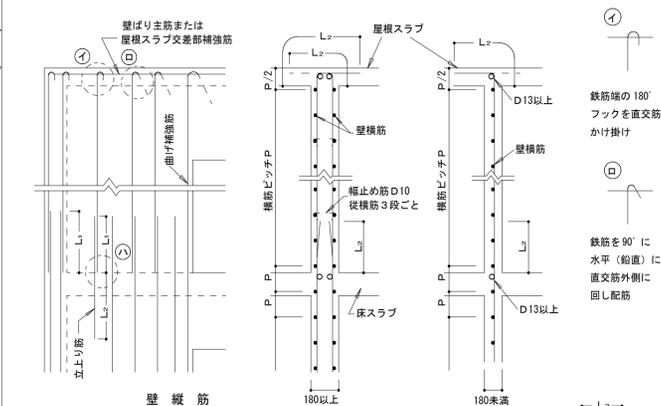


(4) 基礎接合部の補強



5. 耐力壁

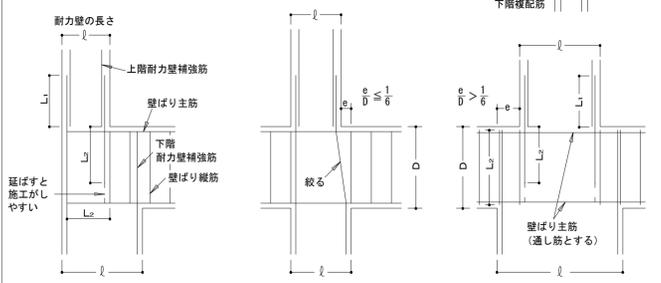
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



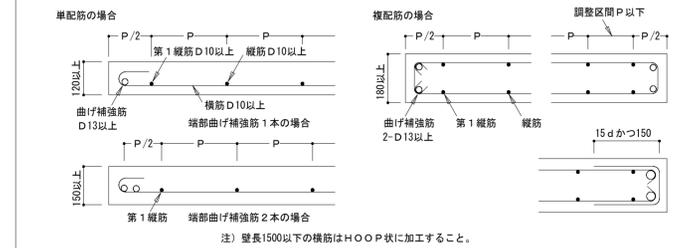
耐力壁と床・屋根スラブ



(2) 上・下階耐力壁の各種配置

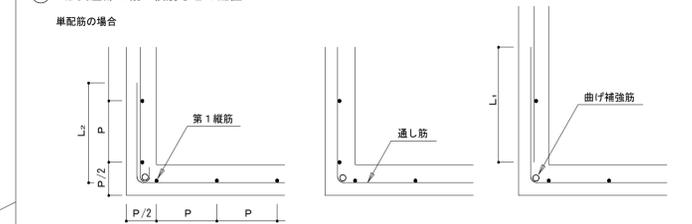


(3) 耐力壁の縦・横筋の配置

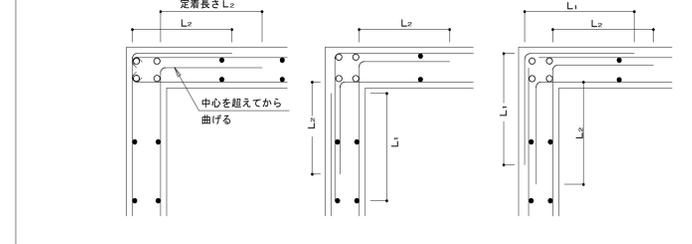


(4) 耐力壁が交差する場合 (平面)

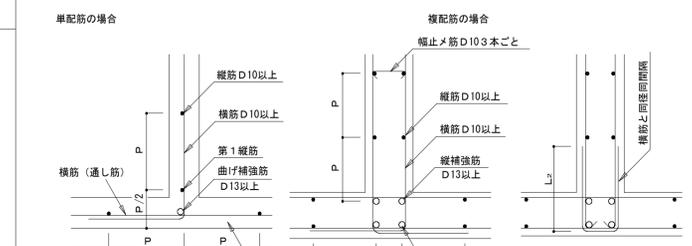
◎ L形交差部の縦・横筋などの配置



◎ T形交差部の縦・横筋などの配置



◎ 十形交差部の縦・横筋などの配置



6. 使用可能な鉄筋の最大径 (標準)

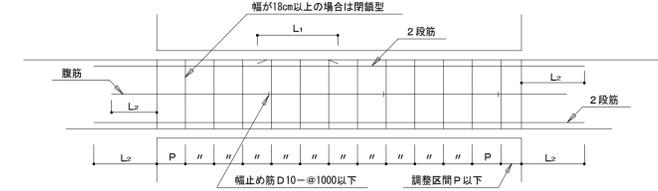
部位	耐力壁	壁がりよう小梁	布基礎基礎梁	スラブ	非耐力壁	塀
構造種別	壁式鉄筋コンクリート造					
最大径	D22	D22	D25	D16	D16	D16

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-3による。

7. 壁梁、小梁

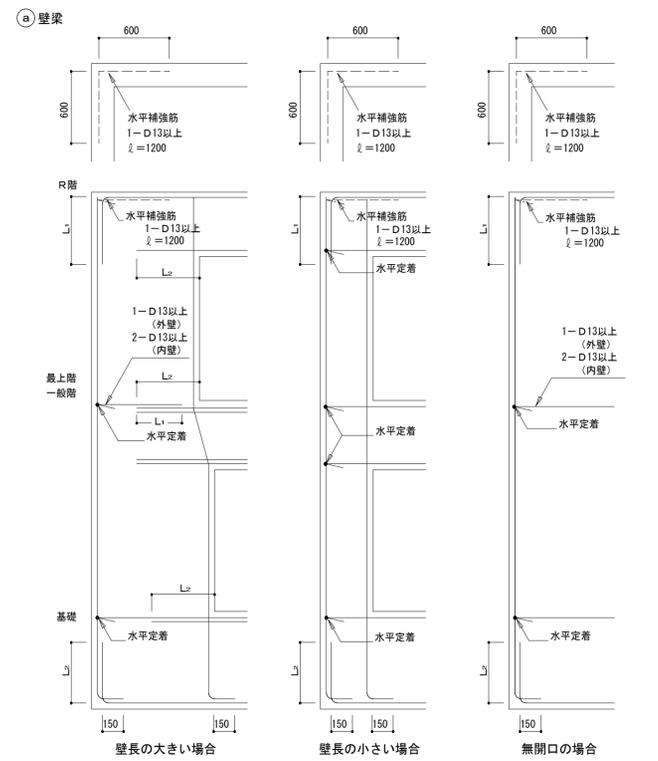
(1) 壁梁の標準配筋図



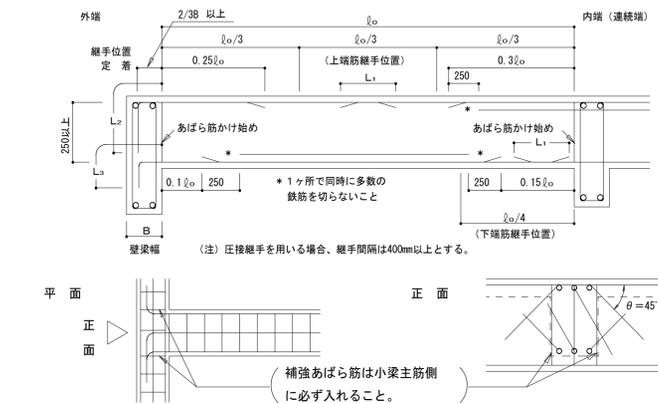
(2) 壁梁の範囲



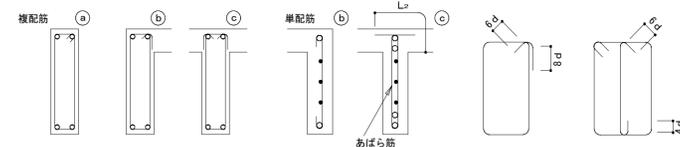
(3) 定着



(b) 小梁の定着・継手位置およびトップ筋長さ

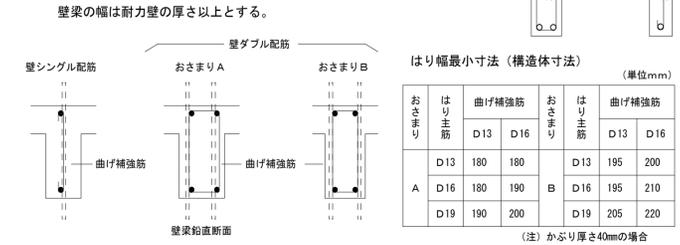


(4) あばら筋の型



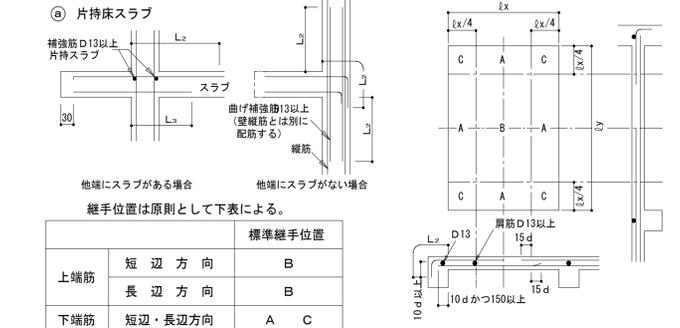
(イ) 原則として (a) のフック先曲げとする。
片側床版付 (L型) 梁で (b)、
両側床版付 (T型) 梁で (c) とすることができる。
(ロ) フックの位置は (a) にあつては交互、
(b) にあつてはスラブ側とする。

(5) 壁梁と壁のおさまり



8. 床板

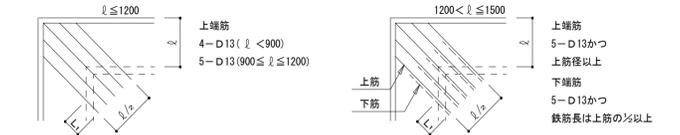
(1) 定着および継手



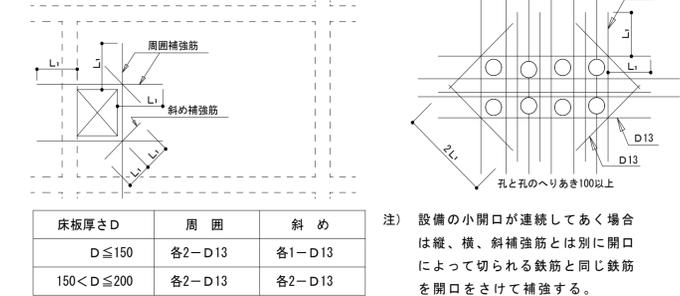
(2) 屋根スラブの補強



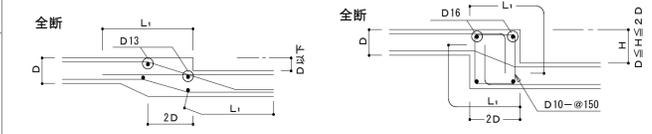
(3) 片持スラブ出隅部補強



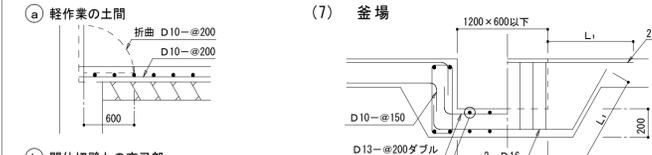
(4) 床板開口部の補強



(5) 床板段差



(6) 土間コンクリート

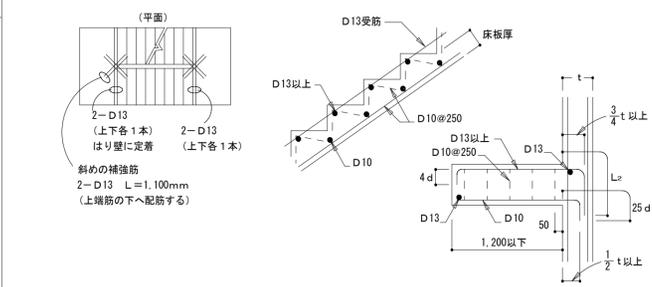


(7) 釜場



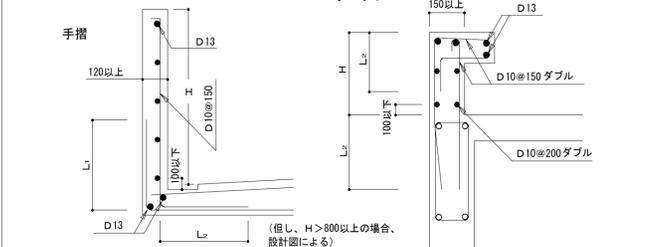
9. 階段

片持ち階段

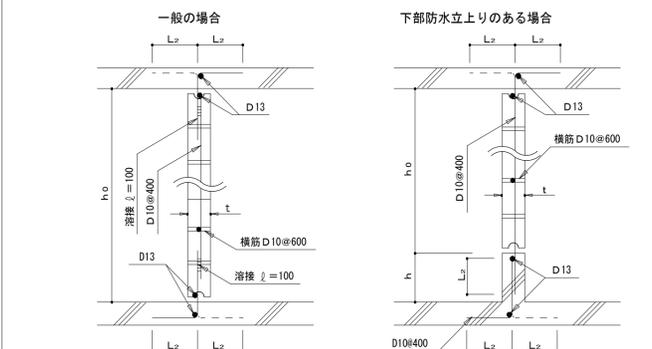


10. その他

(1) 手摺、バラベツト



(2) コンクリートブロック帳壁

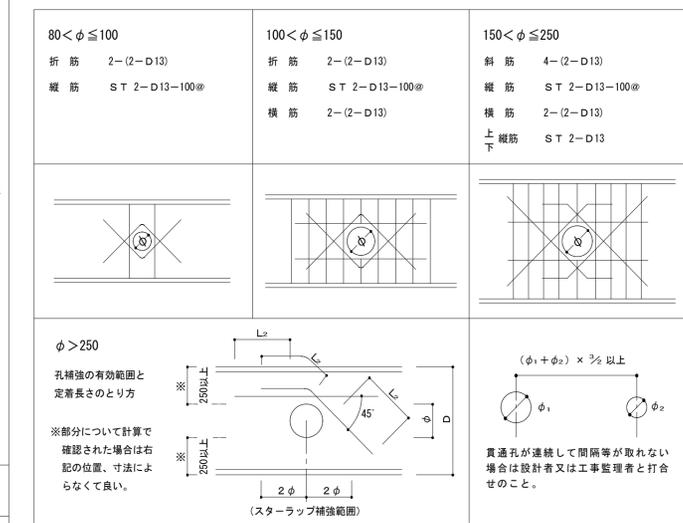


(注) h ≤ 25 t かつ 3500 以下とする。但し直交方向 25 t 以内壁、又は柱がある場合は除く
(注) h はコンクリートブロック段数調節寸法とする。但し、200 ≤ h ≤ 400
(注) 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること

11. 梁貫通孔補強

既製品使用を原則とする

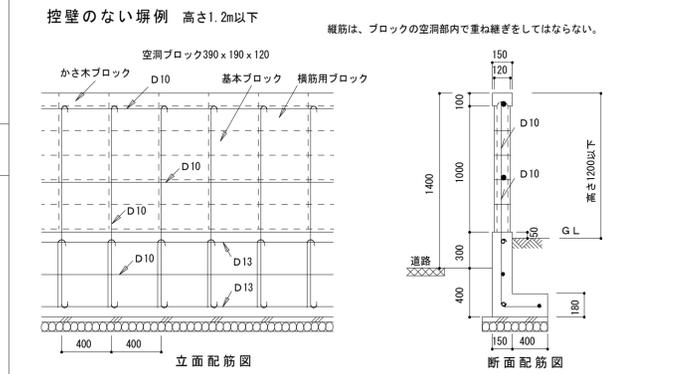
- (1) 既製品 (検討書に基づき設計者又は工事監理者の承認を得ること)
 リング型 パイプ型 金網型 プレート型
- (2) 鉄筋標準配筋 但し $\phi \leq D/3$ とする
 設置可能範囲 梁端部 (スパン $l/10$ 以内かつ D 以内) は避ける



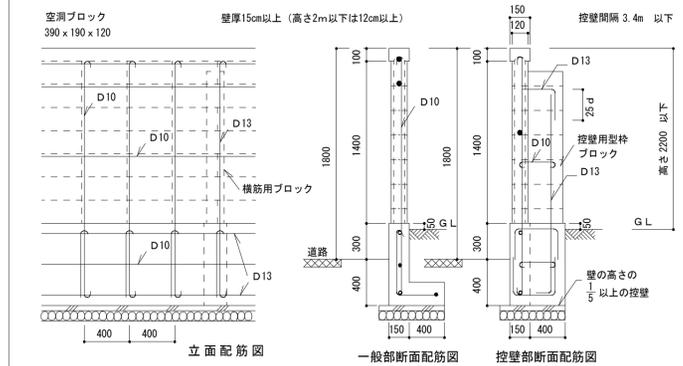
12. コンクリートブロック塀

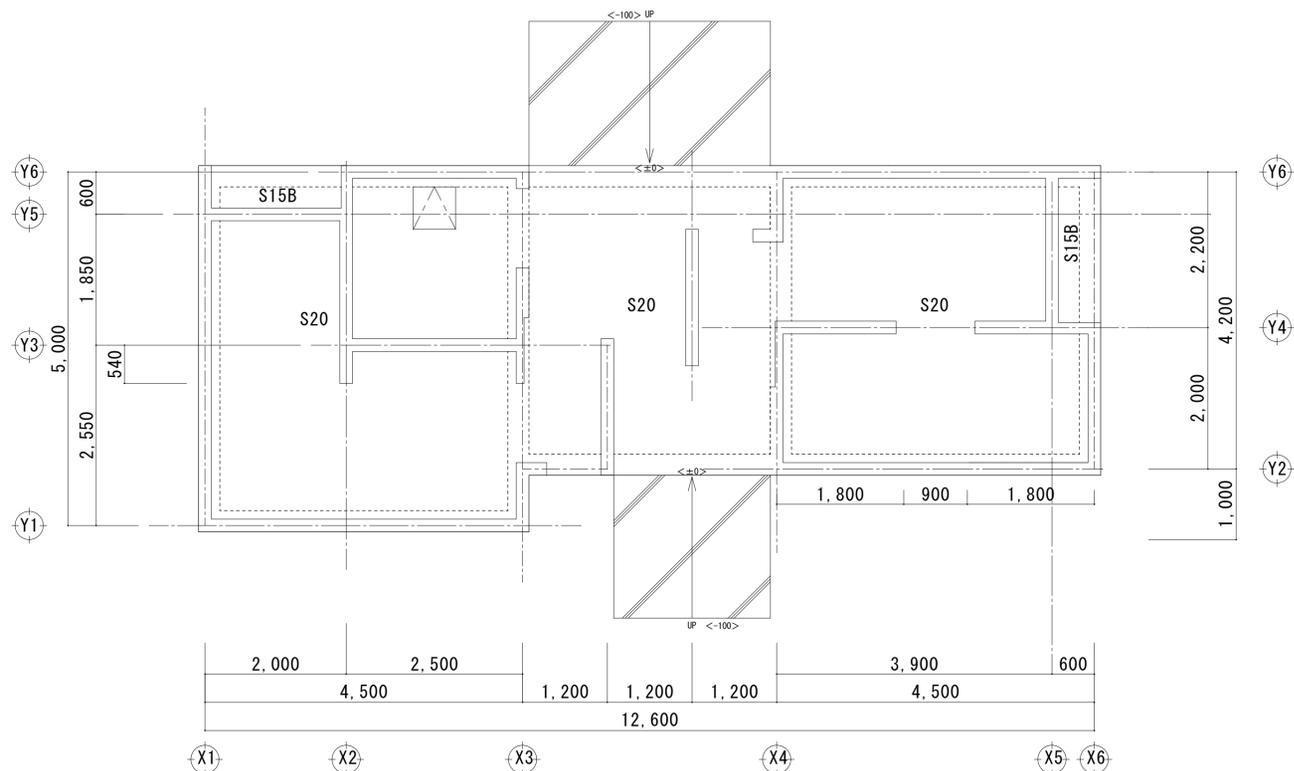
(1) ブロック塀の高さ・厚さと基礎の構造

- a. 塀の高さ (地盤面に高低差のある場合は低い方による) は 2.2m 以下。
 b. 塀の厚さは、塀の高さ 2m 以下の場合は 12cm 以上、2m を超える場合は 15cm 以上。
 c. 地盤が液状化の恐れのある砂質土および軟弱土の場合は、別途検討する。
 d. 鉄筋挿入部はモルタルを充てんすること。



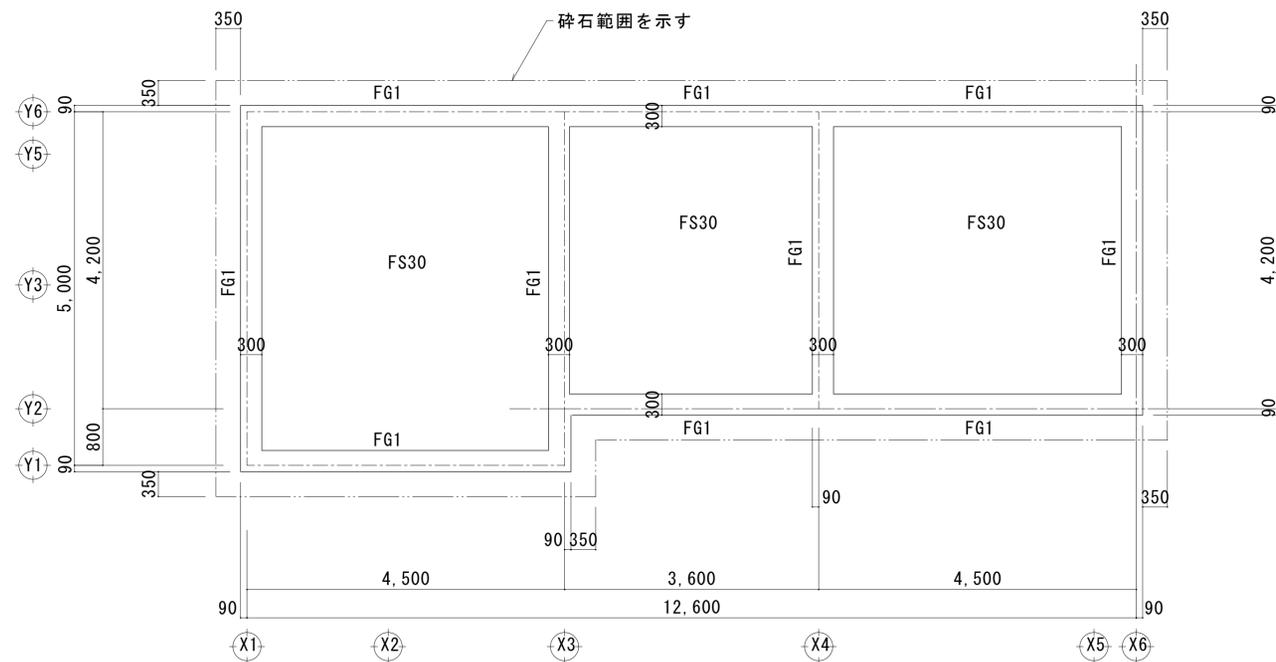
控壁のある塀例 高さ2.2m以下





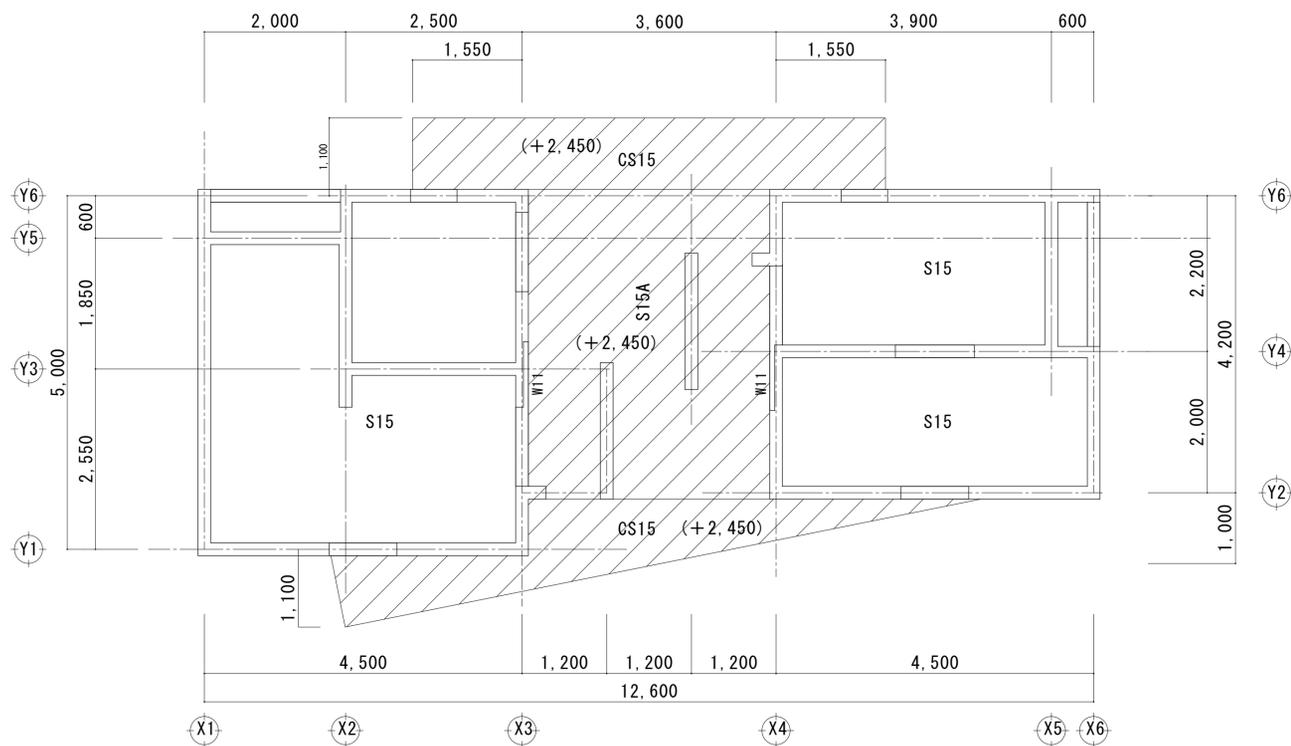
1階床梁伏図 見下げ図

特記なき限り下記による
1. 土間コンクリート t150



基礎及びピット伏図 見下げ図

特記なき限り下記による
1. 耐圧版 (FS35) 天端 : 1FL-640



1階壁・R階床梁伏図 見上げ図

特記なき限り下記による
1. 壁 : W18
2. スラブ天端 : 1FL+2,750
但し、(+*)は、その他のスラブのFLからの高さを示す

特記事項	変更事項

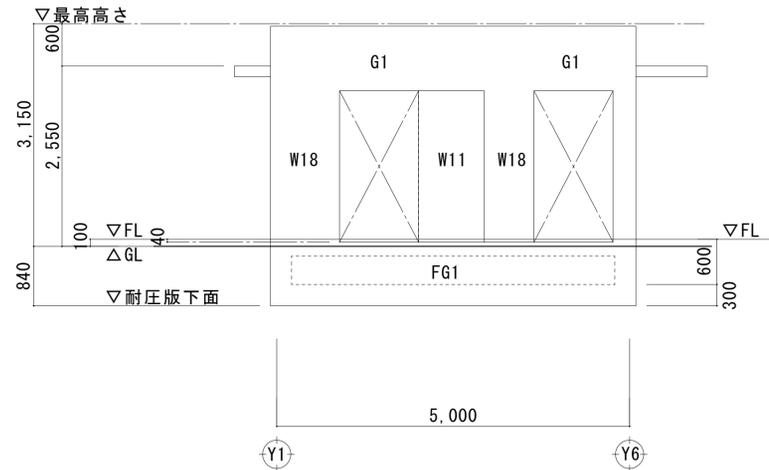
ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月	令和3年12月
承認	中込 担当 向山 作図 向山

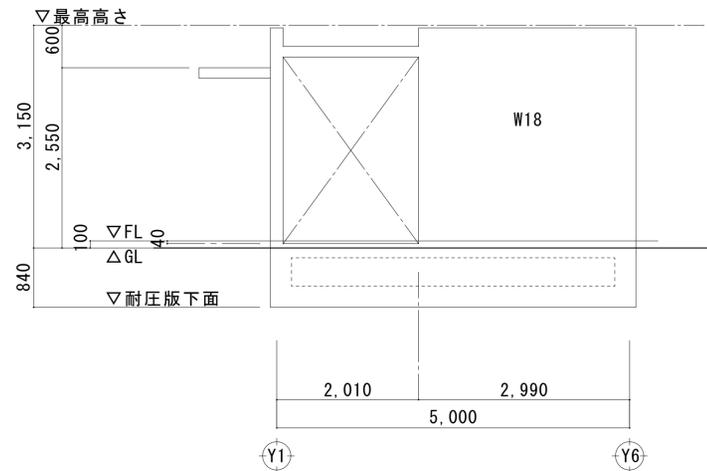
工事名称
緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

図面名称
屋外トイレ 基礎及びピット伏図、1階床梁伏図

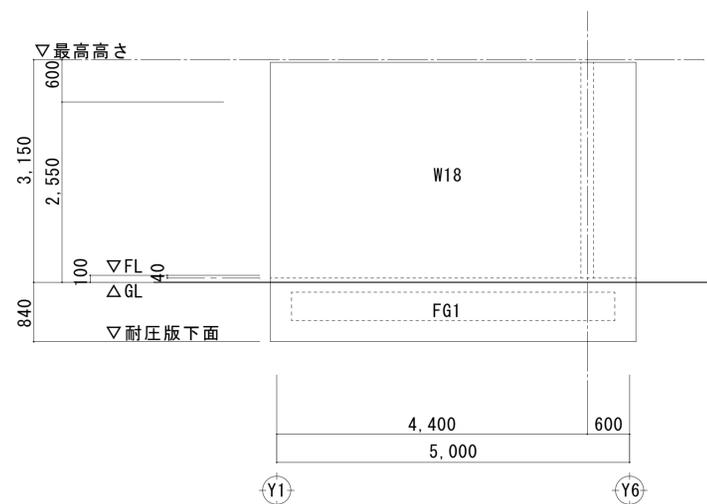
縮尺	図面番号
A1 : 1/50 (A3 : 1/100)	ST-04



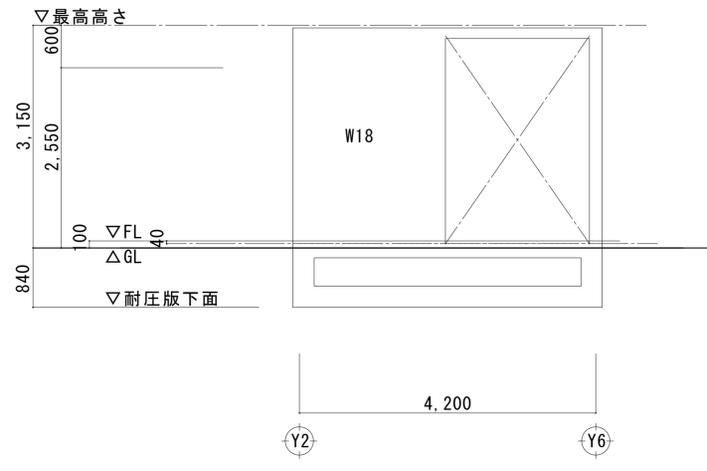
X3通軸組図



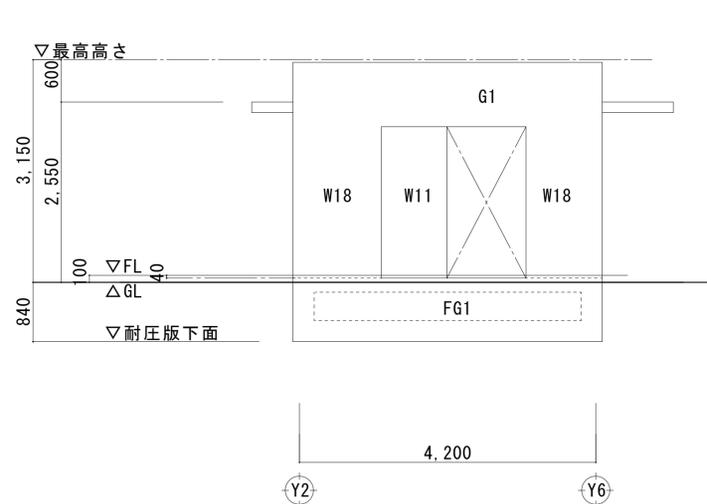
X2通軸組図



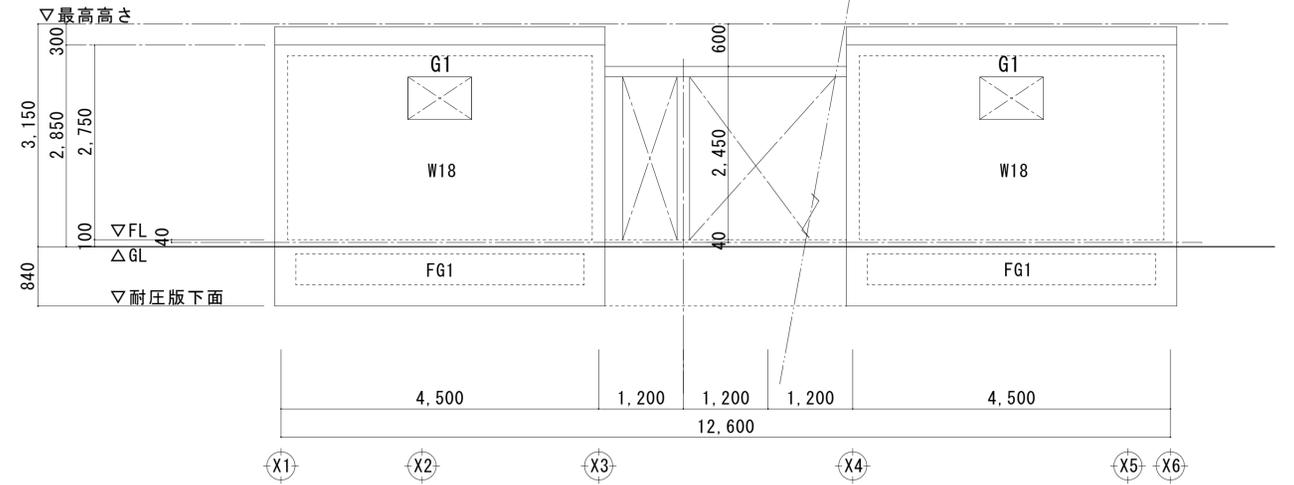
X1通軸組図



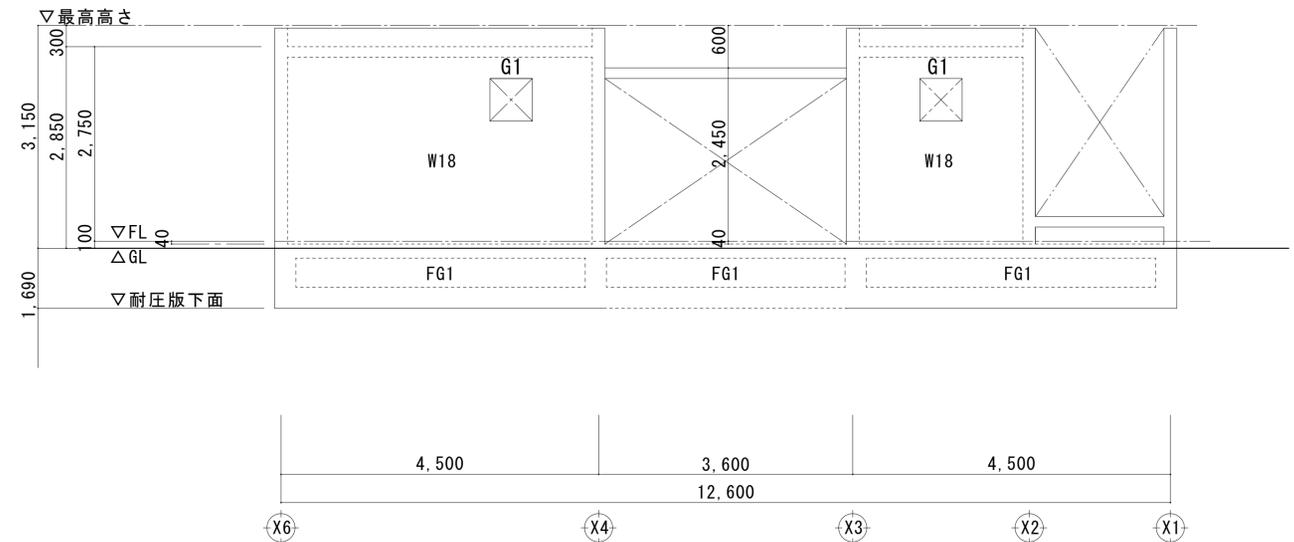
X6通軸組図



X4通軸組図



Y1~Y2通軸組図



Y6通軸組図

特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月	令和3年12月	工事名称	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事
承認	中込 担当	向山 作図	向山

図面名称	屋外トイレ 軸組図	縮尺	A1 : 1/50 (A3 : 1/100)	図面番号	ST-05
------	-----------	----	---------------------------	------	-------

壁梁断面リスト

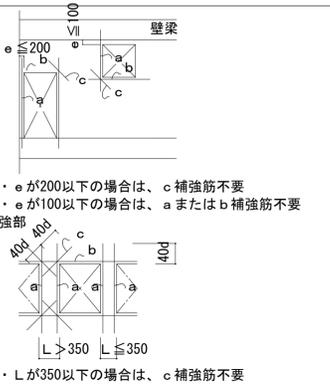
符号	G1
位置	全断面
R階	
B×D	180×450
上端筋	2-D13
下端筋	2-D13
スタラップ	D10@200
腹筋	—
備考	—

壁断面リスト S=1:30

特記なき限り下記による。
巾止筋：D10@1,000

符号	W11	W18
断面		
横筋	D10@200シングル	D10@200ダブル
縦筋	D10@200シングル	D10@200ダブル
開口補強筋 (曲げ補強筋)	—	2-D13
ヨコ	—	2-D13
斜メ	—	2-D13
備考	—	—

開口補強要領



床版リスト

符号	版厚	位置	短辺(主筋) 方向		長辺(配力筋) 方向		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S15	150	上筋	D13@150	←	D13@200	←	両端固定版で設計
		下筋	D10@150	←	D10@200	←	
S20	200	上筋	D13@200	←	D13@200	←	
		下筋	D13@200	←	D13@200	←	
FS30	300	上筋	D13@150	←	D13@150	←	
		下筋	D13@150	←	D13@150	←	
S15A	150	上筋	D13@200	←	D13@200	←	CS15取合い側は、「S15A-CS15」配筋とする
		下筋	D10@200	←	D10@200	←	
S15B	150	上筋	D10@200	←	D10@200	←	
		下筋	D10@200	←	D10@200	←	
CS15	150	上筋	D13@200	←	D10@200	←	配筋は右図による
		下筋	D10@200	←	D10@200	←	

特記事項

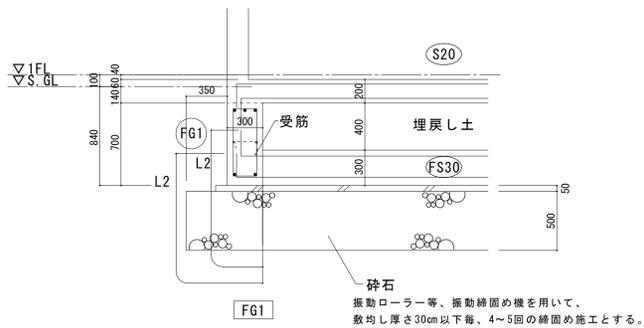
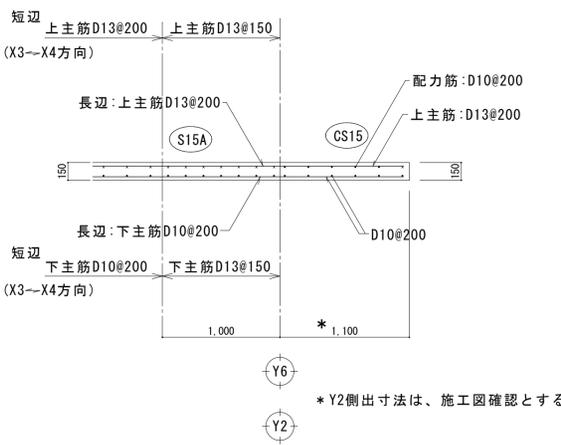
- スラブの主筋方向は伏図の符号方向による
- 配筋要領は、標準図に倣う

S* : | * : —

*はスラブ番号

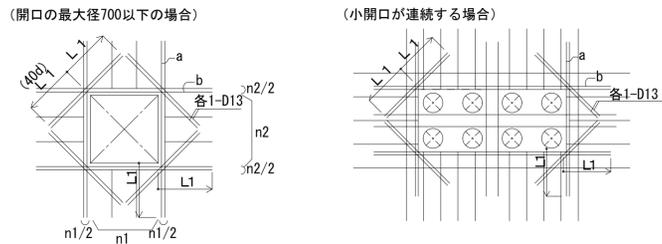
S15A-CS15 配筋

間仕切壁 スリット部配筋



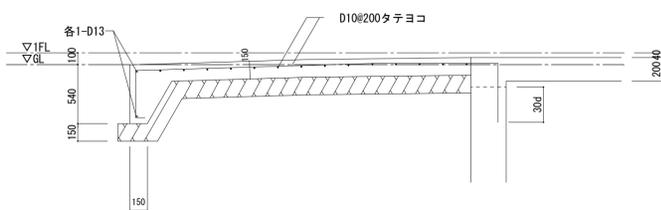
上主筋 3-D19
下主筋 2-D19
STP D10@200
腹筋 2-D13
幅止め筋 D10@1000

床スラブの開口補強

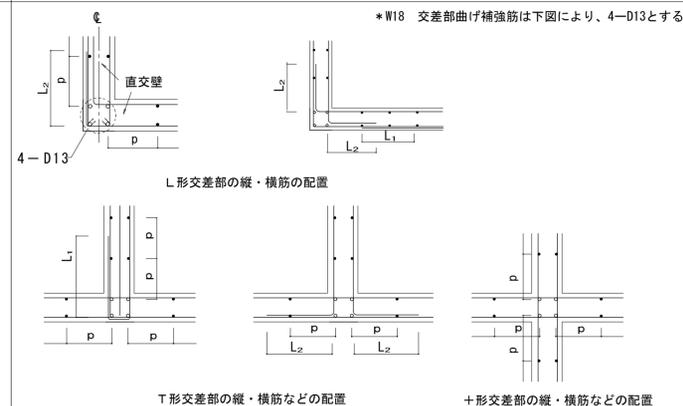


- a, b補強筋は上端筋・下端筋共それぞれ開口で切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強する。
- 開口寸法700を超えた場合は係員の指示による。
- 小開口(175φ以下)でスラブ筋を切断しない場合はナメ筋(1-D13)のみ配筋する。(かぶり確保)
- 小開口(175φ以下)が連続して空く場合、縦横補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同量の鉄筋で開口を避けて補強する。

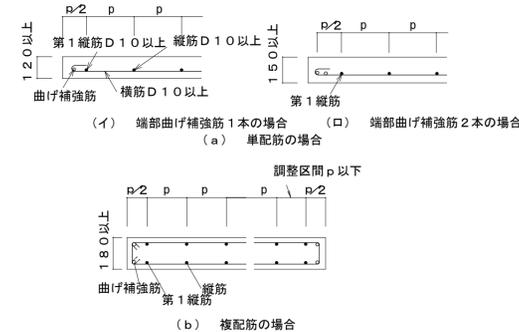
土間コンクリート配筋



耐力壁交差部曲げ補強筋



一般耐力壁の縦・横筋の配置、壁端部



特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体

一級建築士 第 217345 号 中込 秀

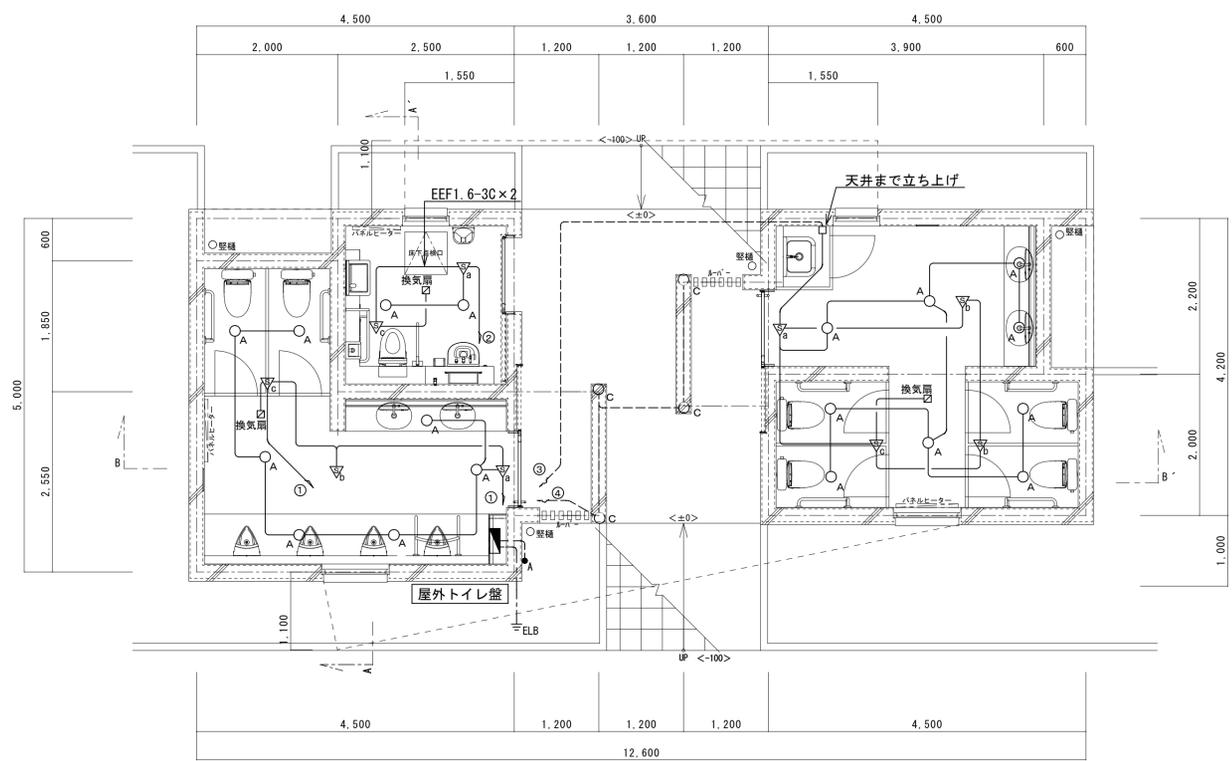
設計年月	令和3年12月
承認	中込 担当 向山 作図 向山

工事名称
緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

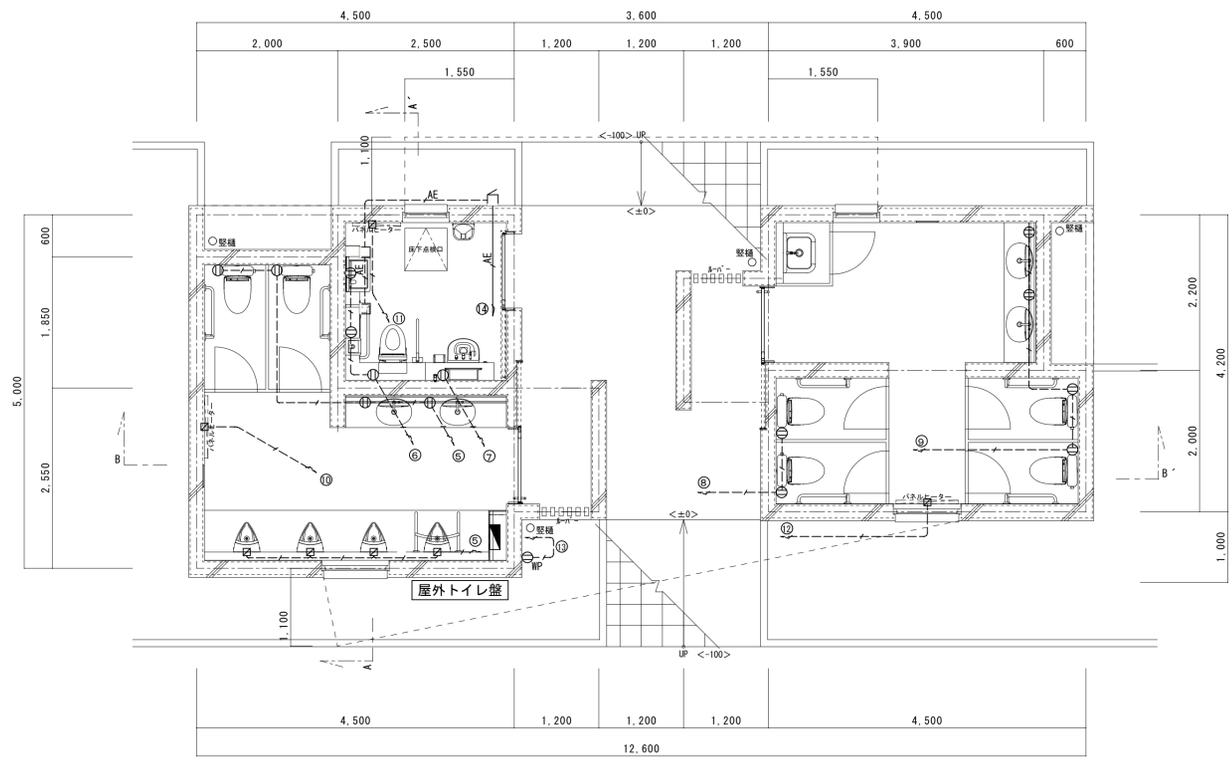
図面名称
屋外トイレ 梁断面リスト・床版リスト・雑詳細図

縮尺
A1 : 1/30
A3 : 1/60

図面番号
ST-06



電灯設備図 S=1/50



コンセント・弱電図 S=1/50

[屋外トイレ盤負荷表] ※盤は支給品

盤名称	電気方式	回路番号	電圧		ブレーカ		負荷名	容量 [VA]	リモコン	タイマー	備考
			200V	100V	MCCB	ELCB					
屋外トイレ盤	AC 1Φ3W										
埋込型	100/200										
鋼板製											
外形	W580×H880×D150										
仕上	2.5Y9/1										
	MCCB3P3E										
	50AF/40AT										
	CET22' -3C										
接地端子 (ED, ELB)											
負荷合計 [VA]											
								9,896			

[凡例] 分岐回路はJIS協約型1Pモジュールとする
 ELCB ELCB2P2E 30AF/20AT
 TM タイマー 停電補償付 DT タイムタイマー

[照明器具姿図]

A	C
LEDダウンライト 150形 ※支給品	LEDポーチライト 40形電球1灯器具相当 ※支給品
XND1569WNLE9 (パナソニック製) LRS1-13相当品	LGW85080F (パナソニック製)
拡散タイプ 電圧100-242V、埋込穴φ150 光源寿命40000時間 (光束維持率85%)	器具光束356lm、消費電力5W、電圧100V 壁直付型、拡散タイプ、防雨型、ツマミネジ方式 カバー: アクリル (乳白)

[凡例]

・特記なき配線種別は下記による。

記号	配線・配管	備考
——	天井内コログン配線	
----	打込配管配線	
----	地中埋設配管配線	

・特記なき配管配線は下記による。()内は配線保護部分電線管とする。

記号	配線・配管	備考
——	EM- EEF 1.6 -3C (PF22)	
----	EM- IE 1.6 ×3 (PF16)	
----	EM- IE 2.0 ×1 (PF16)	
----	EM- IE 2.0 ×3 (PF16)	
——	EM- AE 1.2 -2C (PF16)	

[凡例] ※図中の特記なき記号は下記による。

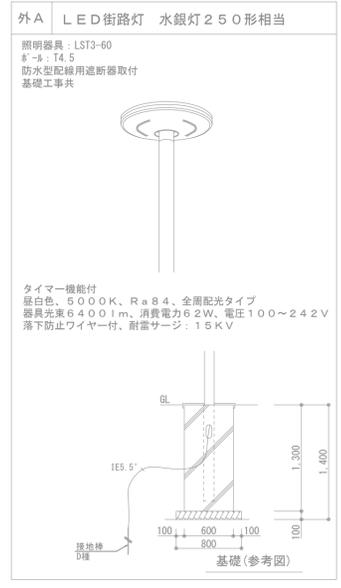
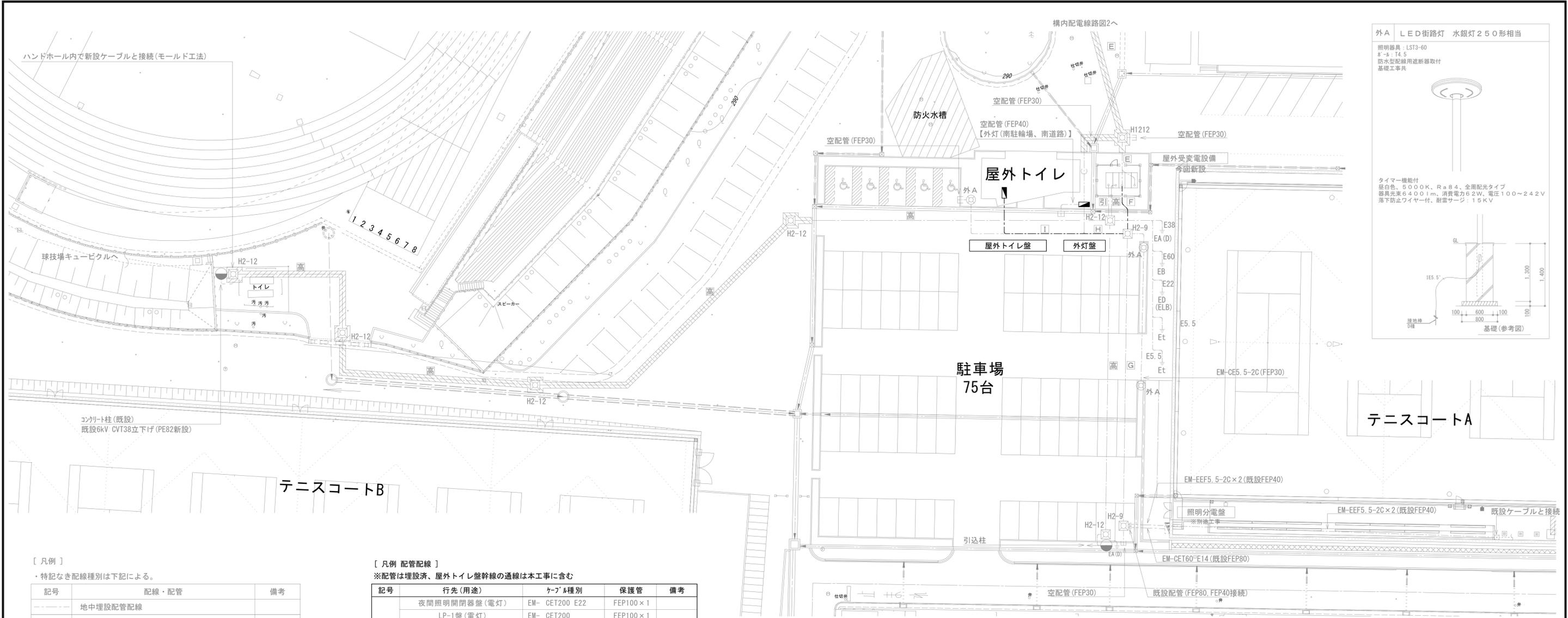
記号	仕様	備考
▽ _a	人感センサー親機 8A 明るさセンサー付 天井設置型	※支給品
▽ _b	人感センサー子機 天井設置型	※支給品
▽ _c	人感センサー子機 換気扇接続端子付 天井設置型	※支給品
● _A	自動点滅器 3A 点灯照度調整型 (EE44139相当品)	※支給品
□	フラッシュプレート SUS製	
⊖	コンセント2P15A×2 接地極・接地端子 金属プレート	
⌈	警報ランプ付ブザー AC/DC12V型 (EA5524相当品)	※支給品
□	非常押しボタン ON保持型 ひも付き	※支給品
⊠	電源接続	

特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
 一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月: 令和 年 月	工事名称
承認 中込 担当 尾川 作 尾川	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設 (建築主体) 工事

図面名称	縮尺	図面番号
屋外トイレ 電気設備図	A1: 1/50 (A3: 1/100)	E-01



ハンドホール内で新設ケーブルと接続(モールド工法)

球技場キュービクルへ

コンクリート柱(既設)
 既設6kV CVT38立下げ(PE82新設)

[凡例]
 ・特記なき配線種別は下記による。

記号	配線・配管	備考
---	地中埋設配管配線	
E----	地中埋設配管 地上突出し1m	

[凡例] ※図中の特記なき記号は下記による。

記号	仕様	備考
外A	外灯 LED250形相当 全周型 LST3-60 鋼製ポールH4.5 防水開閉器 基礎600×600×H1300	
H2-9	ハンドホール 900×900×H900 R8K鋼鉄製ふた	
H2-12	ハンドホール 900×900×H1200 R8K鋼鉄製ふた	
H1212	ハンドホール 1200×1200×H1200 R8K鋼鉄製ふた	
斜線	コンクリート舗装 撤去・復旧	
点線	アスファルト舗装 撤去・復旧	

[凡例 配管配線]
 ※配管は埋設済、屋外トイレ盤幹線の通線は本工事に含む

記号	行先(用途)	ケーブル種別	保護管	備考
E	夜間照明開閉器盤(電灯)	EM-CET200 E22	FEP100×1	
	LP-1盤(電灯)	EM-CET200	FEP100×1	
	LP-1盤(動力)	EM-CET100	FEP80×1	
	管理事務所開閉器盤(電灯)	EM-CET60 E8	FEP100×1	
	管理事務所開閉器盤(動力)	EM-CET60	FEP100×1	
F	予備	-	FEP100×1	
	テニスコートA	EM-CET60 E14	FEP80×1	
	予備(テニスコートB)	-	FEP50×1	
	屋外トイレ	EM-CET22	FEP65×1	
	外灯盤	EM-CE8-3C	FEP65×1	
G	倉庫A	EM-CE5.5-2C	FEP80×1	
	予備	-	FEP80×1	
	テニスコートA	EM-CET60E14	FEP80×1	
	倉庫A	EM-CE5.5-2C	FEP40×1	
	外灯(駐輪場A)	EM-CE5.5-2C	FEP30×1	
H	予備(外灯(南道路A))	-	FEP80×1	
	予備	-	FEP80×1	
	外灯盤	EM-CE8-3C E5.5	FEP50×1	
	外灯(中央駐車場)	EM-CE5.5-2C×2	FEP30×2	
	屋外トイレ	EM-CET22	FEP50×1	
I	予備	-	FEP80×1	
	屋外トイレ	EM-CET22	FEP50×1	
	外灯(中央駐車場)	EM-CE5.5-2C	FEP30×1	
	予備	-	FEP80×1	
	予備	-	FEP80×1	
高	高圧構内線路	EM-6kV CET38	FEP80×1	
	A(D)種接地	EM-1E38		
	B種接地	EM-1E60	FEP50×1	
	D(ELB)種接地	EM-1E22		
	試験用接地	EM-1E5.5×2		
高	予備	-	FEP80×1	
	高圧構内線路	EM-6kV CET38	FEP80×1	
高	予備	-	FEP80×1	

[外灯盤負荷表] ※盤は支給品、設置及び結線は本工事に含む

盤名称 盤型式	電気方式 配線方式	分岐回路						備考		
		回路 番号	電圧		ブレーカ		負荷名		容量 [VA]	リモコン
幹線サイズ	合計負荷容量		200V	100V	MCCB	ELCB				
外灯盤 自立型屋外用 鋼板製 外形 W600×H1200×D250 仕上色 5Y7/1	AC 1Φ3W 100/200	1	○			○	駐輪場A	116		STM
CET8-3C E2.0×2 接地端子 (ED.ELB)	MCCB3P3E 50AF/30AT 負荷合計[VA] 1,392	2	○			○	駐輪場B	116		STM
		3	○			○	南道路A	348		STM
		4	○			○	南道路B	290		STM
		5	○			○	事務所南駐車場	232		STM
		6	○			○	中央駐車場	290		STM
		7	○			○	予備			
		8	○			○	予備			

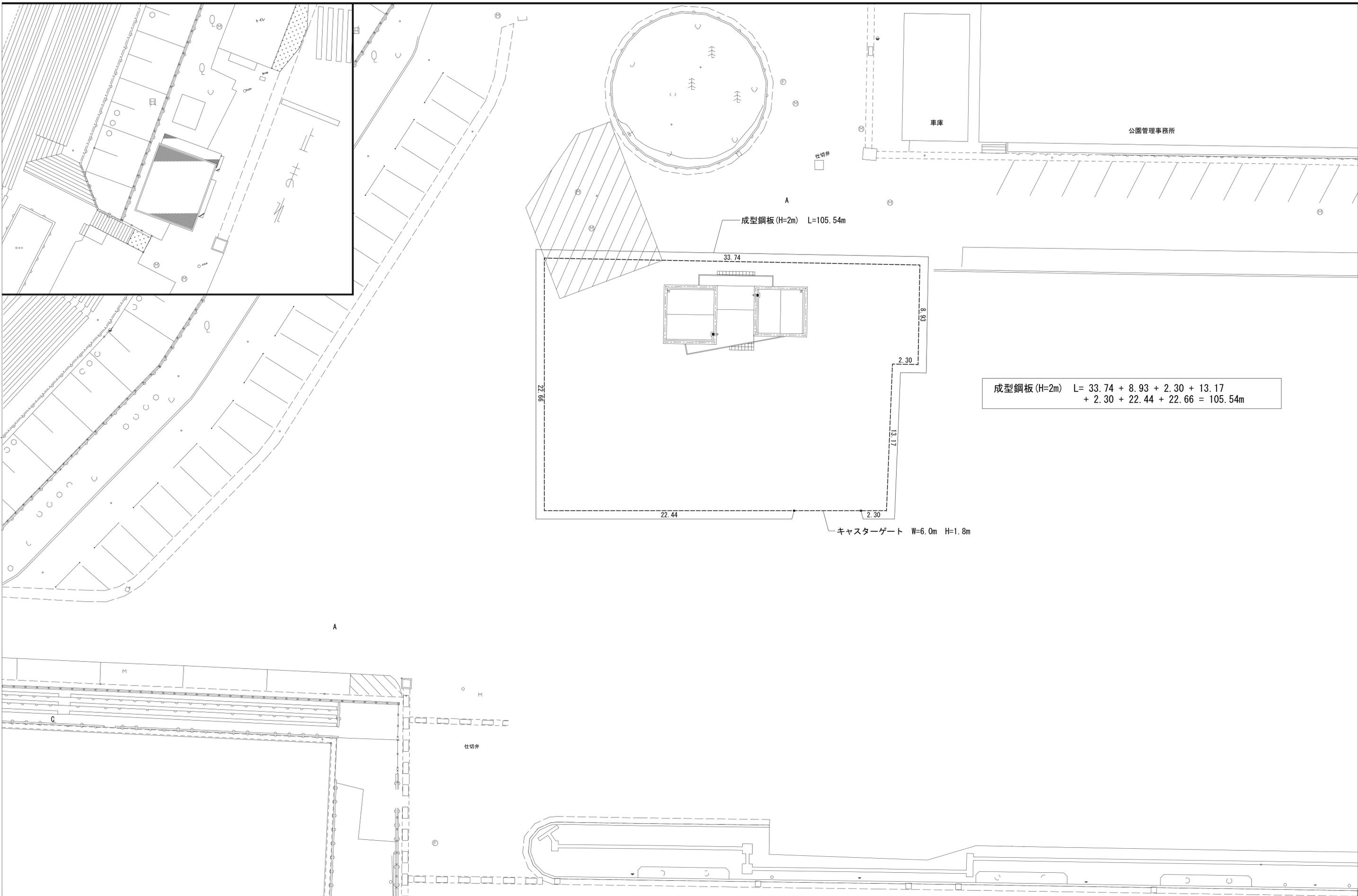
[凡例]
 分岐回路はJIS協約型1Pεジュールとする
 ELCB ELCB2P2E 30AF/20AT
 STM ソーラータイマー停電補償付

特記事項	変更事項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
 一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月: 令和 年 月	工事名称
承認 中込 担当 尾川 作 尾川	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

図面名称	縮尺	図面番号
構内配電線路図	A1: 1/250 (A3: 1/500)	E-02



特 記 事 項	変 更 事 項

ディナック中日本・地建工業 設計業務共同企業体
一級建築士 第 217345 号 中込 秀

設計年月: 令和3年12月	工事名称
承認 中込 担当 向山 作 向山	緑が丘スポーツ公園屋外トイレ建設(建築主体)工事

図面名称	縮尺	図面番号
仮設計画図	A1 : 1/150 (A3 : 1/300)	P-01